

自己点検・評価報告書

—平成 29 年度—

文 化 学 園 大 学
文化学園大学短期大学部

『平成 29 年度自己点検・評価報告書』 作成にあたって

本学では、自律的かつ全学的な自己点検・評価活動の一つとして、平成 18 年度から本学独自の自己点検・評価検討機関を設置し、各検討機関において「本年度の課題」「取り組みの結果と点検・評価」「次年度への課題」を年次報告書としてとりまとめてまいりました。平成 29 年度は、文化学園大学・短期大学部の 42 検討機関、文化学園本部の 4 検討機関において、公益財団法人日本高等教育評価機構（以下「評価機構」）が定める大学評価基準に準じて自己点検・評価をした結果をとりまとめました。

なお、文化学園大学と文化学園大学短期大学部は、平成 29 年度に評価機構による大学機関別認証評価を同時受審いたしました。その結果、両機関とも評価機構が定める大学評価基準に適合していると認定されました。評価機構に提出した「自己点検評価書」は本学ホームページ及び評価機構のホームページにて、また、評価結果が記載された「評価報告書」は評価機構のホームページにて公表されています。

大学の自己点検・評価活動は、点検・評価の結果に基づいて自律的な改善がなされることに目的があります。こうした PDCA サイクルが有効に機能することによって、はじめて大学の教育の内部質保証が継続的に可能になると考えております。つきましては、本報告書を学内の各組織における改善の指針として、有効に活用していただければ幸いです。

全学自己点検・評価委員会では、本学の教育の内部質保証を推進するために、今後とも全学的に継続して自己点検・評価活動に取り組んでまいりたいと考えております。つきましては、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

本報告書の作成にあたり、ご尽力いただきました関係各位に深謝申し上げます。

平成 30 年 10 月 1 日

全学自己点検・評価委員会

本学の自己点検・評価報告書 一覧

1. 『文化女子大学の現状と課題 自己点検・評価報告書 平成 13 年度（2001）』
2. 『文化女子大学 自己評価報告書 平成 17 年度』
3. 『文化女子大学 文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成 18 年度—』
4. 『文化女子大学 文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成 19 年度—』
5. 『文化女子大学 文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成 20 年度—』
6. 『文化女子大学 文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成 21 年度—』
7. 『文化女子大学短期大学部 自己評価報告書 平成 22 年度』
8. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成 22 年度—』
9. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成 23 年度—』
10. 『文化学園大学 自己点検評価書 平成 24 年度』
11. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成 24 年度—』
12. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成 25 年度—』
13. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成 26 年度—』
14. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成 27 年度—』
15. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書—平成 28 年度—』
16. 『文化学園大学 自己点検評価書 平成 29 年度』
17. 『文化学園大学短期大学部 自己点検評価書 平成 29 年度』

目 次

『平成 29 年度自己点検・評価報告書』作成にあたって

協議・審議機関

文化学園大学 文化学園大学短期大学部 大学運営会議・将来構想委員会	6
全学自己点検・評価委員会	8
全学 FD 委員会	10

協議機関

服装学部協議会	14
造形学部協議会	16
学部共通科目協議会	18
現代文化学部協議会	20
短期大学部協議会	22

審議機関

大学院研究科委員会	
生活環境学研究科委員会	26
国際文化研究科委員会	28
教授会	
文化学園大学・文化学園大学短期大学部合同教授会開催記録	30
文化学園大学短期大学部教授会開催記録	31
常置委員会	
教務委員会	32
学生支援委員会	34
研究委員会	36
入試対策委員会	38
就職委員会	40
特別委員会	
研究倫理委員会	42
研究活動不正防止委員会	43
ハラスメント防止委員会	44
学部専門委員会	
文化・語学研修専門委員会	45
衣料管理士課程専門委員会	46
建築・インテリア系資格専門委員会	48
日本語教員養成課程専門委員会	50
紀要編集専門委員会	52
課程専門委員会	
教職課程専門委員会	54
司書課程専門委員会	56
学芸員課程専門委員会	58
国際交流委員会	59

附属機関等

文化学園大学図書館	62
文化学園服飾博物館	64
文化学園国際交流センター	65
文化学園知財センター	66
USR 推進室	68
文化学園ファッションリソースセンター	70

共同研究拠点	
文化ファッション研究機構	72
附属研究所	
文化・衣環境学研究所	76
文化・住環境学研究所	78
文化・ファッションテキスタイル研究所	80
和装文化研究所	81
事務局	
研究協力室	84
全学SD委員会	86
学園本部	
学園本部総務部	88
学園本部施設部	90
学園本部経理部	91
IT委員会(IT戦略室)	92
附：委員会委員一覧表	附2
学部・学科・コース編成	附4
入学定員・収容定員・在籍学生数	附5
全学自己点検・評価委員会委員名簿	附6

協議・審議機関

■ 検討組織名：文化学園大学・文化学園大学短期大学部 大学運営会議・将来構想委員会

報告者：濱田 勝宏

提出日：平成 30 年 4 月 2 日

<p>本年度の課題 (平成 29 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「学園総合企画委員会」の提言のうち、「教育改革」については、2つの委員会、「教育改革検討会」、「質保証検討会」を発足させ、具体的検討を引き続き行う。【共】 2. 「実質的な職業教育を行う新たな高等教育機関」については、短期大学部を中心に「設置基準」の公布を待って検討することとする。【短】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「教育改革検討会」を中心に、文化学園創立 100 周年（2022 年）に向けた本学の中期計画を検討した。6 月末までに各学部学科、研究科で案を作成し、同検討会でまとめたものを 7 月の大学運営会議・将来構想委員会に提出。承認を得たうえで理事長へ答申した。その後、さらに検討を加え、年次計画を付したものを作成し、12 月に臨時大学運営会議・将来構想委員会を開催し、改めて承認を得て、理事長あてに提出した。理事長は直轄である学園総合企画室に付託し、同企画室は学園内 4 校（本学・文化服装学院・文化ファッション大学院大学・文化外国語専門学校）の中期計画概念図を作成し、平成 30 年度から全学園で中期計画に沿って取り組むこととした。 「質保証検討会」では本学の教育の成果の可視化を目指し、ラーニング・ポートフォリオ（以下「LP」）の実施に取り組んだ。他大学等の事例も参考に、本学らしい LP とすべく、平成 29 年度は各学部学科で状況に応じた方法で試行し、成果や課題を持ち寄った。平成 30 年度から本格導入する。また、LP の実施については、9 月以降は「教育改革検討会」と「質保証検討会」を合同開催し、両検討会で検討した。 2. 専門職大学・専門職短期大学制度への対応については東京都 23 区内では専門学校の定数減の場合のみ認められる等の条件に鑑みて、学園全体として検討することとした。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への課題 (平成 30 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文化学園創立 100 周年に向けた本学の中期計画を着実に実行する。【共】 2. LP を本格導入する。導入に当たっては、本学の学習成果の可視化が実現するよう、着実に実施する。【共】 3. 入学定員を満たすだけの学生確保はできたが、推薦入学者の確保など、問題点の検討と対策等を具体化する。【共】 4. 短期大学部の定員に見合った学生確保の方策を検討する。【短】

■検討組織名：文化学園大学・文化学園大学短期大学部 大学運営会議・将来構想委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成29年5月30日	<p>大学を取り巻く状況について 学長より説明。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 認証評価受審について 大学と短期大学部同時受審の進捗状況（書類の提出、実地調査等）について、認証評価推進委員長より報告と連絡。 2. 教育改革検討会報告 副学長より検討課題について報告 <ol style="list-style-type: none"> (1) 学部学科の再編成について (2) 適正な教員数の確保及び維持について (3) 短期大学部を専門職短期大学に移行するか (4) 教職員のモチベーションを上げるためのビジョン (5) グローバリゼーションへの対応（英語教育、留学生、海外留学、外国人教員の採用等） 3. 総合教養検討会報告 服装学部、造形学部、現代文化学部、短期大学部の総合教養科目の在り方や問題点について、学部共通科目長より報告。 4. 質保証検討会報告 LPの試行状況について、事務局長より報告。
平成29年7月25日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学園創立100周年に向けた中期計画について 大学、短期大学部の中期計画について、各学部長、主任教授等から説明。
平成29年10月17日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 私立大学をとりまく状況について 理事長より説明。 2. 大学・短期大学機関別認証評価における実地調査等について 認証評価推進委員長より、認証評価の進捗状況に関する報告と実地調査に関することの連絡。 3. LPの平成29年度前期の試行状況について 各学部から報告。 4. 総合教養科目カリキュラム改定について 今年度、総合教養科目の改定に取り組んだ成果について、主任教授より報告。 5. その他 <ol style="list-style-type: none"> (1) 文化ファッション大学院大学と、文化外国語専門学校の学生募集状況について (2) 文化学園創立100周年に向けた記念事業等について (3) 文化学園創立100周年に向けた中期計画について (4) 文化祭準備日の進行状況等の確認について
平成29年12月20日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文化学園創立100周年に向けた文化学園大学・文化学園大学短期大学部の中期計画について 7月に策定した中期計画を、さらに検討したものについて学長、事務局長より報告。また、現代文化学部の再編成について経過報告。
平成30年2月20日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成30年度事業計画について 理事会へ提出する計画内容について報告。 2. 平成30年度から導入するLPについて 各学部、短期大学部から後期の施行状況に関する報告。 3. 大学院の教育活動について 生活環境学研究科長から平成29年度の課題、取り組みの結果と点検・評価、平成30年度の課題について報告。
平成30年3月20日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 3つのポリシーについて 各学部学科で現行ポリシーを見直した結果、平成30年度は変更しないこととした。 2. 平成30年度におけるLPの実施について 各学部学科から資料が配布され、具体的な実施方法について報告。 3. 各学科の中期計画について 各学科から資料が配布され、学科ごとの今後5カ年の中期計画を発表。 4. 学費改定について 平成30年度の改定について承認。 5. 障害学生支援について 今後の学園全体の障害学生への支援について経過報告。 6. 大学教育再生加速プログラム（AP）の中間評価結果について 7. 学生の授業アンケート結果のフィードバックについて 授業アンケート結果を有効に活用すべく、平成30年度からの取り組みについて報告。 学生から高評価の教員の授業見学、改善計画が必要と思われる教員へのフィードバック等

■ 検討組織名：全学自己点検・評価委員会

報告者：渡邊 秀俊

提出日：平成 30 年 4 月 2 日

<p>本年度の課題 (平成 29 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書－平成28年度－』のまとめと公表 平成 29 年度の機関別認証評価（大学・短期大学部同時受審）の支援 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書－平成29年度－』の作成【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書－平成28年度－』のまとめと公表 文化学園大学・同短期大学部の 42 検討機関、文化学園本部の 4 検討機関による自己点検・評価結果をまとめた自己点検・評価報告書を発行した。本報告書は 6 月末に日本高等教育評価機構に提出する自己点検評価書のエビデンスとなるため、発行を例年よりも 1 カ月前倒して 6 月 1 日付の発行とした。本報告書は学内及び関連部署へ PDF で配信するとともに、本学ホームページにおいて外部へも公表した。これにより、『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書－平成28年度－』のまとめと公表については、滞りなく遂行されたものと考ええる。 平成 29 年度の機関別認証評価（大学・短期大学部同時受審）の支援 機関別認証評価（大学・短期大学部同時受審）のための自己点検評価書等の書類が 6 月末に日本高等教育評価機構に提出された。その後、日本高等教育評価機構からの書面質問と本学からの回答、実地調査（平成29年11月16日・17日）がなされた。これらの過程における基準 4（自己点検・評価）に関する質問と回答は、本委員会内での情報共有化を図り、平成 30 年度以降の本学の自己点検・評価活動の見直しに向けての参考資料とした。また、平成 30 年度からは、日本高等教育評価機構による認証評価が第 3 期目となり、内部質保障を重視した評価基準に変更されることを受けて、今後の本学の自己点検・評価報告書の執筆体制についても平成 30 年度は見直しを図ることとした。受審の結果、評価報告書において、「基準 4 については「自己点検評価書には、学校法人全体の視野で検討・改善すべき事項も含まれることから、『文化学園大学自己点検・評価規程』第 10 条に則り、理事会の確認を経た上で公表することが望まれる。」という参考意見をいただいた。この点については学園全体として改善すべき課題である。なお、本委員会の委員長が認証評価のリエゾンオフィサー（以下「L0」）を兼務することにより、学内の認証評価推進委員会と全学自己点検・評価委員会との連携を図ることができた。また、評価の結果、大学、短期大学部ともに「適合」していることが認定された。これらのことから、本委員会としても、機関別認証評価の支援については一定の成果があったものと考ええる。 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書－平成 29 年度－』の作成 学園内の自己点検・評価の検討機関の見直しと、提出された原稿を全学自己点検・評価委員会として確認・精査する組織体制の見直しを行った。あわせて、自己点検・評価報告書の様式及び執筆要領、スケジュール等を再検討した。その結果、日本高等教育評価機構の評価基準及び評価項目を意識した執筆を喚起するために、執筆者への添付資料として「自己点検・評価検討機関と認証評価の基準との対応」と「委員会の担当領域と認証評価の基準項目との関連」を新規に加えることとした。また、原稿提出締め切りを平成 30 年 4 月 2 日とし、平成 30 年 1 月の教授会にて執筆を依頼した。本学の自己点検・評価の実施体制については、毎年度、組織・運営体制の変化に対応するように見直しが行われているものと考ええる。【共】
<p>次年度への 課題 (平成 30 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書－平成29年度－』のまとめと公表 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書－平成30年度－』の見直しと作成【共】

■検討組織名：全学自己点検・評価委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成29年4月25日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書－平成28年度－』の原稿の確認（軽微な修正報告、今後のスケジュールの確認） 2. その他（機関別認証評価の同時受審に向けた進捗状況の確認）
平成29年10月24日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成29年度認証評価の同時受審について（実地調査の担当とスケジュールの確認） 2. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書－平成28年度－』完成版の確認（平成29年6月にPDFにて学内に配信） 3. 今後の自己点検・評価体制について（大学、短期大学部の「平成29年度機関別認証評価書面質問及び依頼事項」の基準4における質問と回答、平成30年度以降の自己点検・評価報告書の見直し事項） 4. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書－平成29年度－』の作成方法について（添付資料の確認） 5. その他（日本高等教育評価機構の平成30年度からの評価基準の変更点及び追加点の確認）
平成29年12月19日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書－平成29年度－』作成について（執筆要領、原稿依頼先及び添付資料の確認、作業スケジュールの確認） 2. 「平成29年度機関別認証評価 実地調査」における基準4における質問と回答

■ 検討組織名：全学FD委員会

報告者：星野 茂樹

提出日：平成30年4月2日

<p>本年度の課題 (平成29年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 平成29年度「全学FD・SD研修会」、「秋の分科会」及び「FD教職員による授業見学ウィーク」の実施 平成30年度「全学FD・SD研修会」「分科会」「FD教職員による授業見学ウィーク」等の企画 平成29年度の「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」の実施方法の改善と試行的実施。 他大学、団体等の「FD活動」に関する情報収集とレクチャー等への参加を引き続き行う。 委員会活動における具体的提案の選択とその具体策の検討と試行を引き続き行う。【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 平成29年度「全学FD・SD研修会」の実施については、非常勤講師の参加も得て、4月4日に行った。伊藤俊徳氏による、「組織と個人で作ろう新しい時代の教育」と題し、個人力と組織力の有効な動き方について講演を行った。また、9月5日には、全教職員による「秋の分科会」(テーマ:初年次教育のあり方)を実施し教職員の相互関係や教育力の強化につながる企画とした。さらに同報告書を12月に配布した。また、昨年同様、教職員による相互の授業見学「FD教職員による授業見学ウィーク」を前後期にそれぞれ2週間ずつ(前期5月22日～6月3日、後期10月16日～28日)実施、参加者アンケートも行った。 平成30年度「全学FD・SD研修会」の企画は、昨年と同様に開催方針とテーマ等を検討した。平成30年度も2部構成とし、①樋口喜信氏による「イマドキの学生の初年次教育を考える」というテーマでの講演、②学長、各学部長、事務局長より平成30年度の方針解説を行うこととした。これらの企画には、昨年同様、非常勤講師の参加をお願いすることとした。また同日、分科会(常勤教職員のみ)を行い、教職員の一体感を持った教育力強化につながる企画とした。 また、「FD教職員による授業見学ウィーク」は前年度からの改善策を検討し、実施期間を前後期2週間(前期7月2日～7月14日、後期10月8日～10月2日)とした。 平成29年度の「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」の実施については、昨年同様、全学年に対して行った。昨年に引き続き、電子メールと「スマートフォン」を使用した集計方法を進化させて行った。また、昨年の検討内容から、アンケートの質問内容についても、実習、演習と講義系とに分類して行った。内容的には精度は上がったと考えられるが、実行上ではさらなる作業量の増加の問題などもあり、学内NET環境の問題も含め、今後も検討と改善が必要である。 他大学、団体等の「FD活動」に関する継続した情報収集については、2017年度第23回FDフォーラム(於:京都大学コンソーシアム京都主催)に参加し、他大学発行のFD関連レポートの収集及び交流を図った。その後、委員会において報告情報の共有化を行った。 委員会活動における具体的提案の選択とその具体策の検討と試行については、授業見学への参加人数増加のため、また、学生による授業アンケートの結果をより有効に利用し、本学の教育・研究をさらに活発化するために、「FD教職員による授業見学ウィーク」と「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」をリンクさせる企画を立案し、学部長会へ提案した。また、授業改善アンケートの結果は、従来のように各科目担当教員にフィードバックするのみでなく、本学の改革・改善に繋げるための仕組み(顕彰や指導)を検討し、学部長会へ提案した。これらの取り組みは平成30年度からとなるが、指導が必要と考えられる教員へは、平成30年度の授業に反映させるため、平成29年度中に取り組みよう、学部長会へあわせて依頼した。 【共】
<p>次年度への 課題 (平成30年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 平成30年度「全学FD・SD研修会」、「秋の分科会」及び「FD授業見学ウィーク」の実施 平成31年度「全学FD・SD研修会」「分科会」「授業見学ウィーク」等の企画立案。 平成31年度の「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」実施方法の改善と試行的実施。 他大学、団体等の「FD活動」に関する情報収集とレクチャー等への参加を引き続き行う。 委員会活動における具体的提案の選択とその具体策の検討、試行を引き続き行う。【共】

■検討組織名：全学FD委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成29年4月4日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成29年度全学FD・SD研修会、分科会の反省 2. 平成29年度「FD教職員による授業見学ウィーク」について報告 3. 第22回京都FDフォーラムについて報告
平成29年5月9日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成29年度全学FD研修会秋の分科会のテーマについて検討 2. 平成29年度「FD教職員による授業見学ウィーク」について周知方法と、内容、時期の決定 3. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」の集計結果の取扱いの決定と、これまでの問題点への改善策の検討
平成29年6月13日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成29年度全学FD研修会秋の分科会のテーマについて検討 2. 平成29年度「FD教職員による授業見学ウィーク」の問題点の報告 3. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」の改善策、変更点の周知方法の決定
平成29年7月4日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成29年度全学FD研修会秋の分科会のテーマと実施方法の決定 2. 平成29年度前期「FD教職員による授業見学ウィーク」のアンケート結果について報告と、配信時期の決定 3. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」について報告
平成29年9月5日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成29年度全学FD・SD研修会について報告と内容の検討 2. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」について報告
平成29年11月7日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成30年度全学FD・SD研修会の講演者、内容の検討と、基本方針の確認 2. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」について報告 3. 「FD教職員による授業見学ウィーク」の報告
平成29年12月5日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成30年度全学FD・SD研修会の講演候補者との調整の進捗について報告 2. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」について問題点の報告 3. 平成30年度「FD教職員による授業見学ウィーク」の改善策の検討
平成30年1月16日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成30年度全学FD・SD研修会講演者の決定と、講演内容の調整の進捗について報告 2. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」の改善策の検討
平成30年2月13日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成30年度全学FD・SD研修会の講演内容の報告と、分科会のテーマの決定 2. 平成30年度「FD教職員による授業見学ウィーク」の改善策の検討と、実施時期の決定
平成30年3月7日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成30年度全学FD・SD研修会の内容の確認 2. 平成30年度「FD教職員による授業見学ウィーク」の改善策の決定 3. 第23回京都FDフォーラムについて報告 4. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」の結果を教員の顕彰や指導につなげることを前提とした仕組み作りの検討

協 議 機 関

<p>本年度の課題 (平成 29 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 30 年度入学生からの新学科構想実現に向けて、平成 29 年度を新カリキュラム体制の具体化と実施への準備期間と位置づけ、確実に推進する。【大】 2. 進級、卒業に関しての学生支援の充実を図るために、担任制の視点から教員の学生についての共通認識を持つこととする指導マニュアルを作成する。【大】 3. 昨年度より実施したボランティア活動（バザーを含む）を促進し、学生の視野の拡張と地域・社会との結びつきの体験を通して人間性の向上を図る。【大】 4. 入学者増加の主要策として、服装造形学科のファッションショーをオープンキャンパスと同時開催とする。また、国際化志向の高校生に対応するために服装社会学科の「グローバルファッションマネジメントコース」の海外インターンシップを推進する。【大】 5. USR 推進室の活動は、企業対応、地域対応、卒業生対応、社会環境対応に重点をおき更なる活性化及び充実に取り組む。また、平成 27 年度文部科学省大学改革推進事業大学教育再生プログラム（以下「AP 事業」）である長期学外学修プログラムを、本年度はコラボレーション科目として海外及び国内でのプログラム内容を質良ともに充実して実施する。【共】 6. グローバル化によって構造変化しているアパレル産業と社会に適応した服装学へと学問大系を最構築し、新講座として教科書を平成 27 年度より平成 32 年度までに 19 冊を発行する。平成 28 年度までに 7 冊発行済で、平成 29 年度は 2 冊の発行を目指し推進する。【大】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 30 年度入学生より新カリキュラムを設定。教務委員会等を経て実施へ結びついた。【大】 2. 学科ごとに学生支援の充実のためのマニュアルを作成した。【大】 3. ボランティア活動（バザーを含む）は実施 2 年目となる。学生の参加度が上がり、人間性の向上が見られた。【大】 4. 入学者増加の主要策について、入学案内の改定、先生方による高校訪問、ファッションショー、オープンキャンパス等多方面での情報公開活動により、両学科合わせ 100 人強の増となった。【大】 5. AP 事業である長期学外学修プログラムについて、学内外研修共に予定人数を超える学生の応募があり、実施も問題なく進めることが出来た。【共】 6. 新講座として教科書を 2 冊発行した。【大】
<p>次年度への 課題 (平成 30 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成30年度入学生からの新カリキュラム改訂について、学生の履修状況を確認しながら科目内容の検討を十分に図る。また、グローバル化を意識したカリキュラムの充実も意識する。【大】 2. 進級、卒業に関して学生支援の充実を図るために、担任制の視点から教員の学生についての共通認識を持つ指導マニュアルを作成する。【大】 4. 2020 年のオリンピックを視野に入れ、ボランティア活動（バザーを含む）の促進を図る。【大】 5. 入学者増加の策として、多方面における情報公開方法を取り入れる。(例. ファッションショーの観客動員方法として SNS 等を媒体に導入する。他) 【大】 6. USR 推進室の活動の一つである、AP 事業の長期学外学修プログラムを、平成 30 年度もコラボレーション科目として国内外での研修内容を質・良ともに充実させ実施する。【共】 7. 服装学の学問大系構築とし、新講座を平成 32 年度までに 19 冊を発行する。平成 30 年度は 2 冊の発行を目指し推進する。【大】 8. 新テキスタイル研究室（仮）設定として、3 学部と短期大学部でのテキスタイル関連科目、それに伴う機器の活用、教室との時間割の関係、指導教員の適切さ等について、ワーキンググループを立ち上げ志向する。【共】

■検討組織名：服装学部協議会

開催年月日	会議等の開催記録
平成29年4月3日	1. 新年度の確認事項（協議会の運営） 2. 平成28年度卒業研究学長賞展示案内 3. USR推進室より新年度の計画 4. 「キャリアデザイン（導入編）-フレッシュマンキャンプ-」 内容説明 5. 平成30年度実施に向けたカリキュラム改定の日程 6. 「自己の探求」プロ グラムの実施依頼
平成29年5月23日	1. 「キャリアデザイン（導入編）-フレッシュマンキャンプ-」報告 2. 服装造形学科第32回ファッ ションショー開催案内 3. 「卒業研究」学長賞展示報告 4. 平成30年度の学科構想報告（各 学科） 5. ホビーショー案内
平成29年6月20日	1. 服装造形学科第32回ファッションショー終了報告 2. 学内研究発表会の開催案内 3. USR推進室より事業計画と地域活動グループによる小学生ファッションショースタッフ体験 報告 4. 平成29年度ボランティア活動案について 5. 新カリキュラム：両学科教務委員 会へ提出するための最終検討
平成29年7月11日	1. カリキュラム改定に伴う卒業要件と資格科目等の検討 2. 学内外交流（①中国 Hong Kong Design Institute（以下「HKDI」）のインターンシップ生2人受け入れ②中国北京服装学院よ りコンテスト形式ファッションショー参加依頼③文化学園長野高校における出張授業報告④ 中国武漢紡織大学より5科目の講義依頼）
平成29年9月5日	1. 学生募集関連からA0入試受験登録人数、昨年比受験者増の経過報告 2. 学外交流（中 国浙江理工大学より講演依頼） 3. USR推進室より文化祭準備の依頼と長野県2カ所の活動 報告 4. 学内研究発表会応募者の要旨集原稿提出日程と来聴歓迎の案内
平成29年10月10日	1. 新カリキュラム：教務委員会より修正点の説明と検討要請 2. 進級要件（2年次から3年 次への進級時の最少単位数）検討依頼 3. 学内研究発表会終了報告 4. 学外交流（①中国 武漢紡織大学出張報告②北京服装学院でのファッションショー報告）5. USR推進室より（キャン ドルイブニングの案内） 6. AP事業の長期学外研修プログラムより（①国際シンポジウ ムの案内②後期プログラムの履修者追加について）説明 7. 文化祭の展示、ファッションイ ラストレーション展（以下「FIE」）、バザー等協力依頼 8. 平成29年度試行中のラーニン グ・ポートフォリオの前期分報告
平成29年11月21日	1. 進級要件について各学科より報告 2. 文化祭関係報告（展示、FIE） 3. 教務委員会： 新カリキュラムの修正点追加説明 4. USR推進室より文化祭中の活動報告と御礼 5. 学内 外交流（①ベトナム専門家派遣事業について②中国浙江理工大学での講演報告③シドニー WHITEHOUSEよりインターンシップ生受け入れ依頼 6. 文化学園創立100周年に向けて学科 ごとに年次計画の立案依頼
平成29年12月12日	1. 創立100周年への年次計画を学科ごとに発表 2. USR推進室より（①社会的基礎力 チェックの集計発表②平成30年度活動予算案を決定③エコプロダクト展案内） 3. 学内外交 流（中国HKDIでの集中講義報告） 4. 高校生用大学説明と講義ライブ（夢ナビ）への参加 報告
平成30年1月9日	1. 教務委員会：新カリキュラムの修正点再追加説明 2. 平成30年度実施のためのラー ニング・ポートフォリオについて科目等を検討依頼 3. 授業中の学生の態度についての意見 交換を次回予定 4. シラバス執筆依頼とチェックについて、メールにて配信予定の報告
平成30年2月6日	1. 平成30年度事業計画の検討依頼 2. 進級最少単位数を40から50に決定報告（学部長 より学部長会に語る） 3. 入学式終了後学生の学科集会を行うことへの協力依頼 4. 学生 の授業態度について意見交換会実施
平成30年3月5日	1. 卒業研究発表会の報告 2. 学外教育活動（台湾実践大学創立60周年記念式典出席依頼） 3. ラーニング・ポートフォリオ実施予定報告 4. USR推進室活動報告（卒業生への情報発 信に関し、SNS登録用紙への記入を願う） 5. APより2月末から3月初旬の国内外研修途中 報告

<p>本年度の課題 (平成 29 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 平成 28 年度入学生の平成 30 年度からのコース教育始動を受け、基礎造形教育とコース専門教育の連携等の諸課題に対応し、新体制移行のためのスムーズな実施に努める。 従来の「TRUNK」に代わり、SNS を活用した情報公開展開に切り替えたことを生かし、在学生の制作活動を軸に、卒業生との交流、教員の教育や研究活動等のコンテンツを常時発信可能とする体制を確立しつつ、本学部教育内容の公表につなげる。 4 年間の教育成果発表の機会である「造形学部卒業研究展」の更なる質の向上と活性化を目指し、展示内容及び展示方法、交流イベントのあり方について、室長会議を中心に検討を重ねる。 「造形学部年間教育活動報告集『BZ』」は、「卒業研究優秀作品」「プレゼンフォーラム報告」「地域・産学連携活動報告」の 3 本の柱を中心としてさらに内容の充実を検討し、学外連携先企業や就職先企業、高校訪問の際の説明資料等、本学部教育内容周知のため広く活用する。 コース、学年を超えた横断型教育を推進するため「造形学部プレゼンフォーラム」を実施し、日頃交流の少ない他の学科・コース・学年とのディスカッションにより学生の意識向上を目指すとともに、企業との連携により優秀作品の実用化も目指す。平成29年度はさらに複数部門のコンテスト実施により活性化を図り、学生の社会的視野の拡大を図る。 【大】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 新体制による 2 年生がコース進級に必修となるコース基礎教育科目の実施内容を、関連する担当教員が協議・検討の上、コース専門科目内容との連携をより強化するなど、3 年生での授業運営に支障のないよう、平成 30 年度の新体制コース専門教育始動に備えた。 造形学部ホームページ（以下「造形 HP」）は、各学科、コース担当研究室の教員が実施している SNS の一覧がわかる Web ページを作成した。また卒業研究展についてはフェイスブックページによる広告を行った。その結果、閲覧者は 18 歳から 34 歳が大半であり、外国人のアクセス数も非常に多いことがわかった。 「造形学部卒業研究展」について検討を重ねた成果として、初日の各コース学長賞受賞者 10 人による「学長賞プレゼンテーション」は、在校生、教職員はじめ多数の来場者が参加し充実したものとなった。展示においてもより工夫が凝らされ、各コースブースでの講評会では一般見学者の参加も散見され、全体に活気のある 4 日間となった。 「造形学部年間教育活動報告集『BZ』」は、「卒業研究優秀作品」「地域・産学連携活動報告」の 2 本の柱を中心に、学生の学外コンテスト受賞等を含めた造形学部の教育活動とその成果をよりリアルに伝える内容とした。製作した 8,000 部の冊子は全て本学部教育内容周知のため学内外関連方面に広く活用した。 「造形学部プレゼンフォーラム」は学科間の交流、社会性の向上に寄与するものであったが、企業の撤退により平成 29 年度は実施を取りやめた。代わって学生の社会的視野の拡大を図るものとして、産学・地域連携型教育の実施件数拡大、及び内容の充実を図った。 【大】
<p>次年度への 課題 (平成 30 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 大幅なコース再編後初めての 3 年生コース専門教育の始動を受け、高校生や在学生の要望、また社会的役割に充分応え得る教育内容の開発、受け入れ人数に即した適正なコース人数の確保に努め、平成 31 年新体制完成年度のディプロマポリシー目標達成に向け備える。 本学部実践教育の特色である産学連携、地域連携型教育を積極的に推進し、各学科、コースの専門性に即した新たな連携先を開拓する。 「造形学部卒業研究展」を造形学部教育成果発表の主軸とし、「造形学部年間教育活動報告集『BZ』」「造形 HP」などを活用して、学生の多様で実践的な活動の成果をアピールし、入学者層拡充の機会とする。 各種デザインコンテスト、建築コンペ等への学生の応募を積極的に支援して入賞を目指し、学生の自己啓発を促すとともに、学修成果の学外公表・発信の機会とする。 「造形 HP」は情報発信促進のため、造形学部情報発信 SNS ページをスマートフォン対応可能とする。さらにこれまでの投稿内容に対する反応の分析を行い、今後に向けた研究・教育活動の情報発信のあり方を検討する。 【大】

■検討組織名：造形学部協議会

開催年月日	会議等の開催記録
平成29年4月3日	1. 新任教員、及び副手の紹介 2. 今年度の造形学部方針 3. 平成29年度向け入学試験・造形学部関連の結果報告 4. 「キャリアデザイン（導入編）－フレッシュマンキャンプ－」及び「キャリアデザイン（展開編）－コースセミナー－」の企画依頼 5. 造形学部年間活動報告『BZ』の発刊報告
平成29年5月23日	1. プレゼンフォーラムの方針説明 2. 「USR推進室」への造形学部参加 3. 「キャリアデザイン（導入編）－フレッシュマンキャンプ－」の報告 4. オープンキャンパス（5月27日）の確認 5. 杉並高校授業見学会（5月24日）の確認 6. 教員役割分担の確認 7. ラーニング・ポートフォリオの方針 8. アーツ・ユニバーシティ・ボーンマス（以下「AUB」）留学説明会の確認
平成29年6月20日	1. 「文化学園創立100周年に向けた大学の中長期計画」の策定経緯報告 2. 「認証評価」の実施予定の確認 3. オープンキャンパス（6月11日）の確認 4. 「平成29年度学内研究発表会」の予定の確認 5. 両学科のカリキュラムマップ、カリキュラムツリーの策定方針 6. AUB 留学説明会の実施報告
平成29年7月11日	1. 「平成29年度学内研究発表」の実施予定の報告 2. オープンキャンパス・授業体験フェア（7月22日）の確認 3. サマーオープンカレッジ（8月3, 4, 5日）の確認 4. オープンキャンパス（8月6日）の確認 5. 「平成29年度造形学部卒業研究展」の確認 6. 「東京2020大会マスコットデザイン」募集の経過報告
平成29年9月5日	1. A0入試1期のエントリー状況報告 2. 平成29年度学内研究発表会の確認 3. 文部科学省による「学校法人運営調査」の実施報告 4. サマーオープンカレッジ（8月3, 4, 5日）の実施報告 5. オープンキャンパス（8月6日, 27日）の実施報告
平成29年10月17日	1. A0入試1期の結果報告とA0入試2期の確認 2. 「入学案内」作成の確認 3. 「認証評価」の現地調査の確認 4. オープンキャンパス（9月30日）の実施報告 5. 文化祭の予定確認
平成29年11月21日	1. A0入試2期と推薦入試の結果報告 2. 「文化祭」の実施報告 3. 「認証評価」の現地調査報告 4. 「平成29年度造形学部卒業研究展」の実施予定確認 5. 「平成29年度学部共通経費」の予算編成方針の報告 6. 「キャリアデザイン（展開編）－コースセミナー－」の今後の方針
平成29年12月12日	1. 「創立100周年に向けた中期計画」の策定方針 2. 両学科のカリキュラムツリー・カリキュラムマップの策定予定 3. 進学相談会（12月9日）の実施報告 4. 北京服装学院との学生交流の実施方針 5. 「平成29年度造形学部卒業研究展」の予定確認 6. ラーニング・ポートフォリオ実施予定 7. 「Made in Italy」デザインコンテストの実施報告 8. 「未来共創マーケット in 渋谷」コンテストの実施報告
平成30年1月9日	1. センター試験利用入試I期の志願者状況報告 2. 平成31年度向け「入学案内」の二校の作業手順の確認 3. 「平成29年度造形学部卒業研究展」の確認 4. 造形学部各コース卒業研究発表会の確認 5. 造形学部活動報告集『BZ』編纂の経過報告 6. 韓国文化院との交流についての実施方針
平成30年2月13日	1. センター試験利用入試I期・一般入試A日程の結果報告 2. 中期計画の大学方針の説明と今後の作業予定 3. 3年次進級要件（最低取得単位数）変更の報告 4. 「キャリアデザイン（展開編）－コースセミナー－」の今後についての報告 5. 韓国文化院での作品展開催に関して
平成30年3月5日	1. 一般入試B日程・留学生入試2期の結果報告 2. 造形学部卒業研究展の実施報告 3. 造形学部活動報告集『BZ』の発刊報告 4. ラーニング・ポートフォリオの導入方法の報告

<p>本年度の課題 (平成 29 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「スタディスキルズ」において学部共通科目協議会が担当する部分の内容を再検討する。【大】 2. 現代文化学部で開講している教養系科目、語学系科目との間で開講年次を含めた一本化の可能性を検討する。【共】 3. 各学部、学科が平成 30 年度を目途にカリキュラムの見直しを進めている中で、総合教養科目においても内容の全体を再検証し、重複等が無いかを見直す。その結果として、カリキュラムのスリム化の可能性を検討する。【共】 4. オープンキャンパス、文化祭、高校訪問等への参画の方法について検討する。【共】 5. 「文化学園大学・教職研究会」が学内の教育現場にフィードバックできるか検討し、その方策を具体化する。【大】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>取り組みの結果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 30 年度はファッション社会学科のカリキュラム改定が実施され、初年次教育は基礎ゼミが担い、その中に「スタディスキルズ」を内包することとなった。学科別対応の検討が必要となった。また、全学 FD・SD 研修会秋の分科会の課題が「初年次教育のあり方」であったため、その結果をふまえ、初年次教育の一環としての「スタディスキルズ」のあり方を検討した。【大】 2. 現代文化学部と合同の総合教養会議を立ち上げ、現代文化学部との合併科目に関して開講年次の統一化を図る検討を行った。結果として 6 科目の開講年次を変更し、併せて短期大学部の 2 科目の開講年次を変更することとなった。【共】 3. 前年度から心理学系科目の重複を解消することが継続課題であったが、「行動分析学入門」を含め、全体で 3 科目を削除することとなった。カリキュラムのスリム化という全学の流れに沿う方向となった。さらに 4 単位で開講している 1 科目を 2 単位とし、「スタディスキルズ」を除く総合教養全体を 2 単位に整理した。【大】 4. 前年度に引き続き、オープンキャンパスにおける A0 入試、面接対策講座を担当した。また、パネルの見直しを行い、「外国語科目の単位認定」は履修要項を示すことで情報を提示した。「文化学園大学・教職研究会」を従来通り文化祭中に開催した。【共】 5. 「文化学園大学・教職研究会」のメンバーに「教育実習集中事前教育」の外部講師として教科指導についての講義担当を依頼した。また、参加した学生にとっては教職現場の生の声を聴く貴重な機会となった。さらに、従来は家庭科の教員を対象としていたが、平成 29 年度は 10 人の美術科教員にも通知し、両科目合同で開催した。【大】 <p>点検評価</p> <p>平成 29 年度に設定した課題は概ね達成することができた。</p>
<p>次年度への 課題 (平成 30 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多様な初年次教育のプログラムが用意される中で「スタディスキルズ」の位置づけをどうするかを各学科とともに検討する。また、学部共通科目協議会の担当内容も検討する。さらに、総合教養の 3 系列外で開講している現状の是非も再検討する。【大】 2. 受講生が 5 人以下となった開講科目の場合、主として非常勤が担当する科目の取り扱いについて検討してきたが、語学系科目の取り扱いについて引き続き検討する。【共】 3. 総合教養科目の全体を見直し、各系列の科目数配分の偏り等が無いかを検討する。また、資格関連科目のうち、当協議会が関与するものについて再検討する。【共】 4. オープンキャンパス、文化祭、高校訪問等への参画の方法について検討する。【共】 5. 「文化学園大学・教職研究会」が学内の教育現場にフィードバックできるか検討し、その方策を具体化する。【大】

■検討組織名：学部共通科目協議会

開催年月日	会議等の開催記録	
平成29年4月3日	1. 委員会報告 2. 小グループ報告 3. その他	今年度オープンキャンパススケジュール、「文化の授業体感フェア」を「授業公開」へ名称変更、高校訪問について/デートDV防止研修会について「スタディスキルズ」について/履修要項の外国語科目単位認定の追記 現代文化学部と共通で開講している教養科目の開講年次一本化について
平成29年5月23日	1. 委員会報告 2. 小グループ報告 3. その他	高校訪問説明会について/駐輪場の移動について ファッション社会学科の「スタディスキルズ」について/オープンキャンパスについて/短期大学の「実用日本語」の削除について 総合教養検討会について/学内研究発表会/オープンキャンパスのパネルの校正
平成29年6月20日	1. 小グループ報告 2. その他	「スタディスキルズ」の現状とファッション社会学科の対応について 教養科目の現代文化学部との開講年次一本化に向けて、8科目の開講年次変更、2科目の削除、1科目の削除検討、1科目の単位数変更を検討
平成29年7月11日	1. 委員会報告 2. 小グループ報告 3. その他	高校訪問について/研究委員会と研究紀要編集委員会の統合について 「スタディスキルズ」について 総合教養科目数の確認/最終的に3科目削除/単位数変更科目はシラバス提出
平成29年9月5日	1. 委員会報告 2. 小グループ報告 3. その他	平成30年度削除科目、単位変更科目について/受動喫煙ゼロキャンパス 「スタディスキルズ」について/教職研究会の美術科参加について 平成30年度以降の「スタディスキルズ」は全学FD・SD研修会のテーマ 「初年次教育のあり方」の結果も参考に検討
平成29年10月10日	1. 小グループ報告 2. その他	各学科の平成30年度「スタディスキルズ」の対応について/教職研究会について/ファッション社会学科の日本語文章指導について 平成30年度副手採用について/グリル、文化茶房の閉鎖に伴い人員配置不要
平成29年11月21日	1. 委員会報告 2. 小グループ報告 3. その他	平成30年度の授業日程表の確認 「スタディスキルズ」の今後のあり方について年度内4回検討の予定/ 教職研究会報告/ファッション社会学科の日本語文章指導について 認証評価の実地調査において、教養教育に関する質問に対応、報告、無事終了
平成29年12月12日	1. 委員会報告 2. 小グループ報告 3. その他	平成30年度の授業日程表の検討 「スタディスキルズ」の今後のあり方/外国語科目の受講方法について 学生生活調査における外国語科目の満足度が、第3グループ実施のアンケート結果を反映して大きく改善(2013年~2016年)した/シラバス執筆時の留意点
平成30年1月9日	1. 小グループ報告 2. その他	各学科の初年次教育のあり方について/教職再課程認定について シラバスワーキンググループについて/平成30年度入学者数と学生指導
平成30年2月6日	1. 委員会報告 2. 小グループ報告	平成30年度オープンキャンパスについて/メールの移行 初年次教育の今後について/教職再課程認定に伴う新設科目、単位数変更の審議/シラバスワーキンググループへの提出締切について
平成30年3月5日	1. 委員会報告 2. 小グループ報告 3. その他	高校訪問は問題点や課題を出して検討した結果、一人2校に絞り込まれた。教員の多様な状況を考慮し、負担に見合う成果を上げる策を検討すべき。 「スタディスキルズ」の来年度用の書類準備/英語のクラス分けは服装学部はオリエンテーションで、造形学部は1回目の授業で実施/日本語文章検定の活用例 退職教員の挨拶

<p>本年度の課題 (平成 29 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生数の増加に対応した教育環境の整備を図る。特に国際ファッション文化学科の実習室の確保とホスピタリティ実習室の収容人数の改善を図る。 2. 留学生支援のチューター制度をさらに充実させるために、担当教員の増員を図る。 3. 産官学連携・地域連携を継続するとともに、新たな連携型教育の在り方を検討し、推進する。 4. 新カリキュラム 3 年間の実施状況を踏まえ、4 年目のカリキュラムとの連携を図る。新カリキュラムの完成年度となるため、「ディプロマポリシー」「7 つの力」を達成するカリキュラムになっているかを検証し、さらにカリキュラムの充実を図る。 5. 質の保証を達成するために、各学科でラーニング・ポートフォリオを実施し、その結果を踏まえ質の保証実現のためのシステムを検討する。 6. 学生の個別指導を充実し、就職への意識を高める。学生数の増加を考慮し、インターンシップへの参加率 30%、就職内定率 90%を目指す。 【大】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際ファッション文化学科では実習室を 1 室確保できたが、学生数の増加に見合った実習室数には達していない。 2. 留学生支援のチューター制度を充実させるために、担当教員の増員を図った。 3. 国際文化・観光学科では、新たに明治記念館との産学連携プロジェクトを始めた。国際ファッション文化学科では、グローバルアーティスト支援機構の依頼でオペラ衣装制作を行った。地方創生発信型人材育成事業「一宮クロスプロジェクト」で尾州生地産地から生地の提供を受け、卒業イベント「西遊記」の衣装制作をし、公演を行った。一宮市で行われた総合展「THE 尾州」にて衣装展示を行った。 4. 国際ファッション文化学科では、新カリキュラムの完成年度にあたり、4 年生を対象にカリキュラムについてのアンケートを実施した。その結果を踏まえ授業内容に反映させていく。 5. 各学科でラーニング・ポートフォリオを実施し、その結果を踏まえて平成 30 年度の実施計画を作成した。 6. インターンシップの参加者は 18 社 19 人で、3 年生は 17 人。参加率は 12%と平成 28 年度より 27 ポイント減少した。逆に企業主催のインターンシップに個人で参加する学生が増えている。就職内定率は 90%で、目標を達成することができた。 【大】
<p>次年度への 課題 (平成 30 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生数の増加に対応した教育環境（特に実習室など）の整備を図り、さらに充実した教育・大学生活支援体制を作り、実施する。応用健康心理学研究室を軸として、学生の心身の健康への支援に取り組む体制を検討する。 2. 平成 31 年度から国際文化・観光学科の入学定員を 30 人から 50 人に変更するとともに、教員の補充を図り、観光分野を強化していく。 3. 平成 26 年度から実施の新カリキュラムの成果を検証し、改善を進める。 4. 休退学者の情報収集・分析を継続して行う。遅刻、欠席が多い学生には個別面談を行い、研究室で情報を共有し早期に対応する。 5. 平成 29 年度の成果を踏まえ、ラーニング・ポートフォリオを本格的に導入する。 6. 学生の個別指導を充実し、就職への意識を高める。平成 29 年度の反省を踏まえ、インターンシップへの参加率 30%を目指す。就職内定率は 90%を維持する。 【大】

■検討組織名：現代文化学部協議会

開催年月日	会議等の開催記録
平成29年4月3日	1. 平成29年度現代文化学部の方針について 2. 入試について 3. 新任教員・新主任教授紹介
平成29年5月24日	1. 学科の中期計画について 2. 特待生奨励金について 3. 学修奨励金について 4. 高校教員のための学校説明会について 5. 「自己の探求」プログラムについて 6. 各学科フレッシュマンキャンプ報告
平成29年6月20日	1. 単位振替について 2. 入学者選考判定委員について 3. フレッシュマンキャンプ 報告 4. 「自己の探求」プログラム反省会結果について 5. 各学科報告 6. 総合教養 科目カリキュラム変更について 7. 学内研究発表会について
平成29年7月11日	1. 単位振替について審議 2. 総合教養科目カリキュラムについて審議と承認（平成29年10月10日教授会承認） 3. フレッシュマンキャンプアンケート結果 4. 大学の中長期計画について 5. 各学科報告 6. 前期授業アンケート実施について
平成29年9月5日	1. 国際ファッション文化学科カリキュラム改定について審議 2. A01期入試について 3. 委員会の規程改定について 4. 授業見学ウィークについて
平成29年10月10日	1. 応用健康心理学科カリキュラム改定の審議と承認（平成29年11月21日教授会承認） 2. 平成30年度新入生向け行事について 3. 大学入学共通テストについて 4. 文化祭バザーについて 5. 各学科報告
平成29年11月21日	1. 単位振替について審議 2. 文化祭について 3. 1年次の休学者・退学者について 4. 入試状況について 5. 学生数と教員数の推移について 6. 各学科報告
平成29年12月12日	1. シラバスワーキンググループについて 2. 留学生サポートについて 3. 学籍移動細則について 4. 平成30年度オープンキャンパス日程 5. ファッション心理学研究資金研究成果発表会について 6. 各学科報告
平成30年1月9日	1. 学籍移動細則の審議と承認（平成30年3月5日教授会承認） 2. 卒業研究発表会について 3. 平成30年度ラーニング・ポートフォリオ実施計画に ついて 4. 応用健康心理学科の募集停止について 5. 各学科報告
平成30年2月6日	1. 学籍移動細則について 2. 単位振替について 3. 3つのポリシーについて 4. 「自己の探求」プログラムについて 5. 各学科報告 6. 宗教学について
平成30年3月5日	1. 学部・学科の中期計画について 2. オフィスアワーについて 3. 平成31年度入試日程について 4. ラーニング・ポートフォリオについて 5. 入試状況について 6. 各学科報告

<p>本年度の課題 (平成 29 年度)</p>	<p>1. ファッションのオンリーワン短大として更なる充実を図る。</p> <p>(1) 平成 29 年度から全学生が「ファッション学科」としてスタートするに際し、新たなカリキュラムの運用体制を構築する。</p> <p>(2) ラーニング・ポートフォリオを作成し、学びを視覚化することで、学生は自己評価力を養い、教員は指導力の向上を図る。</p> <p>(3) 第 41 回日本ホビーショーに参加する(ファッションショー参加)。</p> <p>(4) 各クラスの担任をキャリア支援担当教員として位置づけ、キャリアデザイン実践教育を充実し、進路相談や就職支援に結びつける。</p> <p>(5) 日本高等教育評価機構による機関別認証評価を受審するにあたり、学生確保、教育の内部質保証について検討課題の整理と取組を明確化する。 【短】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. ファッションのオンリーワン短大として更なる充実を図った。</p> <p>(1) 平成 29 年度から全学生が「ファッション学科」としてスタートした。3 コース制を解消して 3 領域制とし、新カリキュラムでは入学後の学生の希望に合わせ、領域別選択科目を横断的に履修できるように変更した。1 年次前期はファッション学科としての基礎科目を必修科目とし、後期から領域を横断して自由に履修できるように変更した。</p> <p>(2) ラーニング・ポートフォリオを、キャリア形成教育科目である 1 年次の「キャリアデザイン導入編－フレッシュマンキャンパー」、「キャリアデザイン実践編Ⅰ」、2 年次の「キャリアデザイン実践編Ⅱ」、「キャリアデザイン(展開編)－コースセミナー」において実施した。その結果、学びを視覚化し、内省する機会を設けたことで、1 年次は入学後の思考の変容やキャリアデザインが明確化され、後期からの専門領域の選択がスムーズに行われた。2 年次は進路指導にラーニング・ポートフォリオを活用し、学生自身の省察の機会を設けたことが功を奏し、進路決定率が昨年同時期より 10%以上向上した。</p> <p>(3) 第 41 回日本ホビーショーにおいて、ファッションショー及びワークショップ、卒業生(創作作家)による展示販売に参画した。いずれも来場者より、本学の教育に関心が寄せられ、教育成果を発信し評価を得るよい機会となり、成功裡に終えることができた。</p> <p>(4) 各クラスの担任をキャリア支援担当教員として位置づけ、キャリアデザイン実践教育の充実を図った。またラーニング・ポートフォリオ作成と相まって進路相談や就職支援に結びつけた結果、(2)に示したように進路決定率が向上した。</p> <p>(5) 日本高等教育評価機構による機関別認証評価を受審し、評価の結果、同機構が定める評価基準に適合していると認定された。学生確保については、ホームページに授業紹介を毎週掲載したことや、教員や在校生による高校訪問、母校への手紙送付等を積極的に取り組んだ結果、昨年度と同数の学生確保につながった。教育の内部質保証については、科目ごとに学生にリアクションペーパーを提出させ、その内容に個別にコメントを記載し、フィードバックしている。その結果、教員と学生一人一人の取り組み状況や問題点、理解度を相互に把握確認ができ授業改善につながった。 【短】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 30 年度)</p>	<p>1. 新カリキュラムの完成年度を迎えることで内容を点検し、充実を図る。</p> <p>2. ラーニング・ポートフォリオの充実と、並行してループブックによる評価得点に変換し、学びの過程をチャートに示すことで、学生が主体的に自己評価の向上に取り組めるよう、教員の指導力向上を図る。</p> <p>3. 各クラスの担任をキャリア支援担当教員として位置づけ、キャリアデザイン実践教育を充実し、進路相談や就職支援に結びつける。</p> <p>4. 第 42 回日本ホビーショーに参加し、学修成果を広く学外へ向けて発信し、評価を得る。</p> <p>5. 学修成果の発信を積極的に行い、本学の学びの周知と入学者確保のため、Web を有効活用して広報活動を行う。 【短】</p>

■検討組織名：短期大学部協議会

開催年月日	会議等の開催記録
平成29年4月3日	1. 事業計画 2. 平成29年度短期大学部ファッション学科の学生数及びクラス担任・副担任 3. 平成29年度委員会及び研究室役割担当 4. 出前授業報告 5. 授業・行事 6. 委員会・係り報告
平成29年4月20日	1. 学生の状況把握（平成29年度） 2. 授業・行事 3. キャリアデザイン 4. 出前授業依頼 5. 社会貢献活動 6. 委員会・係り報告
平成29年5月25日	1. キャリアデザイン 2. 「自己の探求」プログラム終了報告 3. ラーニング・ポートフォリオの進捗状況 4. 外部の取り組み 5. 出前授業 6. カリキュラムについて 7. 短期大学部事業計画 8. 武漢紡織大学出張 9. 委員会・係り報告
平成29年6月22日	1. 川崎高等学校出張授業終了 2. 高校教員対象説明会終了 3. 「キャリアデザイン（展開編）ーコースセミナー」 4. 公開授業進捗状況 5. 高校訪問・母校訪問の状況 6. 文化祭進捗状況 7. 学生の状況把握（就職・進学） 8. 外部の取り組み（社会貢献活動） 9. 委員会・係り報告
平成29年7月20日	1. 「授業公開」準備状況 2. サマーオープンカレッジ準備状況 3. 将来構想ワーキング 4. A0入試1期 5. 文化祭準備状況 6. 学生の状況把握 7. 委員会・係り報告
平成29年8月8日	1. サマーオープンカレッジ報告 2. オープンキャンパス 3. 委員会・係り報告 4. 中国武漢紡織大学への出張授業 5. A0入試1期 6. パターンメイキング検定試験3級実技試験監督担当者
平成29年9月5日	1. A0入試1期 2. 「学生チームによるブランドビジネスモデルの構築」Cチーム工場見学 3. 学外共同研究 4. 委員会・係り報告
平成29年9月21日	1. 平成29年度認証評価スケジュール 2. A0入試1期面接終了 3. 文化祭 4. 学生の状況把握、就職状況（後期） 5. 1年生の後期追加履修について 6. 委員会・係り報告 7. 出張報告
平成29年10月12日	1. 平成29年度認証評価進捗状況 2. ラーニング・ポートフォリオの状況 3. 将来構想ワーキング 4. 文化祭 5. 入試関係 6. 委員会・係り報告
平成29年11月9日	1. 認証評価受審 進捗状況 2. 将来構想ワーキング 3. 授業・行事 4. 平成30年度予算 授業用・教員研究費備品等購入計画書の提出 5. 2019年度入学案内進捗状況 6. 委員会係り・報告
平成29年12月7日	1. 平成30年度に向けて検討事項 2. 平成29年度認証評価受審 実地調査終了報告 3. 将来構想ワーキング 4. ラーニング・ポートフォリオ ワーキング経過報告 5. 「キャリアデザイン実践編Ⅰ」企業見学について 6. 授業・行事 7. 特別授業 8. 学生の状況把握、就職状況 9. 高校生の来校 10. 委員会・係り報告
平成29年12月21日	1. 平成30年度に向けた検討 2. 平成29年度認証評価受審報告 3. 出張授業 4. 委員会・係り報告
平成30年1月18日	1. 平成30年度に向けて検討 2. 授業・行事 3. 委員会・係り報告
平成30年2月22日	1. ラーニング・ポートフォリオワーキンググループ 2. 「キャリアデザイン（展開編）ーコースセミナー」の実施について 3. 第42回日本ホビーショーの参加について 4. 担任・副担任（平成30年度） 5. 授業・行事 6. 委員会・係り報告
平成30年3月8日	1. 「キャリアデザイン（展開編）ーコースセミナー」の実施について 2. ラーニング・ポートフォリオ 3. 平成29年度備品等の予算の会計報告 4. 第42回日本ホビーショー打ち合わせ 5. 出前授業 都立深沢高等学校 6. 学生在籍数と状況 7. 4月の授業・行事 8. 委員会・係り報告

審 議 機 関

<p>本年度の課題 (平成 29 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 海外大学とのダブルディグリー協定の推進及びグローバル化への一層の推進に重点を置いて、教員の採用、若手教員の育成・活用及び国際文化研究科を含め各専攻の相互交流基盤を活用し、教育・研究の充実と継続を図る。 2. 修士及び博士の学位授与に関する要件、及び審査に関する規程等を、各研究分野の特徴と現状に合わせて整理・見直しを行い、学位審査の円滑化を図る。 3. 被服学専攻アドバンストファッションデザイン専修、生活環境学専攻生活造形学専修などデザイン・造形分野の修士課程における研究プロセスを明確にするとともに、学部との連動を強化し、大学院入学者の増加を図る。 4. 大学院生が課程内で円滑に学位取得できるよう、研究倫理教育、複数指導教員、研究活動の進め方の講義、大学院セミナーでの中間発表等のチェックシステム化を図る。 【大】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ダブルディグリー協定により、中国浙江理工大学の学生 3 人及び仏国 Ensad の学生 2 人を受け入れ、プログラムは継続して実施している。被服学専攻グローバルファッション専修は海外活動経験のある教員 2 人を授業担当に新たに加え、平成 30 年度に向けては若手教員 1 人の新採用を予定しており強化を図った。また、大学院の各行事や修士論文の審査は専攻を超えた複数教員によって行うなど、各専攻の相互交流による教育基盤の充実を図っている。しかし、入学希望者は増加傾向にあり、大学院教員の養成が必要となっている。 2. 学位授与に関する規程に関しては、グローバル化が進む現状の課題を踏まえ、博士論文の使用言語、参考論文、公聴会における言語、海外の副指導員への対応等の事項を再確認した。また、修士論文提出の期限に遅延した場合の新たな申合せ事項について、年度内での整備を行った。 3. アドバンストファッションデザイン専修、グローバルファッション専修及び生活造形学専修などのデザイン・造形分野の研究プロセスは、大学院特別研究のシラバスで明確化した。平成 30 年度の大学院入試の出願者は 43 人で、昨年比 6 人の増加となったが、大部分は学外からの留学生であり、学内からの大学院進学者は少ないことから、学部との更なる連動強化が必要となった。 4. 学位取得の円滑化については、4 月のオリエンテーションにおいて、大学院生に対しての研究倫理教育、研究活動の進め方及び注意点について講義を行い、また、7 月の大学院セミナーでの中間発表での質疑応答によるセルフチェックの充実と 11 月の研究概要書による論文構成の徹底及び研究進捗に問題のある学生をもつ指導教員との相談を実施して、推進した。しかし、修了年次生 21 人中、論文未提出者は 4 人 (19%) であり、平成 28 年度と変わらない状況でありことから、更なる取り組みが必要となった。 【大】
<p>次年度への 課題 (平成 30 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 留学生比率の増加に対応し、論文作成のための講義、演習科目及び特定課題研究（論文及び作品制作）による修士学位取得、グローバルファッション専修の履修条件等を整備し、大学院教育・研究のグローバル化を推進する。 2. 服装造形及び服装デザイン分野の教育・研究の充実のため、服装学部と連携して博士学位を取得できる若手教員の育成体制づくりを進める。 3. 学部科目における連動強化を進め、学内生の大学院進学増加を図る。 4. 大学院生が課程内で円滑に学位取得できる仕組み作りとして、大学院生及び指導教員による進捗管理によって教育・研究成果が可視化できる新たな取り組みを検討する。 【大】

■検討組織名：生活環境学研究科委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成29年4月12日	1. 平成28年度大学院研究科委員会構成員、2. ティーチング・アシスタント (TA)、3. 被服学・生活環境学特別研究及び博士論文の指導教員、4. 大学院科目等履修生の単位認定、以上4項目を承認。5. 大学院セミナー最終日内容、6. 学生異動について報告。
平成29年5月10日	1. 前回保留となっていた修了年次生の指導教員、2. 入学資格に関する学則変更、3. 大学院セミナーの日程と内容・参加教員、4. 武漢紡織大学からの大学院志願者の選考内容、5. 研究指導グループの申請、6. 平成29年度リサーチ・アシスタント (RA)、以上6項目を承認。
平成29年6月14日	1. 武漢紡織大学からの大学院入試判定、2. 入学試験専門科目の出題及び採点者、3. ENSADのダブルディグリー学生の受け入れと推薦、4. グローバルアクション専修がトビライン2018、以上4項目を承認。5. 大学院セミナーでの修了年次生の発表題目と順番を確認。6. 学生異動を報告。 【被服環境学専攻委員会】 1. 博士論文2件の受理について、1件の受理決定、1件保留。2. 公聴会・口頭試問日程、3. 海外大学教員の副指導教員、以上3件を承認。
平成29年7月12日	1. グローバルアクション専修及び浙江理工大学ダブルディグリーにおける2018年度入験の出願書類及び条件の変更、以上1項目を承認。2. 大学院FDワーキンググループの学生アンケート結果を報告。3. 大学院入試1期及び特別推薦の日程を確認。 【被服環境学専攻委員会】 1. 前回保留の博士論文の受理、審議の方法を承認。2. 公聴会・口頭試問の日時を決定。
平成29年9月6日	1. 2018年度大使館推薦による国費外国人留学生及び大学院研修生の受入判定、2. 学生異動、以上の2項目を承認。3. 研究概要書の様式及び日程の確認。 【被服環境学専攻委員会】 1. 博士論文3件の最終審査結果を承認。
平成29年10月11日	1. TA及びRA規程及び日本学生支援機構第一種奨学金返還免除候補者の学内選考規程の変更、2. 生活環境学専攻カリキュラム及び担当教員変更、以上2項目を承認。3. 大使館推薦による国費外国人留学生1人の受入判定結果、4. 大学院FDワーキンググループの学生アンケート結果、5. 文化祭展示の準備状況、以上3項目を報告。6. 大学院入試出願前の個別面接方法の確認。
平成29年11月8日	1. 文化学園大学大学院学則変更を承認。2. グローバルアクション専修の論文指導教員を審議し、主指導教員のみ承認。
平成29年12月6日	1. 浙江理工大学ダブルディグリーの試験判定2人合格、2人保留。2. 前回保留のグローバルアクション専修の論文副指導教員、3. 担当教員の変更、以上3項目を承認。4. シラバスチェックの方法とワーキンググループメンバー、5. 平成29年・30年度年間行事担当者、以上2項目を協議し、決定。 【被服環境学専攻委員会】 1. カリキュラム及び担当教員の変更を承認。2. 博士論文における使用言語、学会等の報文について確認。
平成30年1月20日	1. 修士論文審査教員、2. グローバルアクション専修の論文副指導教員の変更、3. 担当教員の変更、以上3項目を承認。4. 保留となっていた浙江理工大学のダブルディグリー志願者2人の判定結果報告。5. 平成30年度大学院研究科委員会の日程(案)を提示。 【被服環境学専攻委員会】 1. 博士論文1件の受理について保留。2. 主審査教員1人、副審査教員2人を承認。3. 公聴会・口頭試問日程を仮決定。4. 学生異動を報告。
平成30年1月29日	【被服環境学専攻委員会】 1. 博士論文1件の受理について再審議し、受理決定。2. 副審査教員1人追加を承認。
平成30年2月20日	1. 平成29年度被服学専攻・生活環境学専攻・国際文化専攻の修了判定及び卒業式の代表を選出、2. 科目担当教員の変更、3. 修士論文・修了作品の提出に関する申合せ事項及び学則の変更、4. 平成30年度の特任教授、5. 学生異動、以上5項目を承認。
平成30年3月1日	【被服環境学専攻委員会】 1. 博士論文最終審査結果、2. 平成29年度被服環境学専攻1人の修了判定、以上2項目を承認。

<p>本年度の課題 (平成 29 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際文化専修・国際ファッション文化専修・健康心理学専修それぞれの特徴をもつ人材教育を目指すとともに、専攻や専修の連携を強化し、本学園が掲げる「グローバルゼーション、イノベーション、クリエイション」を反映した社会の多様な要請に応える教育プログラムを整える。 2. 国際ファッション文化専修の指導体制等の組織的充実化を図る。 3. 留学生の増加に伴いさらにきめ細かい指導の充実に努める。留学生の場合は母国と日本の比較研究のための度々の調査努力も考慮する。 4. 教育目的の達成状況を点検・評価するための工夫は、授業の成績評価、修士論文を主にしているが、その他、学生の関連学会報告（口頭発表、ポスター発表）や研究演習の中での実習も対象とし、ポジティブ・フィードバック、コメントなどを与え、それが次の機会、あるいはレポート等に生かされているかを評価していく。 5. 図書館の有効利用、自習室の環境整備、インターネット整備等を図る。従来からの集団・個別指導に加え、さらにオフィスアワー制度を強化して、学生と教職員の議論・交流の場に関する要求に対応した改善を検討していく。授業や研修セミナー以外でも学生と教員の双方向の積極的な交流ができるように、学習支援体制を整える。 【大】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際文化研究科の修士論文のテーマは、「観光」、「ファッション」、「健康」、「国際比較」等、各専修を反映するものとともに、「健康とファッション」、「健康と観光」のように新しい融合分野を作り出した。この傾向は継続していく可能性がある。今後は生活環境学研究科各専修との社会の多様な要請に応える新しいテーマを捉えていく。 2. 国際ファッション文化専修の指導体制は現状にとどまった。外国からの受験希望者の問い合わせも増加しているので、対応できるように専任教員の増員が望ましい。 3. 留学生の論文作成の指導に関して、言語能力面の支援も必要になり、教員は最善をつくしたが、質の良い研究のためにはさらなる環境整備が必用と思われる。 4. NPO 組織などへの参加態度から、教員にとっては座学で見られるものとは異なった学生の能力を把握することができた。学生にとっては研究結果と社会との接点や貢献にいて考える良い機会になった。 5. オフィスアワーを設けた効果も出ているので、今後全教員に広げていく。学生と教職員の議論・交流の場に関する要求に対応した改善をさらに検討したい。 【大】
<p>次年度への 課題 (平成 30 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際文化研究科が、ファッション学を掲げる文化学園大学の研究科としての機能を果たすために、国際文化専修・国際ファッション文化専修・健康心理学専修の現在の内容で十分であるか、あるいは、専修の統廃合や新設などの必要性があるか、カリキュラムの再構築を視野に検討する。 2. 国際文化研究科の専攻や専修の連携を強化し、社会の多様な要請に応え得る実践型教育プログラムを整える。 3. 国際文化研究科の特色の明確化とともに、観光学の充実を含む学部と連携した教育体制を強化する。 4. 教員の学際的な共同研究と研究活動の活性化を図る。 5. 学生数の増加を図るとともに、増加しつつある留学生の学修支援をすすめていく。 6. 国際文化研究科と生活環境学研究科との相互交流による学際的な研究基盤を形成し、大学院教育の充実を図る。 【大】

■検討組織名：国際文化研究科委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 29 年 4 月 12 日	1. 平成 29 年度の研究科委員会構成員承認 2. 国際文化研究科の方針、方向性の確認 3. 生活環境学研究科との連携について検討 4. 平成 29 年度修了生の指導教員の確認 5. 平成 29 年度の研究科委員会内の役員の決定 6. 大学院セミナーの日程、プログラムの検討
平成 29 年 5 月 10 日	1. 学則変更について承認 2. 大学院セミナーの日程、内容等詳細を決定 3. 大学院 FD ワーキンググループにて、大学院生のアンケートを検討
平成 29 年 6 月 14 日	1. 平成 30 年度大学院入試出題及び採点者について承認 2. 大学院セミナーの論文題目 確認、学生による運営企画案、教員ミーティングの議題案を検討 3. 大学院パンフレット 教員紹介欄について検討 4. 平成 28 年度大学院活動報告書完成の報告 5. 文化祭展示 についての提案
平成 29 年 7 月 12 日	1. 平成 30 年度大学院入試 1 期（特別推薦を含む）について詳細確認 2. 国際文化専攻 国際文化専修入学希望者の個別入学資格審査を行い承認 3. 大学院 FD ワーキンググルー プからの報告 4. 大学院セミナー教員ミーティングにおいて課題となったグローバリ ゼーション、社会貢献、留学生対応、社会人受け入れ等について、今後の検討事項として提 案
平成 29 年 9 月 6 日	1. 文化祭展示について会場、パネル内容などの打合せの報告 2. 「研究概要書」の様式 及び日程についての検討 3. 修士論文説明会の開催予告 4. 学生異動の承認 5. 学内 研究発表会の開催報告
平成 29 年 10 月 11 日	1. ティーチング・アシスタントの規程の改定を承認 2. 大学院 FD ワーキンググルー プのアンケート結果を報告 3. 出願前の個別面接について申合せ事項の確認 4. 研究概要 書様式最終確認 4. 指導学生のメンタル面等についての対応確認
平成 29 年 11 月 8 日	1. 学則変更を承認 2. 文化祭展示の結果報告 3. 大学院パンフレットとホームページ の充実化の提案 5. 科学研究費補助金の申請状況について報告 5. 平成 30 年度の大学 院セミナーの日程等について検討
平成 29 年 12 月 6 日	1. 学生異動について報告 2. シラバスチェックについて、授業内容を詳細に記載するよ うに依頼 3. 大学院特別奨励金及び根岸愛子特別奨学金について規程を再確認 4. 修了年次生の研究概要書提出状況を報告 5. 平成 30 年度の研究科活動の担当者決定 報告
平成 30 年 1 月 24 日	1. 国際文化特別研究について、論文審査教員の決定 2. 平成 30 年度大学院研究科委員 会日程案 3. 大学院特別講義 A/B について 4. シラバス執筆及びワーキンググループへ の提出締め切りを通知 5. 修士論文の提出について了解事項を確認
平成 30 年 2 月 20 日	1. 平成 29 年度国際文化研究科国際文化専攻修了判定、代表者決定 2. 大学院共通選択 科目を承認 3. 修士論文・修了作品の提出に関する申合せ事項を承認 4. 平成 30 年度 特任教員について承認 5. 学生異動について審議と報告 6. 修士論文発表会のリハーサ ル当日の運営について確認 7. 大学院特別奨励金及び根岸愛子特別奨学金の申請状況報 告

■ 検討組織名：文化学園大学・文化学園大学短期大学部合同教授会開催記録

報告者：濱田 勝宏

提出日：平成 30 年 4 月 2 日

開催年月日	会議等の開催記録	
平成 29 年 4 月 3 日	審議事項	1. 特任教授について 2. 委員会 3. 学生異動について 4. 科目等履修生・研究生入学許可について 5. 公欠審議について
	報告事項	1. 委員会報告 2. 平成 29 年度新入生数について 3. 平成 30 年度入試関係について 4. 平成 29 年度入学式・保護者懇談会・新入生学科紹介・オリエンテーションについて 5. キャリア形成教育科目「キャリアデザイン（導入編）－フレッシュマンキャンパー」打ち合わせについて 6. 平成 29 年度総合消防訓練について 7. 学生異動について（報告）
平成 29 年 5 月 23 日	審議事項	1. 委員会 2. 学生異動について 3. 公欠について
	報告事項	1. 委員会報告 2. 平成 30 年度入試関係について 3. キャリアデザイン（導入編）－フレッシュマンキャンパー について 4. 学生異動について（報告）
平成 29 年 6 月 20 日	審議事項	1. 委員会 2. 学生異動について 3. 研究生・科目等履修生入学許可について
	報告事項	1. 委員会報告 2. 平成 30 年度入試関係について 3. 学生異動について（報告）
平成 29 年 7 月 11 日	審議事項	1. 公欠について
	報告事項	1. 委員会報告 2. 平成 30 年度入試関係について 3. 前期定期試験について 4. 教員の夏季休暇等について 5. 平成 30 年度教員の国内外研修申請について 6. 教育改革支援助成金事業について 7. 学生異動について（報告）
平成 29 年 9 月 5 日	審議事項	1. 委員会 2. 学生異動 3. 特別留学生入学許可について 4. 公欠審議について
	報告事項	1. 委員会報告 2. 平成 30 年度入試関係について 3. 学生会サミット（代議員大会）について 4. 科学研究費助成事業について 5. 学生異動について（報告）
平成 29 年 10 月 10 日	審議事項	1. 委員会 2. 学生異動について 3. 平成 29 年 9 月卒業について 4. 公欠審議について
	報告事項	1. 委員会報告 2. 平成 30 年度入試関係について 3. 平成 30 年度教員昇任審査・任期制教員の再任に関する申請について 4. 平成 30 年度任期制助手の採用について 5. 平成 30 年度副手の採用申請について 6. 平成 29 年度卒業式について 7. 文化祭について 8. 学生異動について（報告）
平成 29 年 11 月 21 日	審議事項	1. 委員会 2. 学生異動について 3. 特別留学生入学許可について 4. 公欠について
	報告事項	1. 委員会報告 2. 平成 30 年度入試関係について 3. 文化祭関係報告 4. 平成 30 年度任期制助手の採用について 5. 学生異動について（報告）
平成 29 年 12 月 12 日	審議事項	1. 委員会 2. 公欠について
	報告事項	1. 委員会報告 2. 平成 30 年度入試関係について 3. 年末年始休暇について 4. 特別研究員について 5. 学生異動について（報告）
平成 30 年 1 月 9 日	審議事項	1. 学生異動について
	報告事項	1. 委員会報告 2. 平成 30 年度入試関係について 3. 後期定期試験について 4. 卒業研究発表会、卒業研究展、短大部卒業作品展示等について 5. 学生異動について（報告）
平成 30 年 2 月 6 日	審議事項	1. 委員会 2. 学生異動について 3. 研究生入学許可について
	報告事項	1. 教員異動について [正教授会（第 8 条教授会）報告] 2. 委員会報告 3. 平成 30 年度入試関係について 4. 学生異動について（報告）
平成 30 年 3 月 5 日	審議事項	1. 教員人事について 2. 特任教員について 3. 委員会 4. 学生異動について 5. 学則変更について
	報告事項	1. 委員会報告 2. 平成 30 年度入試関係について 3. 平成 29 年度卒業式・平成 30 年度入学式について 4. 教員春季休暇について 5. 新年度のスケジュールについて 6. 学生異動について（報告） 7. その他

■検討組織名：文化学園大学短期大学部教授会開催記録

報告者：濱田 勝宏

提出日：平成 30 年 4 月 2 日

開催年月日	会議等の開催記録
平成 29 年 6 月 6 日	報告事項 <ol style="list-style-type: none"> 1. 認証評価受審について 2. 日本ホビーショーについて 3. キャリアデザイン導入編－フレッシュマンキャンプ報告 4. キャリアデザイン（展開編）－コースセミナーについて
平成 29 年 7 月 18 日	報告事項 <ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 30 年度入試関係 2. キャリアデザイン（展開編）－コースセミナー報告
平成 29 年 12 月 19 日	報告事項 <ol style="list-style-type: none"> 1. 認証評価について 2. 平成 30 年度入試関係について 3. 公開発表会・卒業展示について
平成 30 年 2 月 27 日	報告事項 <ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 30 年度入試関係について 2. 公開発表会・卒業展示について

■ 検討組織名：教務委員会

報告者：千葉 悦子

提出日：平成 30 年 4 月 2 日

<p>本年度の課題 (平成 29 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「規程集」各項の見直しと改定及び新規規程案の検討 2. 授業日程の調整と検討 3. カリキュラムに関する諸問題の検討及び見直し 4. 「コラボレーション科目」の検討 5. Web シラバス、Web 履修登録に関わる検討 6. 進級条件の見直し <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「規程集」各項の見直しと改定及び新規規程案の検討 文化学園大学特待生制度 (A&A 入試) 規程 (案)、文化学園大学・文化学園大学短期大学部奨学金規程 (改定案)、文化学園大学・文化学園大学短期大学部紫友会奨学金規程 (改定案)、文化学園大学学則変更、文化学園大学短期大学部学則変更、文化学園大学・文化学園大学短期大学部障害学生支援委員会規程 (改定案)、文化学園大学・文化学園大学短期大学部紀要投稿規程 (改定案)、研究委員会規程 (改定案)、公開講座実行委員会規程 (案)、文化学園大学・文化学園大学短期大学部大規模災害被災者救援奨学金規程 (改定案)、文化学園大学・文化学園大学短期大学部 私費外国人留学生授業料減免に関する規程 (改定案)、単位履修に関する細則 (改定案)、文化学園大学教授会規程 (改定案)、文化学園大学短期大学部教授会規程 (改定案)、文化学園大学編入学生規程 (改定案)、文化学園大学・文化学園大学短期大学部特待生制度 (クリエイティブスカラシップ) 規程 (改定案)、文化学園大学・文化学園大学短期大学部特待生制度 (附属高等学校推薦入試) 規程 (改定案)、文化学園大学・文化学園大学短期大学部学籍移動に関する細則 (改定案)、文化学園大学入学者選抜に関する規程 (改定案) 等について審議を行い教授会に提案し、承認された。 【共】 2. 授業日程の調整と検討 平成 29 年度授業日程をもとに、平成 30 年度授業日程を曜日変更の授業日及び祝日授業を減らすことを判断基準として審議を行い、決定した。【共】 3. カリキュラムに関する諸問題の検討及び見直し 服装学部、現代文化学部、学部共通科目、短期大学部のカリキュラム改定案について審議を行い教授会に提案し、承認が得られたので平成 30 年度から改定する。【共】 4. 「コラボレーション科目」の検討 平成 28 年度入学生より、卒業要件を 2 単位に変更した実施状況について確認し、今後も継続して検討を行っていく。【共】 5. Web シラバス、Web 履修登録に関わる検討 平成 29 年度に実施した Web 履修登録、履修登録メッセージについて各ブロックの意見を集約し、改善した。履修の取消し方法については、前・後期とも Web による取り消しを行ったが問題はなかった。後期開講科目を後期に履修登録する場合の問題点等について各ブロックで調査を実施し、調査結果をもとに継続して検討を行っていく。【共】 6. 進級条件の見直し 学生の質の多様化から 3 年次への進級条件の見直しが必要とされる時期になったため、進級条件について検討した結果、学籍移動に関する細則の改定を行った。【共】
<p>次年度への課題 (平成 30 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「規程集」各項の見直しと改定及び新規規程案の検討 2. 授業日程の調整と検討 3. カリキュラムに関する諸問題の検討及び見直し 4. 「コラボレーション科目」の検討 5. Web シラバス、Web 履修登録に関わる検討 <p style="text-align: right;">【共】</p>

■検討組織名：教務委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成29年4月18日	1. 委員名簿、委員会開催日程等の確認 2. Web履修登録について
平成29年5月16日	1. 文化学園大学特待生制度(A&A入試)規程(案)の審議 2. 文化学園大学・同短期大学部奨学金規程(改定案)の審議 3. 文化学園大学・同短期大学部紫友会奨学金規程(改定案)の審議 4. 後期履修登録実施に関する検討 (1～3 平成29年5月23日教授会承認)
平成29年6月13日	1. カリキュラム改定に関する進捗状況の報告
平成29年7月18日	1. 文化学園大学学則、同短期大学部学則変更の審議 2. 文化学園大学・同短期大学部障害学生支援委員会規程(改定案)の審議 3. カリキュラム改定(学部共通科目、服装学部)の審議 4. 服装学部卒業要件について (1, 2及び3の一部について平成29年9月5日教授会承認)
平成29年8月1日	1. カリキュラム改定(学部共通科目, 現代文化学部, 短期大学部)の審議 2. カリキュラム改定(服装学部)の審議 (1 平成29年10月10日教授会承認)
平成29年9月19日	1. カリキュラム改定(服装学部, 現代文化学部 国際ファッション文化学科)の審議
平成29年10月17日	1. カリキュラム改定(服装学部, 現代文化学部 応用健康心理学科)の審議 2. 文化学園大学・同短期大学部紀要投稿規程(改定案)の審議 3. 研究委員会規程(改定案)の審議 4. 公開講座実行委員会規程(案)の審議 5. 文化学園大学・同短期大学部紫友会奨学金規程(改定案)の審議 6. 文化学園大学・同短期大学部大規模災害被災者救援奨学金規程(改定案)の審議 7. 文化学園大学・同短期大学部私費外国人留学生授業料減免に関する規程(改定案)の審議 8. 文化学園大学・同短期大学部奨学金規程(改定案)の審議 9. 文化学園大学学則、同短期大学部学則変更の審議 10. 単位履修に関する細則(改定案)の審議 (1, 5～10について平成29年11月21日教授会承認)
平成29年11月14日	1. 研究委員会委員長・紀要編集専門委員会委員長による委員会再編に関する説明及び規程審議 2. カリキュラム改定(服装学部ファッションクリエイション学科)審議 3. 平成30年度 授業日程(案)に関する検討 (1～3 平成29年12月12日教授会承認)
平成29年12月19日	1. 服装学部の卒業必要単位数変更案に関する審議 2. 文化学園大学教授会規程、同短期大学部教授会規程(改定案)の審議 3. 文化学園大学学則、同短期大学部学則変更の審議 (1～3 平成30年2月6日教授会承認)
平成30年1月23日	1. カリキュラム改定(服装学部ファッションクリエイション学科)審議 2. 服装学部ファッション社会学科科目名の表記変更について 3. 文化学園大学入学者選抜に関する規程(改定案)の審議 4. 文化学園大学入学者選考規程(改定案)の審議 5. 文化学園大学編入学生規程(改定案)の審議 6. 文化学園大学・同短期大学部特待生制度(クリエイティブスカラシップ)規程(改定案)の審議 7. 文化学園大学・同短期大学部特待生制度(附属高等学校推薦入試)規程(改定案)の審議 8. 文化学園大学特待生制度(A&A入試)規程(改定案)の審議 (1, 5～8 平成30年2月6日教授会承認)
平成30年2月20日	1. カリキュラム改定(学部共通科目(教職課程))の審議 2. 文化学園大学学則、同短期大学部学則変更の審議 3. 文化学園大学・同短期大学部学籍移動に関する細則(改定案)の審議 4. 文化学園大学・同短期大学部入学者選考規程(改定案)の審議 5. 文化学園大学・同短期大学部入学者選抜に関する規程(改定案)の審議 (1～3, 5 平成30年3月5日教授会承認)
平成30年3月8日	1. 自己点検・評価報告書案についての検討

<p>本年度の課題 (平成 29 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生生活の現状把握と学生支援のあり方についての検討 平成 28 年度に行われた学生生活調査や具体的な内容を問う学生アンケート、さらに教職員からのヒアリング等から学生の現状把握に努め、支援のあり方を検討する。 2. 学生の質的变化に対するケアの問題 新年度に要支援学生の入学も予定されていること等から、教員、職員相互の情報交換と対応の検討。学生相談室や医務室との連携による様々な事例・症例への認識と理解への努力。 3. 学内及び周辺の巡回と改善 より良い環境で大学生活が送れるよう学内外の美化や飲食などのマナー啓発。不審者への対応。 4. 各種行事内容の見直し 本学の特色を生かし、かつ学生の自主性や行動力を高める方向での見直しを検討。 【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生生活の現状把握と学生支援のあり方についての検討 <ol style="list-style-type: none"> (1) 学生生活調査やアンケートの結果等に加え、各学部学科を担当する教員(委員)より、直面する問題やその対応等の情報、意見交換を委員会時に頻繁に行い、現状把握に努めた。 (2) 少人数に分けた全新入留学生と学生支援委員との懇談会を行い、授業、学生生活、進路などについて忌憚のない意見を聞いた。改善可能な要望に対しては関係各所への申し入れを行った。 (3) 教員に配布する「学生支援マニュアル」の見直しを行い、平成 30 年度版を作成した。 2. 学生の質的变化に対するケアの問題 毎月学生相談室より利用状況の報告を受け、委員会時に確認しているが、数字だけでは相談内容が把握しにくいと、具体的な相談例の報告を依頼した。結果としては欠席や学業の遅れなどに関する相談が多く、それらの悩みを軽減するための方策など継続的な検討が必要である。 3. 学内及び周辺の巡回と改善 例年通り、文化祭などの行事の際、また年 2 回(1 週間単位で)学内や学園周辺を巡回し、学生のマナーや美化への意識を高めるための声掛けをするとともに改善点の洗い出しと方策を検討した。特に、2020 年までに受動喫煙ゼロキャンパスを目指すための活動が学園全体の取り組みとして始まり、大学としての取り組み方を検討した。平成 29 年度は学生による近隣の清掃活動や、学生チャレンジプロジェクト助成金制度を利用した喫煙マナー啓発活動への取り組みなどが学科単位で積極的に行われ、中間報告がなされた。委員会として継続的な活動を支援する。 4. 各種行事内容の見直し アンケートでは球技祭の復活など若干の要望があったが、スポーツ系クラブ員の減少や教務日程との兼ね合いから現状での復活は難しい状況であることを確認した。 【共】
<p>次年度への課題 (平成 30 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生生活の現状把握と学生支援のあり方についての検討 学生生活の現状を把握できるよう、3 年に 1 度の学生生活調査の設問を検討する。また、入学増に伴う学生への対応に問題がないか配慮するとともに、必要に応じ支援体制を見直す。 2. 学生の質的变化に対するケアの問題 学生相談室や教職員の連携を密にし、学生の心の問題、発達障害の問題などの理解に努める。また、それらを軽減するための具体的なサポートシステムの構築を検討する。 3. 学内及び周辺の巡回と改善 学内巡回指導を通じたマナー啓発の継続。また、学園全体での取り組みである「受動喫煙ゼロ」キャンパスの実現に向け、学生による啓発活動の支援や大学の専門性を生かした方策の検討。 4. 各種行事内容の見直し ドレスコードイベントなど本学園の特色を生かした行事ではあるが、大学としての取り組みはやや消極的になりつつある。それらも含め学生の自主的な行事実施案があれば検討する。【共】

■検討組織名：学生支援委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 29 年 4 月 18 日	1. 年間活動方針と行事予定 2. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部奨学金、文化学園大学・文化学園大学短期大学部紫友会奨学金の規程について 3. 学生相談室報告 4. 総合学生生活委員会報告 5. 駐輪場移転について 6. 学生チャレンジプロジェクト助成金制度について
平成 29 年 5 月 30 日	1. 年間活動方針と行事予定(訂正) 2. 学生会リーダーズトレーニングについて 3. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部奨学金選考について 4. 緑道・学内巡回指導について 5. 新入留学生懇談会について 6. 学生相談室報告 7. 総合学生生活委員会報告 8. 学生チャレンジプロジェクト助成金制度について 9. 学生の情報共有について 10. フレッシュマンキャンプについて
平成 29 年 7 月 4 日	1. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部奨学金について 2. 緑道・学内巡回指導報告 3. 健康診断結果報告 4. 学生相談室報告 5. 総合学生生活委員会報告 6. 学生チャレンジプロジェクト助成金制度について 7. 新入留学生懇談会について 8. クラブ活動状況・クラブ部員数について
平成 29 年 7 月 25 日	1. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部奨学金について 2. 新入留学生懇談会結果報告 3. 私費外国人留学生授業料減免について 4. 総合学生生活委員会報告 5. 「受動喫煙ゼロ」キャンパスへの取り組みについて
平成 29 年 9 月 19 日	1. 学内巡回指導について(文化祭期間中) 2. 学生支援マニュアルについて 3. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部奨学金規程、文化学園大学・文化学園大学短期大学部私費外国人留学生授業料減免に関する規程の改定について 4. 学生相談室報告 5. 総合学生生活委員会報告 6. 「受動喫煙ゼロ」キャンパスへの取り組みについて 7. 新入留学生懇談会結果報告 8. 危機管理体制の確認について
平成29年 10 月 17 日	1. 緑道・学内巡回指導について 2. 学生チャレンジプロジェクト助成金制度について 3. 学生相談室報告 4. 総合学生生活委員会報告 5. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部奨学金選考保留者について
平成29年 11 月 21 日	1. リーダーズトレーニングについて 2. 学生支援マニュアルについて 3. 学生相談室報告 4. 総合学生生活委員会報告 5. 「Field of invaluable learning 2018」について 6. エレベーター用緊急装備品の設置について
平成29年 12 月 14 日	1. 緑道・学内巡回指導報告 2. 平成 29 年度自己点検・評価報告書について 3. 学生相談室報告 4. 学生チャレンジプロジェクト助成金制度審査保留者について 5. デートDV防止啓発講座について
平成 30 年 1 月 23 日	1. リーダーズトレーニングについて 2. 平成 29 年度自己点検・評価報告書について 3. 学生相談室報告 4. 総合学生生活委員会報告 5. デートDV防止啓発講座について 6. 平成 30 年度文部科学省外国人留学生学習奨励費応募者面接について
平成 30 年 2 月 16 日	1. リーダーズトレーニングについて 2. 学生チャレンジプロジェクト助成金制度について 3. 平成 29 年度自己点検・評価報告書について 4. 学生相談室報告 5. 総合学生生活委員会報告 6. 学生支援マニュアルについて 7. デートDV防止啓発講座について

■ 検討組織名：研究委員会

報告者：安永 明智

提出日：平成 30 年 4 月 2 日

<p>本年度の課題 (平成 29 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学の研究活動の活性化に関する課題【共】 <ol style="list-style-type: none"> (1) 研究活動の活性化に向けた研究組織体制のあり方に関する検討 (2) 研究活動の活性化に向けた研究関連予算のあり方に関する検討 2. 教員研究作品展に関する課題【共】 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「地域・社会への大学の知の開放」「研究作品の広報活動の場」の役割を果たすべき教員研究作品展のあり方に関する検討 (2) 来場者に対して研究作品の内容（教員の専門分野や素材、制作方法等）が伝わるような展示方法の検討 3. 特別公開講座に関する課題【共】 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「地域・社会への大学の知の開放」「大学の地域・社会貢献」の役割を果たすべき特別公開講座のあり方に関する検討 (2) 生涯教育の場としての若い世代を含めた幅広い世代の受講者の参加を促すような特別公開講座のあり方に関する検討
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学の研究活動の活性化に関する課題【共】 <ol style="list-style-type: none"> (1) 研究活動の活性化を目指した組織編成のあり方について検討した。平成 30 年度から、研究委員会と紀要編集専門委員会を統合し、大学の研究活動の活性化を促していく。 (2) 学内の研究関連予算のあり方について検討した。引き続き、教員の研究活動に対してより効果的な支援となるような教員研究費、研究室図書費のあり方について検討していく。 2. 教員研究作品展に関する課題【共】 <ol style="list-style-type: none"> (1) 平成 29 年 6 月 9 日～11 日の 3 日間、「第 32 回教員研究作品展」を、スペース 21（C 館 20 階）とホワイエ（A 館 20 階）で開催した。来場者数は 1171 人と平成 28 年度（1288 人）と比較して減少していたが、オープンキャンパスに合わせて開催したため、高校生の来場者は多かった。出展作品数は 42 点と平成 28 年度（43 点）と比較して、ほぼ同数であった。 (2) 来場者に対して研究作品の内容（教員の専門分野や素材、制作方法等）が伝わるように、作品にキャプションを付け、展示方法を工夫した。 3. 特別公開講座に関する課題【共】 <ol style="list-style-type: none"> (1) 平成 30 年 3 月 1 日、平成 29 年度文化学園大学特別公開講座「型絵染の魅力と制作の実際-制約から生まれる簡潔の美と可能性を求めて-（講師：造形学部・佐藤百合子教授）」を開催した。 (2) 公開講座の参加者数は 200 人と平成 28 年度（129 人）と比較して大幅増となった。参加者へのアンケート結果（回収数 120 部）から、参加者全体の約 80%が、公開講座の内容を「良い」「やや良い」と評価していたことから、講座への満足度は高かったことが伺える。また約 30%の参加者が「はじめて参加した」と回答しており、新規の参加者の獲得は一定の成果が見られた。しかし、参加者全体の約 80%が 50 代以上であり、若い世代の参加を促すことには課題が残った。
<p>次年度への 課題 (平成 30 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学の研究活動の活性化に関する課題【共】 <ol style="list-style-type: none"> (1) 研究活動の活性化に向けた研究組織体制のあり方に関する検討 (2) 研究活動の活性化に向けた研究関連予算のあり方に関する検討 (3) 競争的外部資金の獲得に向けた支援体制のあり方に関する検討 2. 教員の研究成果の発信に関する課題【共】 <ol style="list-style-type: none"> (1) 研究成果を社会・国民に広く発信するための方策に関する検討 (2) 「地域・社会への大学の知の開放」「研究作品の広報活動の場」の役割を果たすべき教員研究作品展のあり方に関する検討

■検討組織名：研究委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 29 年 4 月 18 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学外共同研究申請（4 件）の審議（承認）（平成 29 年 5 月 23 日教授会承認） 2. 平成 29 年度（第 32 回）教員研究作品展の準備に係る検討（開催日程、場所、等） 3. 平成 29 年度文化学園大学特別公開講座の準備に係る検討 4. 平成 29 年度研究室図書費に係る検討（配分額、等）
平成 29 年 5 月 16 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学外共同研究申請（1 件）の審議（承認）（平成 29 年 5 月 23 日教授会承認） 2. 平成 29 年度文化学園大学特別公開講座の準備に係る検討（役割分担、広報、等） 3. 平成 29 年度研究室図書費に係る審議（配分額の承認）（平成 29 年 5 月 23 日教授会承認） 4. 研究委員会、紀要編集専門委員会の再編に係る意見交換
平成 29 年 6 月 13 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学外共同研究申請（3 件）の審議（承認）（平成 29 年 6 月 20 日教授会承認） 2. 平成 29 年度（第 32 回）教員研究作品展に係る報告（来場者数、改善点、等） 3. 平成 29 年度文化学園大学特別公開講座の準備に係る検討（講師、日程、場所、等） 4. 平成 29 年度研究室図書費に係る検討（購入申請手続き、等） 5. 研究委員会、紀要編集専門委員会の再編に係る報告
平成 29 年 7 月 4 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学外共同研究申請（2 件）の審議（承認）（平成 29 年 7 月 11 日教授会承認） 2. 平成 29 年度文化学園大学特別公開講座の準備に係る検討（広報、等） 3. 教員研究作品集（図録）の作成に係る検討（出展作品の写真撮影終了の報告、等）
平成 29 年 10 月 3 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学外共同研究（2 件）・受託研究（1 件）の審議（承認）（平成 29 年 10 月 10 日教授会承認） 2. 平成 29 年度文化学園大学特別公開講座の準備に係る報告（準備状況、等） 3. 平成 29 年度研究室図書費（重点配分）に係る報告（申請状況）
平成 29 年 11 月 7 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学外共同研究申請（1 件）の審議（承認）（平成 29 年 11 月 21 日教授会承認） 2. 平成 29 年度文化学園大学特別公開講座の準備に係る報告（印刷物の準備状況、等） 3. 教員研究作品集（図録）の作成に係る検討・審議（ISSN 番号の登録作業を行うことを承認） 4. 平成 29 年度研究室図書費（重点配分）に係る審議（申請図書を購入を承認）
平成 29 年 12 月 5 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 29 年度文化学園大学特別公開講座の準備に係る報告（講演タイトルの決定、当日の役割分担、等） 2. 教員研究作品集（図録）の作成に係る報告（作業の進捗状況、等） 3. 平成 29 年度研究室図書費（重点配分）に係る報告（図書の納品チェックの状況）
平成 30 年 1 月 12 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 29 年度文化学園大学特別公開講座の準備に係る報告（印刷物の準備状況、当日のスケジュール及び役割分担、等） 2. 教員研究作品集（図録）の作成に係る報告（作業の進捗状況、等） 3. 平成 29 年度研究室図書費（重点配分）に係る報告（図書の納品チェックの状況） 4. 平成 30 年度（第 33 回）教員研究作品展の準備に係る検討（日程、場所、等）
平成 30 年 2 月 20 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 29 年度文化学園大学特別公開講座の準備に係る報告（当日のスケジュール及び役割分担、等） 2. 教員研究作品集（図録）の作成に係る報告（作品集の完成、納品完了） 3. 平成 29 年度研究室図書費（重点配分）に係る報告（図書の納品チェックの状況）
平成 30 年 3 月 9 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学外共同研究申請（1 件）の審議（委員会承認） 2. 平成 30 年度（第 33 回）教員研究作品展の準備に係る報告（予備登録状況、等） 3. 平成 29 年度自己点検・評価報告書の確認

<p>本年度の課題 (平成 29 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 29 年度オープンキャンパス・授業公開・サマーオープンカレッジ実施と結果の検討 2. 教員による高校訪問の実施と結果の検討 3. 入学事前教育プログラムに関する検討 4. 平成 30 年度オープンキャンパスのあり方の検討 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入学志願者の増加につながる学生募集活動のあり方と実施内容についての検討を行った。オープンキャンパスは、周知しやすい名称を用いて 6 回開催した（文化祭及び進学相談会 3 回を除く）。平成 27 年 4 月のキャンパス統合以降は新プログラムでの実施とし、全学科の時間進行を同一にし、大学の全体像を把握した上で各学部学科の特徴を理解できるような工夫を行った。また学科説明会では各学科教員による教育趣旨説明に加え、学生による学科特徴の解説、受験体験談を行い、受験生目線で教育内容と学生生活の実態が見えるよう充実を図った。結果、総来場者数は増加し、前年度比で 11.3% 増であった。授業公開では、オープンキャンパスの一環として特設日に授業を公開し、実際に行われる授業の傍聴体験を通して本学での学びの雰囲気を理解してもらうことを目的に 7 月 22 日に実施した。結果、前年度比で 29.6% 増であった。大型イベントとなるファッションショーと同時開催であることに加え、電子媒体の利用による的確な学校情報収集の上で、実際の体験を通じた大学選びがなされているようである。授業公開の形式や時間配分などについては委員会において議論を行い、ファッションショーの開催時刻の調整を依頼し、できるだけ多くの授業を見学できるよう配慮したところ、高校生の講座への滞在時間が長くなった。サマーオープンカレッジは 8 月 3 日～8 月 5 日の 3 日間で実施された。結果、受講者数は前年度比で 2.8% の増加であった。締切り期日以降に空席がある講座の受講希望者対応や、高校生にとって入学を意識できるような魅力的な講座内容であること、わかり易いパンフレットや Web 画面表示等、入学志願者の獲得につながる工夫を行う必要がある。 2. 教員の直接訪問の意義と訪問校の選定、短期的長期的効果についての検討を行った。平成 24 年度より全学的・組織的に実施している。結果、一都三県を中心に講師以上の専任教員が 1 人あたり 2～3 校を訪問した。訪問後の報告書は今後の学生募集活動への有益情報が多く、高校訪問の意義や質の確保について再検討の上で、平成 30 年度も継続的に実施することとしたが、教員の時間的負担による在学生の教育への影響についても検討の必要がある。 3. 各学科の取組状況と受講後の効果等を通して、入学までの準備教育について検討を行った。各学科の入学後の教育内容に関連する入学事前教育プログラムを実施している。平成 30 年度入学者の取組内容と平成 29 年度入学者の実施後の効果等を確認した。ほとんどの学科においてプログラムの開始時と終了時を比較すると成果の向上がみられ、入学までの準備期間における予備学習の有効性が窺えたが、教育内容の実情に合わせた実施の意義と取組内容の継続的な検討も必要である。 4. 学校行事及び入試のあり方に合わせた実施内容についての検討を行った。入試のあり方の検討の一部として、平成 29 年度オープンキャンパスの実施内容を踏まえ、A0 受験希望者をはじめ入学志願者を確実に出席へつなげる工夫について継続的に検討を行い、結果、在学生の直接的な参加を促し、活躍する様子を可視化することでキャンパス及び学生生活の雰囲気がより伝わる工夫を行っていくこととした。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への課題 (平成 30 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 30 年度オープンキャンパス・授業公開・サマーオープンカレッジ実施と結果の検討 2. 教員による高校訪問の実施と結果の検討 3. 入学事前教育プログラムに関する検討 4. 平成 31 年度オープンキャンパスのあり方の検討 <p style="text-align: right;">【共】</p>

■検討組織名：入試対策委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 29 年 4 月 18 日	1. オープンキャンパスについて（平成 29 年度の全体像の把握、初回開催の確認） 2. 高校訪問について（訪問時期、持参資料、ポスター原案） 3. 入学者数の増減について（入学者の増加要因等についての意見交換）
平成 29 年 5 月 16 日	1. オープンキャンパスについて（5 月実施回の内容確認等） 2. 高校訪問について（説明会、リーフレットとポスター確認） 3. 入学事前教育プログラムについて（平成 29 年度入学者の受講状況確認と平成 30 年度入学者向け内容確認） 4. 高校教員対象説明会について（内容確認） 5. 附属杉並高校 3 年生の授業見学会について（内容確認）
平成 29 年 6 月 13 日	1. オープンキャンパスについて（5 月・6 月実施回の状況報告、問題点等） 2. 授業公開について（実施内容と公開科目の確認） 3. 高校教員対象説明会について（報告） 4. 附属杉並高校 3 年生の授業見学会について（報告） 5. 大学進学意識調査の実施時期について
平成 29 年 7 月 25 日	1. 授業公開について（開催報告、問題点等） 2. オープンキャンパスについて（来訪者へのフォロー施策検討、アンケート報告） 3. サマーオープンカレッジについて（申込状況報告と改善） 4. 平成 30 年度入学事前教育プログラムについて（各学科の実施内容の確認） 5. 高校訪問について（各学科実施状況報告）
平成 29 年 9 月 19 日	1. A0 入試 1 期、A&A 入試について（出願状況と特待生の報告） 2. オープンキャンパスについて（7 月・8 月実施回の状況報告、改善案等） 3. サマーオープンカレッジについて（出席状況・アンケート報告） 4. 高校訪問について（報告書のとりまとめ、実施についての改善点等） 5. 平成 29 年度入試日程について（確認）
平成 29 年 10 月 24 日	1. サマーオープンカレッジについて（学科別参加者数、学科の状況確認） 2. 平成 30 年度オープンキャンパス・サマーオープンカレッジについて（日程案の検討） 3. 入学者選抜委員会ワーキンググループについて（報告） 4. 各入試志願者状況について（報告）
平成 29 年 11 月 28 日	1. A0 入試 2 期、推薦入試、留学生入試 1 期について（状況と結果の報告） 2. 平成 30 年度オープンキャンパス、サマーオープンカレッジについて（日程、内容の検討） 3. 進学相談会について（12 月実施回の内容確認）
平成 29 年 12 月 19 日	1. 進学相談会について（12 月実施回の開催報告） 2. 平成 30 年度オープンキャンパス、サマーオープンカレッジについて（日程案の確定、内容案の確定） 3. サマーオープンカレッジについて（広報の方法、欠席者対策について）
平成 30 年 1 月 23 日	1. 進学相談会について（2 月実施回の内容、アンケート確認） 2. 平成 30 年度オープンキャンパスについて（各回キャッチコピーの検討、学部学科紹介パネルの確認） 3. 高校訪問について（実施案の協議）
平成 30 年 2 月 27 日	1. 進学相談会について（3 月実施回の内容確認） 2. 平成 30 年度サマーオープンカレッジについて（開講講座の確認） 3. 入学事前教育プログラムについて（申込み状況報告） 4. 高校訪問について（訪問者選定について） 5. 平成 30 年度入試「特待生」決定数の報告
平成 30 年 3 月 20 日	1. 平成 29 年度入試結果について（入学手続き状況の報告） 2. 平成 30 年度高校訪問について（持参資料：リーフレット・ポスターの内容確認、実施までのスケジュール確認） 3. 進学相談会について（3 月実施回の申込み状況、内容の確認） 4. 平成 30 年度委員会への申し送り事項の確認

<p>本年度の課題 (平成 29 年度)</p>	<p>1. インターンシップの学生関心度アップと企業開拓 ①研修先でのトラブルがないよう事前教育を継続して徹底する。特に喫煙マナーについての検討が必要。②インターンシップ制度の多様化に伴い日程や単位などの検討を行う。③公開報告会の内容に関して、発表時間やグループ発表会の検討を行う。④コース単位報告会は効果を考え、年間スケジュールに盛り込みやすい時間を検討する。【大】</p> <p>2. 就職・キャリア支援 (1) 就職支援 ①担任・副担任と連携し、就職活動に消極的な学生指導の強化に取り組む。②就職講座出席率向上のため、次の取り組みを強化する。(担任・副担任、学生へメール、実習室に掲示、個人面談での出席促し、講座の実践的ネーミング検討、スケジュールの見直し)就職活動時期の変化に伴う情報収集及び分析を行い支援の具体案を検討する。④アパレル業界以外の企業開拓を行う。⑤短大生は就職講座出席率 80～90%の維持と就職率向上を目指す。【共】</p> <p>(2) キャリア支援 キャリア形成教育科目との連携として、企業見学実施への協力を行う。【短】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. インターンシップの学生関心度アップと企業開拓 ①事前教育は喫煙マナーを含む社会人としての教育を徹底した結果、トラブルはなかった。②日程や単位は現行通りとし、学外のもので自発的に参加する学生には自由に活発に行ってもらいその情報を共有した。日程や単位の検討は継続する。③内容検討したことで、分かりやすい報告会となった。④5月の学科会議にて各コースで早めの予定を立てるよう促し実施した。【大】</p> <p>2. 就職・キャリア支援 (1) 就職支援 ①担任・副担任に個人面談を依頼し、就職講座及び学内会社説明会への出席強化、就職活動状況把握に取り組んだ。今後も継続的に行う。②出席率向上のため、担任・副担任、学生へメール、実習室に掲示、個人面談での出席促し等の強化をした。出席率の低下が見られたのは景気による就職率上昇の影響かと考える。引き続き指導を継続する。講座の実践的ネーミング検討、スケジュールの見直しも継続する。③学生に周知し、時期に合った対応を確認するよう促した。④一時途絶えていた企業や卒業生が入社した企業のコンタクトから関係が再構築できた。アパレル業界以外の企業開拓は継続して行う。⑤出席率向上に努めたが前年に比べ下がった。就職意識の薄い学生が多かったためと考えられる。引き続き努力したい。【共】</p> <p>(2) キャリア支援 1月に企業見学を7社(1社8人程度)で実施し、働く意義を認識できた。【短】</p>
<p>次年度への課題 (平成 30 年度)</p>	<p>1. インターンシップの学生関心度アップと企業開拓 ①研修先でトラブルが無いよう事前教育の徹底を継続する。②事前事後教育の日程、期間の検討を継続する。③コース単位報告会を年間スケジュールに入れやすい時間の検討をする。④学生に分かりやすいよう造形学部の1・2次募集を1回の募集とし実りある結果を目指す。⑤インターンシップ参加者の減少に伴う、解決策について検討する。【大】</p> <p>2. 就職・キャリア支援 (1) 就職支援 ①担任・副担任と連携し、就職活動に消極的な学生支援強化に継続して取り組む。②就職講座出席率向上のため、次の取り組みを強化する。(担任・副担任、学生へメール、実習室に掲示、個人面談での出席促し、講座のネーミング及び内容の検討、スケジュールの見直し)③男子及び留学生向け企業開拓と支援の検討及び専門分野に特化した企業開拓を行う。④卒業後の起業支援について検討する。⑤就職講座の単位化について検討する。【共】</p> <p>(2) キャリア支援 ①学部はキャリア形成教育科目との連携で、企業見学や企業講師による講話の取り入れを検討する。短期大学部は企業見学実施を継続する。【共】</p>

■検討組織名：就職委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 29 年 4 月 17 日	1. 各小委員会の活動報告 2. 平成 29 年度 就職委員会活動計画について 3. その他(平成 28 年度内定状況、採用選考に関する指針・手引き、インターンシップ方針、就職講座お知らせ、求人票受理件数)
平成 29 年 5 月 16 日	1. 各小委員会の活動報告(就職委員会活動計画、インターンシップ) 2. 就職状況及び学生の活動状況について 3. その他(採用選考に関する指針、インターンシップ公開報告会)
平成 29 年 6 月 13 日	1. 各小委員会の活動報告(インターンシップ) 2. 就職状況及び学生の活動状況について 3. その他(インターンシップ参加者、事前教育、夏季就職講座)
平成 29 年 7 月 18 日	1. 各小委員会の活動報告(インターンシップ履修状況) 2. 就職状況及び学生の活動状況について 3. その他(インターンシップ)
平成 29 年 9 月 19 日	1. 各小委員会の活動報告(インターンシップ公開報告会) 2. 就職状況及び学生の活動状況について 3. その他(インターンシップ参加学生)
平成29年 10 月 24 日	1. 各小委員会の活動報告(インターンシップ公開報告会、卒年生の就職支援、企業見学) 2. 就職状況及び学生の活動状況について 3. その他(インターンシップ履修取消者アンケート実施、求人のためのご案内作成、企業懇談会)
平成29年 11 月 28 日	1. 各小委員会の活動報告 2. 就職状況及び学生の活動状況について 3. その他(認証評価、卒業生・企業アンケート、就職講座)
平成 30 年 1 月 16 日	1. 各小委員会の活動報告(就職講座出席率、就職意識、次年度就職講座スケジュール) 2. 就職状況及び学生の活動状況について 3. その他(自己点検・評価報告書、次年度インターンシップスケジュール、春季就職講座、学内合同企業セミナー)
平成 30 年 2 月 27 日	1. 各小委員会の活動報告(インターンシップ、就職講座出席率、男子・留学生の就職支援、就職講座単位化) 2. 就職状況及び学生の活動状況について 3. その他(就職内定状況調査、ワンデーインターンシップ弊害是正提言、学内合同企業セミナー)
平成 30 年 4 月 17 日	1. 各小委員会の活動報告 2. 就職状況及び学生の活動状況について 3. その他

■ 検討組織名：研究倫理委員会

報告者：野口 京子

提出日：平成 30 年 4 月 2 日

本年度の課題 (平成 29 年度)	1. 教員・大学院生及び学部学生の研究の広域化を前提に、倫理規程の周知と新たな事態の対応に努めるべく、活動を強化する。 【共】
取組の結果と 点検・評価	1. 研究倫理啓発のために本委員会（大学院国際文化研究科長）による講演会を開き、研究倫理に関するガイドラインの周知に努めた。 2. 学術研究・論文の事前研究倫理審査にあたり、迅速審査申請であっても、課題によって委員会を開催し、各視点から慎重に審査した。 【共】 平成 29 年度の倫理申請審査件数 教員 16 件 学生 5 件
次年度への 課 題 (平成 30 年度)	1. 平成 29 年度に準備した研究倫理と研究データの保存等に関する情報を含んだリーフレットを、教員、大学院生、学部学生（卒業研究作成者）に配付し、研究倫理教育をさらに徹底していく。 【共】

開催年月日	講演会の開催記録
平成29年 7 月 11 日	研究倫理啓発のための講演会 テーマ：研究倫理教育について 講演者：研究倫理委員会委員長・本学大学院国際文化研究科長 出席者：助手を含む全教員 講演時間：約 1 時間

開催年月日	会議等の開催記録
平成29年 6 月 28 日	1. 研究倫理の審査 3 件の申請について審査し、1 件を迅速審査として承認、1 件は再度詳細な内容を記載した申請書の提出を求め、1 件は本学内で行う必要性について疑義があったため不可とした。
平成29年 7 月 12 日	1. 研究倫理の審査 2 件の申請について審査し 1 件は承認。1 件は実験遂行上の安全面に懸念される部分があると考えられるため、委員会から安全に配慮する提案を行い、申請者には再検討の上、申請書類を再提出いただくこととした。 2. 委員会規程の改定について 規程の一部について、次回委員会で再検討することとした。
平成29年 7 月 25 日	1. 研究倫理の審査 1 件の申請について審査し承認した（7 月 12 日の委員会において再提出とした申請）。 2. 委員会規程の改定について 改めて検討した結果、本委員会の規程については改定しないことを承認。 3. 書面質問の作成について 実験の同意を得るための書面質問については、すでに書式例が示されているものを使用して、内容証明書を作成してもらい、本委員会で審査することとする。

■検討組織名：研究活動不正使用防止委員会

報告者：野口 京子

提出日：平成 30 年 4 月 1 日

<p>本年度の課題 (平成 29 年度)</p>	<p>1. 研究活動不正防止に係る各規程に基づき、不正防止対策の実行に努める。 2. 文部科学省の通達等を踏まえて、より実効性のある不正防止対策を検討する。</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>3. 各規程に基づき、以下の研究活動不正防止のための教育を実施した。 (1) 大学院生を対象にした研究倫理教育 (2) 教員を対象にしたコンプライアンス研修会 (3) 教員を対象にした研究倫理研修会 なお、コンプライアンス研修会に関しては、アンケートで受講者の理解度を確認した。 また、研究活動不正防止のための教育、内部監査、誓約書の徴取などの実施状況を確認し、結果としては特段の問題はなかった旨を確認した。</p> <p>2. 文部科学省の通達を踏まえて、以下の取組みを行った。 平成 30 年 1 月 23 日付で文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課研究公正推進室から各研究機関代表者宛に送付された「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドラインに基づく取組の徹底について」を踏まえて、「学生用研究倫理リーフレット」及び「研究データの保存等に関する内規」を策定し、検討・協議した。</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 30 年度)</p>	<p>1. 継続して研究活動不正防止に係る各規程に基づき、不正防止対策の実行に努める。 2. 文部科学省の通達等を踏まえて、より実効性のある不正防止対策を検討する。</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>

開催年月日	会議等の開催記録
平成 29 年 4 月 8 日	<p>大学院生を対象とした研究倫理教育</p> <p>1. 研究活動と研究を取り巻く背景 2. 誠実な研究を行うための諸規程 3. 不正行為とは 4. 実験ノート、調査ノートの取り方</p>
平成 29 年 6 月 20 日	<p>コンプライアンス研修会</p> <p>1. 不正をした研究者への措置 2. 不正事例について（プール金、カラ出張等） 3. 不正事例の公表</p>
平成 29 年 7 月 11 日	<p>研究倫理研修会</p> <p>1. 研究倫理とは 2. 研究不正行為とは 3. 不正行為の防止について 4. 研究倫理に関する本学の規程</p>
平成 30 年 3 月 6 日	<p>研究活動不正防止委員会</p> <p>1. 不正行為への取組みの徹底に関する通知 2. 平成 29 年度の不正活動実施状況 3. その他</p>

■ 検討組織名：ハラスメント防止委員会

報告者：永野 順子

提出日：平成 30 年 4 月 2 日

<p>本年度の課題 (平成 29 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員会が「ハラスメント防止委員会」に発展的に改称してから 10 年以上が経過したことから、記録の廃棄年度を越えており、これを記載した「申し送り事項」等の再検討を行う。併せて今後の委員会のありかたについて検討を行う。 2. 平成 29 年度相談員研修について、学園内の他の学校との合同開催の可能性について検討する。 3. 教職員全体に対し、引き続きハラスメント防止への意識啓発をはかる。 【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「申し送り事項」に示された方針に沿って、本委員会の取扱事案で 10 年を経過した事案の記録に関わる書類の取り扱いについて検討した。その結果、10 年前の書類(2007 年の取り扱い事案)を方針通り廃棄することとした。 2. 平成 29 年度相談員研修について、学園内の他校との合同開催は、各学校の学事日程の調整がつかず、開催に至らなかった。 3. 新入生全員に対し「リーフレット」を配布し、ハラスメントへの意識啓発とそれに対応した委員会の活動について広報した。また、新任の非常勤講師の先生には本学のハラスメント防止に対応するガイドラインの送付とともにハラスメント防止への協力を依頼した。 4. 平成 29 年度に本委員会が受けたハラスメント事案は 0 件であった。 <p><点検評価></p> <p>平成 29 年度に課題として設定した相談員研修を実施できなかった。その他の事項は概ね達成することができたが、従来作成してきた配布資料で、過去 1 年間の「大学関係ハラスメント事例と処分」と題する文書の各研究室への配布ができなかったことは課題を残す結果であった。一方で、平成 29 年度の取扱案件が 0 件であったことは、委員会のこれまでの意識啓発の成果であったと考える。 【共】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 30 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 28 年度同様 10 年以上が経過した取扱事案の記録の廃棄を実施し、併せて今後の委員会のありかたについて検討を行う。 2. 平成 30 年度相談員研修のありかたについて検討する。 3. 教職員全体に対し、ハラスメント防止への意識啓発をはかり、併せてその方法についても検討する。 【共】

開催年月日	会議等の開催記録
平成 29 年 4 月 5 日	リーフレット「NO Harassment!」の配布 <ol style="list-style-type: none"> 1. 全新生にリーフレットを配布 2. 新任の全非常勤講師にリーフレットとともにハラスメント防止への協力要請文を送付
平成 29 年 7 月 26 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. ハラスメント問題 対応に関する申し合わせ事項の内容確認 2. 相談員研修について 3. 研究室配布資料「2016 年～2017 年上半期大学関係ハラスメント事例と処分」について 4. ハラスメント防止に関するリーフレットについて
平成 30 年 3 月 5 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 29 年度の委員会活動について 2. 平成 29 年度「自己点検・評価報告書」の内容確認 3. 「2007 年度の取扱事案」の記録、関連資料の廃棄とその報告

■検討組織名：文化・語学研修専門委員会

報告者：加藤 薫

提出日：平成 30 年 4 月 2 日

<p>本年度の課題 (平成 29 年度)</p>	<p>1. 文化・語学研修 「文化・語学体験プログラム（国内）」に関しては、これまでの状況に鑑みて、プログラムのあり方を大幅に変えることも視野に入れ、検討していく。</p> <p>2. 海外留学 (1) 事前審査のあり方について改善後の状況によっては引き続き検討を行い、意欲のある学生の参加を促す一方で、安易な留学を防ぐようにする。 (2) 「誓約書」の書式について、社会情勢等の変化を踏まえ、見直しを行う。 【大】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 文化・語学研修 「文化・語学体験プログラム（国内）」については、あり方の変更を検討したものの大幅な変更を決断するには至らなかった。</p> <p>2. 海外留学 (1) 事前審査のあり方について検討し、留学の認定条件に関して、GPA 上のボーダーライン（目安）を設定することで、安易な留学を防ぐようにした。 (2) 「誓約書」の書式について、社会情勢等の変化を踏まえ見直した。 【大】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 30 年度)</p>	<p>1. 文化・語学研修 「文化・語学体験プログラム（国内）」に関して、今年度の参加状況に鑑み、研修内容の変更等を行うかどうか、本年度の大きな課題として結論を出す。</p> <p>2. 海外留学 (1) 留学に関しては、学生の意欲を喚起しつつ、昨年度設定された GPA 上のボーダーラインをもとに適切な審査を行う。 (2) 「誓約書」の書式については現状に則したものとなるよう検討を継続する。 【大】</p>

開催年月日	会議等の開催記録
平成29年5月23日	<p>1. 文化学園大学留学規程に基づくアメリカへの留学の申し出に関して審議を行い、承認した。 (平成 29 年 6 月 20 日教授会承認)</p> <p>2. 「誓約書」の内容について見直しをし、修正を行った。</p>
平成29年11月14日	<p>1. 文化学園大学留学規程に基づくアメリカへの留学の申し出に関して審議を行い、承認した。 (平成 29 年 12 月 12 日教授会承認)</p> <p>2. 文化学園大学留学規程に基づくカナダへの留学の申し出に関して審議を行った結果、不承認とした。</p>

<p>本年度の課題 (平成 29 年度)</p>	<p>1. テキスタイルアドバイザー(TA)実習について</p> <p>(1) 「テキスタイルアドバイザー実習」の授業内容を充実させ、実習に反映させていく。</p> <p>(2) 4 年次における就職活動をより活発にするため、実習時期を 3 年次に移行することを念頭に、実習先機関との対応を含めて実習時期の検討を行う。</p> <p>2. カリキュラムについて</p> <p>(1) 教育内容の充実のため、開講推奨科目への対応と選択科目の変更等、さらなる検討を行う。</p> <p>(2) ファッションクリエイション学科とする学科名変更に伴い、衣料管理士の教育課程のあり方を再考し、学生の要望を敏感に捉え、社会のニーズに応じたカリキュラム構築を行う。</p> <p>(3) 定員について、平成 28 年度は定員 40 人に対して、47 人が資格申請を行った。平成 29 年度以降は定員についても検討を要すると考えられる。 【大】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. テキスタイルアドバイザー(TA)実習について</p> <p>(1) 授業内容の構成は、①繊維の基礎知識、②繊維製品の試験法・解説、③布地の取り扱い方法、 取扱い絵表示、⑤外部講師による講義 (TA を取得し活躍している卒業生も含む)、⑥実習先と 実習内容の確認を行い、より具体的で、実習に役立つものとして、学生の評価も良好であっ た。</p> <p>(2) 平成29年度の実習は、夏季(8、9月)及び春季(2、3月)において、19 の機関にて 35 人(3 年次 生：25 人、4 年次生：10 人)の学生が実習を行った。実習時期を、総じて 3 年次に移行するこ とができた。また新規に実習先を 1 件 ((株)生活品質科学研究所) 増やすことが出来た。</p> <p>2. カリキュラムについて</p> <p>(1) 教育内容及び資格取得者数の充実を図るため指定科目の検討を行い、「アパレル設計論」を 「ファッション造形学 I」、「アパレル生産実習」を「アパレル縫製実習 II」、「アパレル設計実 習」を「ファッション造形学実習 A I」に対応させるべく、担当教員並びに日本衣料管理協会 と話し合いを行った。また指定科目変更に伴い、教員資格及びシラバスの事前審査を日本衣料 管理協会へ依頼し、概ね認められた。</p> <p>(2) 新カリキュラムに伴い、資格単位履修制の見直しを行い、平成 30 年度入学生より「選択履修 制」から「一様履修制」に変更するため、指定科目を見直し、厳選した。</p> <p>(3) 平成 29 年度は定員 40 人に対して、資格申請を行ったのは 29 人であった。定員については、 資格開設当初において学科学生数の 10% + α という概念に基づいて提案されたものと考え られるが、資格取得者の減少は今後の運営に大きく影響するため、十分な調査・検討を要する と考える。 【大】</p>
<p>次年度への 課 題 (平成 30 年度)</p>	<p>1. テキスタイルアドバイザー(TA)実習について</p> <p>(1) 「テキスタイルアドバイザー実習」の授業内容を充実させ、実習に反映させていく。</p> <p>(2) 実習時期を 3 年次に移行することを念頭におき、実習先機関との対応を含めて実習時期の検 討を行う。</p> <p>2. カリキュラムについて</p> <p>(1) 「消費科学」の担当教員が平成 30 年度で退職となるため、認定教員の選定が必要である。</p> <p>3. 資格取得者減について</p> <p>(1) 衣料管理士のあり方や教育課程のあり方を再確認し、学生の要望を敏感に捉え、社会のニーズ に応じた資格のトータルのプロデュース及びプロモーションを行う。 【大】</p>

■ 検討組織名：衣料管理士課程専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 29 年 4 月 7 日	1. 平成 29 年度衣料管理士課程専門委員、役割分担について 2. 自己点検・評価の提出について 3. 「テキスタイルアドバイザー実習」授業内容の確認・外部講師の検討 4. 実習生と実習先の検討
平成 29 年 5 月 29 日	1. カリキュラムについて 2. 大学正会員年次報告書の確認 3. 実習先と実習期間の確認、依頼人数の検討
平成 29 年 6 月 12 日	1. カリキュラムについて 2. 実習事前授業の講師依頼検討 3. 学生の実習先の検討
平成 29 年 6 月 15 日	1. カリキュラムについて 「テキスタイルアドバイザー実習」の 3 年次履修の検討 2. 学科会議再審議（「テキスタイルアドバイザー実習」年次変更（4 年次→3 年次）検討
平成 29 年 7 月 3 日	1. 学生の実習先の確認
平成 29 年 7 月 24 日	1. 実習先への教員挨拶担当決め 2. カリキュラムについて
平成 29 年 9 月 15 日	1. 実習先挨拶者による報告（平成 30 年度の実習時期、実習人数等） 2. カリキュラムについて 3. 実習報告会欠席者への対応の検討 4. 「テキスタイルアドバイザー実習」成績評価
平成 29 年 11 月 13 日	1. カリキュラムの検討及び確認 2. 衣料管理士資格取得に関する手続きの説明会について 3. 平成 30 年度年度の履修先の検討
平成 29 年 12 月 20 日	1. 日本衣料管理協会認定事前審査の結果報告
平成 30 年 1 月 10 日	1. 日本衣料管理協会会長賞の選出 2. 協会認定事前審査の結果報告 3. 資格認定証交付等手続き書類の確認 4. 2～3 月の実習生の公欠について

開催年月日	学生指導等の記録
平成 29 年 4 月 6 日	ファッションクリエイション学科 1、2 年生対象 資格取得のためのガイダンス
平成 29 年 4 月 7 日	服装造形学科 3 年生対象 資格取得のためのガイダンス
平成 29 年 4 月 8 日	服装造形学科 4 年生対象 資格取得のためのガイダンス
平成 29 年 9 月 21 日	実習事後報告会（13：00～17：00）
平成 29 年 11 月 30 日	資格認定証交付等の手続きに関する説明会
平成 29 年 12 月 5 日	（同一内容で 2 回実施）
平成 29 年 12 月 14 日	3 年生対象 衣料の使用実態調査（日本衣料管理協会より依頼）の説明会
平成 30 年 1 月 30 日	衣料の使用実態調査の回収、点検
平成 30 年 1 月 24 日	2 月・3 月実習生（3 年生）のための事前教育（12：20～13：00）

■ 検討組織名：建築・インテリア系資格専門委員会

報告者：谷口 久美子

提出日：平成 30 年 4 月 2 日

<p>本年度の課題 (平成 29 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 建築士試験の指定科目の確認申請(更新申請) 2. 在学生の資格取得支援対応策の継続 3. 卒業生・在学生の受験及び資格取得調査の継続と PDCA サイクルの構築 4. 建築・インテリア学科のコース編成及びカリキュラムの変更に伴う「商業施設士」のカリキュラム認定申請 【大】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 建築士試験の指定科目の確認申請(更新申請) 建築士試験の指定科目に該当すると認められた開講科目については、指定科目審査基準により 4 年に一度、当該開講科目が引き続き指定科目に該当するものであることを確認することが定められており、本学は平成 30 年度入学者について更新申請の必要があった。9 月から指定科目及びシラバスの確認を始め 10 月末日に建築技術教育普及センターへ提出した結果、12 月 2 日付で修正指示があり、1 月末に修正提出、3 月 30 日に承認された。 2. 在学生の資格取得支援対応策の継続 例年実施している資格対策講座(コラボレーション科目 3 講座、課外授業 3 講座)について、開講するかどうか、また開講する場合の実施方法について再検討し、平成 30 年度もできるだけ実施する方向で意見がまとまった。実施時期等を含めた具体案については、担当責任者が検討し、これまで課外授業として実施していた福祉住環境コーディネーターをコラボレーション科目として実施すること、コラボレーション科目として実施していたキッチンスペシャリストは担当教員の退職に伴い担当教員を変更して継続することとなった。 平成 30 年度は、コラボレーション科目として開講する 4 講座(「インテリアプランナー設計製図試験対策講座」、「マンションリフォームマネジャー資格講座」、「キッチンスペシャリスト資格講座」、「福祉住環境コーディネーター資格講座」)と課外授業 2 講座(インテリアコーディネーター、商業施設士)を実施する。 3. 卒業生・在学生の受験及び資格取得調査の継続と PDCA サイクルの構築 例年通り、在学生についてはオリエンテーション時に、卒業年次生については 3 月卒業時に建築・インテリア系資格の受験及び資格取得状況について調査した。また卒業生の建築士資格取得について、平成 30 年 4 月に発行される紫友会報に案内を同封した。調査結果は学科会議において報告しているが、今後の調査データの活用などについては、平成 30 年度の継続課題とする。 4. 建築・インテリア学科のコース編成及びカリキュラムの変更に伴う「商業施設士」のカリキュラム認定申請 平成 30 年度への継続課題とする。 【大】
<p>次年度への課題 (平成 30 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在学生の資格取得支援対応策の継続 2. 卒業生・在学生の受験及び資格取得調査の継続と PDCA サイクルの構築 建築・インテリア学科のコース編成及びカリキュラムの変更に伴う「商業施設士」のカリキュラム認定申請(平成 28 年度入学生対象) 【大】

■検討組織名：建築・インテリア系資格専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成29年9月12日	1. 建築士試験の指定科目の確認申請(更新申請)について、建築・インテリア学科会議にて更新申請のスケジュールを報告し、指定科目の見直し、シラバス執筆について依頼した。
平成29年11月10日	1. インテリアコーディネーター資格対策講座の実施継続について、審議の結果、平成30年度も継続して実施する方針が決まった。 2. 学部3年次を対象に、商業施設士補の学内講習会を11月18日に学内で開催することになった。建築士試験の指定科目の確認申請(更新申請)について建築技術教育普及センターへ提出したことを報告した。
平成30年1月17日	1. 平成30年度資格支援対策講座(コラボレーション授業含む)について、現状の講座について確認・検討した結果、委員会としては、平成30年度もできるだけ実施する方向で意見がまとまった。 2. 各資格試験の受験、合格状況、二級建築士受験対策講座などの実施状況について報告した。平成30年度履修要項の建築士指定科目の記載について、建築士指定科目更新申請の審査結果により分類を修正した科目があったため、履修要項の記載についても修正する必要がある。現在の表記では指定科目の選択要件が難解なため、わかりやすくなるように表現方法を検討することが決まった。

<p>本年度の課題 (平成 29 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新指針に基づき、履修方法の見直しを行う。 法務省告示の平成 29 年 8 月 1 日施行の「日本語教育機関の告示基準解釈指針」(新指針)への対応 2. 新指針に基づき、修了記載内容の見直しを行う。 3. 引き続き、服装学部と造形学部からの履修生の状況を確認する。 4. 平成 29 年度「日本語教育実習」の実習方法を検討する。 【大】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新指針に基づき履修方法の見直しを行う。 平成 12 年 3 月文化庁の「日本語教育のための教員養成について」では、「社会・文化・地域」、「言語と社会」、「言語と心理」、「言語と教育」、「言語」の五つの区分にわたり、26 単位以上の授業科目が課程に設定されるべきとされているが、新指針ではその方針が改めて確認されたため、課程科目の確認を行った。その結果、各学科のカリキュラム変更により、科目名として「言語と心理」に対応する科目が現在不足していることが確認された。本課程には「言語、教育」に関する科目、「社会、文化、地域」に関する科目の選択必修科目が設定されているが、総合教養科目の「心理学」を「社会、文化、地域」に関する科目の選択必修科目に加えることとした。さらに、「社会、文化、地域」に関する科目の定義を現行から「心理、文化、社会、地域」に関する科目へと変更し、「心理」も教育内容に含むことを明示した。ただ、指針の「言語と心理」の区分で扱うべきとされている下位項目の内容は「日本語学概論」「異文化コミュニケーション」でも扱われているため、修了証等において、客観的に明示することも課題となる。 2. 新指針に基づき、修了記載内容の見直しを行う。 新指針では、大学が発行する証明書などにおいて新基準及び解釈基準が示す日本語教員の要件を満たしていることを確認できることが必要であるとされている。変更必要箇所については前項目に示すとおりである。記載方法は来期も継続して検討する。 3. 服装学部と造形学部からの履修生の状況 造形学部 2 年生に履修者を確認できたので、他学部他学科履修の継続の便を図る。 4. 平成 29 年度「日本語教育実習」の実習方法を検討する。 学外の日本語学校に依頼し、教壇実習を含む 1 週間の実習を行った。実習後に当該日本語学校で実習学生は教育実習の体験についてプレゼンテーションを行い、学生にとって学びの多い実習を実施できた。 【大】
<p>次年度への課題 (平成 30 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新指針への対応を引き続き行う。 2. 課程履修者が 3 年次後期に履修を取り消す例が見られる。それぞれの学科における資格取得や課題などが原因のようである。対策を検討する。 3. 平成 28 年度より服装学部・造形学部の学生も当該資格課程を履修可能としたが、希望者が少ないため、対応策を検討する。 4. 「日本語教育実習」の実施が難しくなっていることから、実習方法を検討する。 【大】

■ 検討組織名：日本語教員養成課程専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 29 年 4 月 3 日	1. 平成 29 年度教育実習校の選定 (平成 29 年 7 月 11 日教授会承認)
平成29年 12 月 20 日	1. 平成 28 年 7 月 22 日公示「日本語教育機関の告示基準（新基準）」「日本語教育機関の告示基準解釈指針（解釈指針）」が平成 29 年 8 月より施行されるにあたり、そこで指定されている「日本語教員の要件」と本課程の科目との整合性及び平成 30 年度課程科目の追加についての検討と決定。
平成 30 年 2 月 28 日	1. 平成 29 年度修了生の修了認定についての承認 (平成 30 年 3 月 5 日教授会報告) 2. 課程履修者の履修中断について状況の報告 3. 平成 30 年度以降の課程修了証の内容変更についての検討 4. 平成 29 年度日本語教育能力検定試験合格の報告

■ 検討組織名：紀要編集専門委員会

報告者：高村 是州

提出日：平成 30 年 4 月 2 日

<p>本年度の課題 (平成 29 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 紀要の果たす研究成果発表の場としての役割について 本学における研究のあり方を踏まえたうえで、紀要が果たすべき研究発表の場としての役割を明確にしていく。 2. 投稿者の拡大 投稿から採録までの流れを円滑にすることで本学教員のみならず、共同研究をしている外部の方や大学院生等、広く投稿できるよう方策について議論を深める必要がある。 3. 制作・表現系統の投稿論文について 制作・表現系統の制作実践を研究としてどのように評価するのか継続して検討を進め、新規投稿区分である「作品ノート」の活用法についても議論を深め、制作・表現系統のよりよい環境作りを目指す必要がある。 【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究環境及び研究報告の場を整備することを目的に、平成 30 年度より研究委員会と紀要編集専門委員会を統合することが教授会にて承認された。新しい研究委員会は、学長指名による特別委員会となり、これまで以上に研究のあり方について包括的に議論できる場となることが見込まれる。今後は「学内研究発表会」や「教員作品展」と連動した新しい紀要のあり方についての議論を深めていくこととする。 2. 委員の先生方からのアナウンスなどを通じて本学教員への認知度も徐々に上がっていき、投稿数が昨年の 14 (研究論文 9、研究ノート 4、作品ノート 1) から 20 (研究論文 8、研究ノート 10、作品ノート 2) へと大きく増やす結果となった。 3. 投稿区分の改定を図り、「研究論文」、「研究ノート」、「書評」、「文献・資料紹介」に加え、「作品ノート」を加えて 2 年目となるが、制作・表現系統の先生方の紀要への投稿が徐々にではあるが増えてきている。今後も制作・表現系統の制作実践を積極的に掲載することによって投稿者の拡大とともに、本学の教育・研究の特色を内外にアピールする機会としていく。 【共】
<p>次年度への 課題 (平成 30 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 紀要編集専門委員会の統合 平成 30 年度からは研究委員会と紀要編集専門委員会が統合することになるが、紀要の果たす研究成果発表の場としての役割について、本学の特色である「ものづくりの大学」という視点を軸に、学術、芸術、教育など幅広い研究成果を記録にとどめる必要がある。 2. 投稿者の拡大 投稿から採録までの流れを円滑にすることで本学教員のみならず、非常勤講師、共同研究をしている外部の方や大学院生等、広く投稿できるよう方策について議論を深める必要がある。 3. 制作・表現系統の投稿論文について 制作・表現系統の制作実践を研究としてどのように評価するのか継続して検討を進め、新規投稿区分である「作品ノート」以外にも作品に関する査読つき論文の新しい区分についての検討を具体的に始め、その活用法について議論を深め、制作・表現系統のよりよい環境作りを目指す必要がある。 【共】

■検討組織名：紀要編集専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 29 年 5 月 30 日	1. 編集スケジュールの検討 2. 執筆要項・査読ガイドライン・登録案内書類・登録フォームの検討 3. 研究委員会との統合について
平成 29 年 6 月 13 日	1. 編集スケジュールの検討 2. 執筆要項・査読ガイドライン・登録案内書類・登録フォームの検討 3. 原稿提出要領の検討
平成 29 年 7 月 19 日	1. 登録者数の確定・追加登録の検討 2. 査読者候補の選定と担当委員の割り振り 3. 原稿提出要領等の確認
平成 29 年 9 月 12 日	1. 査読者の確定 2. 査読依頼書類の確認
平成 29 年 9 月 26 日	1. 研究論文原稿の受取り 2. 査読者への原稿渡し、結果受取り要領の確認 3. 冊子配付数調査依頼方法の確認
平成 29 年 10 月 17 日	1. 研究論文査読結果の確認 2. 投稿者への通知・回答書作成要領の確認、再査読結果の受取要領の確認 3. 冊子配付数・印刷部数・郵送先の確定
平成 29 年 11 月 14 日	1. 研究論文修正原稿・回答書、研究ノート・作品ノート原稿の受取り 2. 査読者への修正原稿渡し、結果受取り要領の確認 3. ネイティブチェック実施方法の確認 4. 印刷業者入札
平成 29 年 11 月 28 日	1. 再査読結果の確認・掲載可否の決定・通知書類の確認 2. ネイティブチェックの結果の確認 3. 印刷業者入札結果の確認
平成 29 年 12 月 5 日	1. 研究論文最終原稿受取り、印刷業者への入稿 2. 初校以後のスケジュール確認 3. 電子化及びインターネット等公開許諾書・配信方法の確認 4. 紀要編集専門委員会と研究委員会の統合について (平成 29 年 12 月 12 日研究委員会規程(改定案)を教授会にて承認)
平成 30 年 1 月 16 日	1. 印刷業者への初校戻し、再校の受取り・配付方法の確認 2. 原稿全体の体裁についての確認 3. 電子化及びインターネット等公開許諾書の回収 4. 執筆者・査読者アンケートの実施要領確認
平成 30 年 2 月 6 日	1. 印刷業者への再校戻し 2. 最終校の確認スケジュールについて 3. 執筆者・査読者アンケートの実施要領確認
平成 30 年 3 月 6 日	1. 紀要第 49 集の納品及び各部署への配付作業 2. 執筆者・査読者アンケート結果の確認 3. 自己点検・次年度に向けた検討事項等について

■ 検討組織名：教職課程専門委員会

報告者：福井 路可

提出日：平成 30 年 4 月 2 日

<p>本年度の課題 (平成 29 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の質的变化に伴う指導方法の検討。 2. 教職課程取消者数を減少させるための検討。 3. 教育実習校成績評価向上にむけた事前教育のあり方等包括的検討。 4. 文化学園大学・教職研究会との有機的連携等、充実と具体策の検討。 5. 教員採用試験対策講座の継続と充実。 【大】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学力、教職志望度に学生間の違いがあるため、個別指導の必要性に大きな変化はないが、教員間の情報共有を行い、入学時から卒業まで継続的に学生の動向を観察し、適宜指導することが必要であるとともに、教職課程履修カルテと教職課程履修ノートの活用が大切である。 2. 教職課程の履修意志の曖昧さ、教職への魅力の減退、進路変更等の理由で学年が上がるにつれて履修者数の減少傾向への対策が引き続き必要である。とくに 2 年次進級時点での減少傾向が顕著で、1 年次へのよりの確な個別対応と指導が必要とされる。新入生オリエンテーション教職課程ガイダンス及び前期授業において「教職履修の意義・魅力」を重点的に展開した結果、平成 28 年度は 1 割の減少にとどめる成果がみられたが、1 年次課程取消者数は服装学部（家庭）が半数を超えてしまった。平成 29 年度は 2 割の減少、1 年次課程取消者数は 4 割であった。 3. 平成 25 年度からの追跡調査より、教育実習校における項目評価の「学習指導、資質・能力」については、履修審査対象科目の専門教育科目評価との相関性が認められたことをうけ、教育実習生の実習校からの評価、要望を周知することを目的に、教職必修科目（総合教養科目・外国語科目・専門教育科目・教職に関する専門教育科目）の全担当者に継続して教育実習報告書を配付した。また、事前教育については、外部講師と実習校との綿密な連携により充実を図った。 4. 文化学園大学・教職研究会は平成 29 年度で 5 回目の開催となった。今回より美術教諭 3 人が参加した。文化学園大学・教職研究会の参加教諭（家庭）が、「教育実習集中事前教育」の外部講師として教科指導についての講義を担当した。教職課程履修学生の文化学園大学・教職研究会への参加については、研究会としての内容も含め、教職実践の観点からもさらに交流の機会を増やしたい。 5. 平成 28 年度に引き続き教員採用試験受験学生への支援として実施した。当初の受講学生は受験に興味のある学生も多く含まれていたが、次第に教員志望の学生のみとなった。教員志望学生数の増加と内容の充実を図りたい。 【大】
<p>次年度への課題 (平成 30 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の質的变化に伴う指導方法の検討。 2. 教職課程辞退者数を減少させるための検討。 3. 教育実習校成績評価向上にむけた事前教育のあり方等包括的検討。 4. 文化学園大学・教職研究会との有機的連携等、充実と具体策の検討。 5. 教員採用試験対策講座の継続と充実。 6. 教育実習履修希望学生の教育実習辞退への対応。 【大】

■検討組織名：教職課程専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 29 年 4 月 3 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 28 年度自己点検・評価報告書の確認 2. 平成 28 年度文化学園大学服装学部教育実習報告 3. 平成 28 年度文化学園大学造形学部生活造形学科教育実習報告 4. 平成 29 年度介護等体験事前教育日程 5. 教職課程履修ガイダンスについて 6. 平成 29 年度教育実習履修審査条件付き合格学生の確認 7. 平成 29 年度教育実習辞退学生の対応について
平成 29 年 5 月 9 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 30 年度教育実習履修審査 2. 平成 29 年度教育実習日程 3. 平成 29 年度介護等体験について 4. 平成 29 年度教職課程履修者数
平成29年 11 月 14 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 29 年度「教育実習」単位認定審査 2. 平成 29 年度介護等体験中間報告 3. 平成 30 年度教育実習集中事前教育日程
平成 30 年 3 月 6 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 30 年度教育実習関連報告 2. 平成 29 年度自己点検・評価報告案について 3. 平成 30 年度オリエンテーション教職課程ガイダンス 4. 再課程認定申請の進捗状況 5. 平成 29 年度文化学園大学服装学部教育実習報告 6. 平成 29 年度文化学園大学造形学部デザイン・造形学科教育実習報告

<p>本年度の課題 (平成 29 年度)</p>	<p>1. 新カリキュラムの授業内容が一層魅力的となるよう取り組む。 2. 図書館への就職希望者を支援し、相談に応じる。 【大】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 新カリキュラムの授業内容への取組み (1) 平成 29 年度は新カリキュラム移行 6 年目で、引き続き授業内容の魅力向上に取り組んだ。 「児童サービス論」で現職の図書館員による実演を、継続して実施した。また、一部科目では授業の際にミニツッペーパーの提出を求め、受講生の授業理解度の把握やフィードバック等に努めた。</p> <p>(2) 司書課程履修者の増への取組み 司書課程履修者が履修しやすくするため、4 年生の選択科目 4 科目中、土曜日に開講していた 2 科目を平成 28 年度から金曜日に変更し負担を軽減したが、平成 29 年度は 4 年生の履修生が減少し金曜日の授業は成立しなかった。 平成 27 年度から集中講義で開講している 2 科目は、平成 29 年度も成立し見学の日程等を考慮し引き続き集中講義で実施した。 平成 29 年度初めの司書課程の履修登録者は、1 年生 27 人、2 年生 9 人、3 年生 3 人、4 年生 4 人、計 43 人で、昨年に比べ全体で 10 人増え、特に 1 年生が 15 人増と大きく増えた。</p> <p>(3) 司書課程受講生のアンケート調査の実施 1 年生向け科目の図書館概論受講生にアンケート調査を行い、司書課程を受講する動機等の把握に努めた。調査は 27 人から回収した。 ①司書課程の履修理由 資格を取得したい 25 人 (93%) など ②他に履修中・取得希望の資格 学芸員 10 人 (37%)、教職 7 人 (26%) など ③司書資格を取得する理由 何か資格を持っていたい 13 人 (59%)、 図書館で働きたい 7 人 (26%)、就職に有利と思う 5 人 (19%) など ④資格取得を考えた時期 入学前 14 人 (52%)、1 年生時 11 人 (41%) など ⑤将来の職業との関係 司書資格との関連にはこだわらない 16 人 (59%)、図書館等で働きたい 6 人 (22%)、少しでも生かせる職場で働きたい 5 人 (19%) という結果だった。 司書課程を履修する目的が司書資格の取得である事は当然の結果の確認だが、学芸員や教職等も履修を望む学生が多い事、また、資格取得を考えた時期が大学入学前という学生が最も多かった点は意外な結果だった。調査で把握した受講生の意向を反映できるよう検討する</p> <p>(4) 平成 29 年度卒業生の司書資格取得状況 平成 29 年度卒業生で司書資格を取得学生は 4 人だった (造形学部 2 人、現代文化学部 2 人)。</p> <p>2. 就職希望者への支援 4 年生の履修者向けに司書職員採用情報を提供したが、職員採用には結びつかなかった。引き続き、アルバイト等を含めて情報提供に努める。 平成 28 年度卒業生 1 人が文化学園大学図書館の嘱託職員に平成 29 年度採用された。 【大】</p>
<p>次年度への課題 (平成 30 年度)</p>	<p>1. 新カリキュラムの授業内容が一層魅力的となるよう取り組む。 2. 図書館への就職希望者を支援し、相談に応じる。 【大】</p>

■検討組織名：司書課程専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
平成 29 年 4 月 3 日	1. 司書課程ガイダンスの内容・方法・配布資料の確認
平成 29 年 4 月 6 日 ～4 月 7 日	司書課程ガイダンス
平成 29 年 6 月 10 日	1. 平成 29 年度司書課程授業の開講状況について 2. 平成 29 年度司書課程の教員体制と研究室体制について 3. 平成 30 年度以降の司書課程教員体制について 4. 平成 29 年度司書課程履修者について
平成 29 年 8 月 3 日	1. 平成 29 年度（前期）司書課程授業の開講状況について
平成 29 年 10 月 7 日	1. 平成 29 年度（後期）司書課程授業の開講状況について 2. 平成 30 年度以降の司書課程開講計画について
平成 29 年 10 月 25 日	1. 平成 27 年度～平成 29 年度司書課程委員会の開催記録について
平成 29 年 12 月 20 日	1. 平成 30 年度時間割（案）について 2. 平成 30 年度司書及び司書補の講習の委嘱について（照会）への対応について
平成 30 年 3 月 8 日	1. 平成 29 年度卒業生の司書資格取得状況について 2. 図書館概論受講生のアンケート結果について 3. 平成 29 年度司書課程委員会の自己点検・評価報告について 4. 平成 30 年度司書課程ガイダンスの内容・方法・配布資料について

■ 検討組織名：学芸員課程専門委員会

報告者：佐藤 正明

提出日：平成 30 年 4 月 2 日

<p>本年度の課題 (平成 29 年度)</p>	<p>1. 学芸員課程履修学生のみが履修できる学芸員課程専門科目の履修方式について、履修生が減少している現在、総合教養科目と専門科目との関わりなど、開講科目の扱い・あり方について検討。</p> <p>2. 課程履修学生の減少傾向について、課程科目以外の様々な周辺要素などを検討していく。</p> <p>3. 履修者減における館園実習のありかたを検討。 【大】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 本学の学芸員課程専門科目は、課程履修生のみ履修科目となっている。平成 24 年の博物館法改定以来 18 歳人口の減少とともに課程を選択する学生の減少傾向がはっきりしてきている。この課程で取得可能な学芸員資格を目指す学生のみが履修できる学芸員課程専門科目の履修方法について、今後学芸員資格を希望する学生のニーズにこたえていくために検討したが、現行の規程の中にこの考え方は無いため、今後関連する委員会などに諮り、問題点などを確認していくこととした。</p> <p>2. 上記に関する課程科目に関わる様々な周辺要素については、本学のカリキュラム構築における考え方や、総合教養科目の位置づけについての考え方などを今後確認していくことが必用である。</p> <p>3. 平成 29 年度は、改善された実習内容を履修者減における「館園実習」において実施した結果、履修者からは「分かり易い」と概ね好評であった。 【大】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 30 年度)</p>	<p>1. 平成 29 年度の学芸員課程学生減少に関わる対応策として、課程科目履修に関連する位置付けの継続検討。</p> <p>2. 卒業要件単位科目と課程必修科目の考え方について検討。 【大】</p>

開催年月日	会議等の開催記録
平成 29 年 4 月 27 日	1. 課程履修生に対して、館園実習のオリエンテーションにおいて、特に実習内容に加え欠席時の処理や、実習予約、変更処理などにつき詳細に説明することを確認
平成 29 年 6 月 28 日	1. 新しい実習方法開始に伴う実習生募集について、具体的運営における教員指導の関わり方などについて最終確認 2. 課程科目の在り方について意見交換
平成 29 年 7 月 29 日	1. Web 登録における課程履修学生の登録開始と記入方法の確認、履修者数の把握について 2. 教務確認事項の報告
平成 29 年 9 月 27 日	1. 改定された博物館館園実習方法運用の実際と学習状況・効果についての報告 2. 他校における課程科目の取り扱いについて報告
平成 29 年 10 月 18 日	文化祭期間中の、館園実習生の配置と業務について
平成 29 年 10 月 31 日	1. 障害を持つ学生対応について、実習での指導方法について確認 2. 課程科目の在り方について意見交換
平成 29 年 12 月 18 日	1. 博物館館園実習、「館園実習日誌」記載の評価基準について確認 2. 1 月提出の、日誌の回覧について打ち合わせ
平成 30 年 2 月 21 日	履修者減少に関連した平成 30 年度の課題の確認と業務分担

■検討組織名：国際交流委員会

報告者：青柳 宏

提出日：平成 30 年 4 月 2 日

<p>本年度の課題 (平成 29 年度)</p>	<p>1. 海外提携校との交流についての具体的な検討をさらに進める。 2. 本学学生の留学を促進できるような支援を具体的に検討する。 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 海外提携校との交流についての具体的な検討 (1) フランスの国立高等装飾美術学校 (ENSAD) とのダブルディグリーについて 平成 29 年度も標記の学校よりダブルディグリーの大学院生 2 人を 9 月より受け入れた。本学からは初めて平成 30 年 9 月に 2 人派遣する。 2. 本学学生の留学を促進できるような支援の検討 (1) 2018 年度特別留学プログラムについて アーツ・ユニバーシティー・ボーンマス (AUB) への留学希望者 2 人及びニューヨーク州立ファッション工科大学 (FIT) への留学希望者 3 人について 1 次面接、最終面接の結果、委員会としては 5 人全員の留学を許可とした。今後も参加学生増加に向け、経済的な問題で参加することが困難な学生への支援も併せて検討していく。 3. その他 (1) ノッティンガム・トレント大学 (NTU) より、特別留学プログラム、ポールスミス奨学金の終了の申し出があったが、提携校としての協力関係は今後も継続することとした。 【共】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 30 年度)</p>	<p>1. 海外提携校との交流についての具体的な検討をさらに進める。 2. 本学学生の留学を促進できるような支援を具体的に検討する。 3. リスクマネジメントに関するマニュアルを検討する。 【共】</p>

開催年月日	会議等の開催記録
平成29年12月20日	<p>1. 2018 年度特別留学プログラム面接結果について 留学希望者 5 人 (FIT3 人、AUB2 人) の 1 次面接、最終面接について、面接担当者より報告。委員会として 5 人全員を留学許可とした。 2. その他 NTU より特別留学プログラム、ポールスミス奨学金の終了の申し出があったが、提携校としての協力関係は継続することを確認した。</p>

附 属 機 関 等

<p>本年度の課題 (平成 29 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用サービスの向上、広報の充実 2. コンピュータ設備の整備検討 3. 収蔵環境の管理 4. 資料データの標準化と次世代検索システム導入の検討 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用サービスの向上、広報の充実 <ol style="list-style-type: none"> (1) 文学(小説)の蔵書充実をはかるため、文庫本をまとめて約 150 冊受け入れた。 (2) 閲覧室設置のコピー機を 1 台減らし、そのスペースに利用の多い「就職・検定・資格書架」の書架を 2 連増設した。 (3) 図書館を身近に感じてもらうイベントとして、ソファデザインコンテストを開催した。造形学部建築・インテリア学科教員、(株)イトーキ、(株)キルト工芸に協力を仰ぎ、閲覧室ソファのカバーデザインを学生に募集、製品化した。当該学科の学生から 105 点の応募があった。ポスターやホームページ、SNS で広報したことにより、全学的に広報の効果があったと思われる。 (4) 「図書館だより」の刷新をはかった。学生の興味を引く「図書館だより」へのチェンジアップを目標に判型を B5 から A4 に大判化、全頁カラー化、イラストの多用、わかりやすさ、読みやすさを意識した内容に変更して 4 月と 10 月に発行した。教職員からの反応は良かったが、学生の反応をつかむことは難しかった。ただしリニューアル前は多くても 70 部以下だった持ち帰り部数が 2 号とも 100 部以上となったのは効果の表れだと思われる。 2. コンピュータ設備の整備検討 <p>図書館システムの更新に際して、サーバをクラウド化した。8 月の一斉休暇明けに稼働予定だったが、システム移行作業の不具合により 1 週間遅れた。極力利用に差しさわりの無いように運用で対応したが、日程に余裕がなかったのは反省点である。</p> 3. 収蔵環境の管理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 天井からの水漏れ防止のため、閲覧室空調の送風口を点検・清掃した。 (2) 保存スペースの利用効率を高めるよう重複図書などの除籍を積極的に行った。電子ブックの導入も行ったが利用の動向がつかめず、冊子に代わるものとして活用されるまでには到っていない。 (3) H 館解体に伴い小平キャンパスに書庫を移転し、環境の改善に努めた。夏期間中除湿のために空調を入れたので書庫環境が多少改善された。 4. 資料データの標準化と次世代検索システム導入の検討 <ol style="list-style-type: none"> (1) 以前のシステムで登録した資料データの修正を日常業務の一環として継続して行っている。 (2) 国立情報学研究所(NII)主催の講演会、セミナー等に参加して情報を収集した。 5. その他 <ol style="list-style-type: none"> (1) 文化祭に、「文化学園カレンダーのあゆみ 65 年」というテーマで展示を行った。526 人の見学者があった。 (2) 平成 27 年 9 月から始めた「企画展示」コーナーは、平成 29 年度には 10 回の展示を行った。図書館にはさまざまな資料があるということを広報する場として定着してきた。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への課題 (平成 30 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者サービスの向上 2. 図書館資源の活用、設備の整備検討 3. 収蔵環境の管理 4. 資料データの標準化と次世代検索システム導入の検討 5. 学内行事、業務への協力 <p style="text-align: right;">【共】</p>

■検討組織名：文化学園大学図書館

開催年月日	図書館委員会
平成29年6月28日	1. 平成28年度業務報告 2. 平成29年度業務計画・資料費予算決定報告 3. 意見交換 4. 稀観本室見学
平成29年12月14日	1. 平成29年度業務計画進捗状況報告 2. 平成30年度業務計画・資料費予算 3. 平成30年度図書館カレンダー 4. 意見交換 ほか

開催年月日	部会（館員全体会議）
平成29年4月4日	1. 平成29年度組織編成・業務グループ担当発表 2. 各課業務分担発表 3. 各課報告 4. 業務グループ・研修報告
平成29年5月31日	1. 各課報告 2. 業務グループ・研修報告 3. 日本色彩学会全国大会協力 ほか
平成29年6月30日	1. 各課報告 2. 業務グループ・研修報告 3. 図書館委員会報告 ほか
平成29年9月29日	1. 各課報告 2. 業務グループ・研修報告 3. 図書館システムリプレース ほか
平成29年11月30日	1. 各課報告 2. 業務グループ・研修報告 3. 平成30年度業務計画・予算案審議
平成30年1月31日	1. 各課報告 2. 業務グループ・研修報告 3. 文化服装学院学友会卒業記念品 ほか
平成30年2月28日	1. 各課報告 2. 業務グループ・研修報告 3. 図書館だより ほか

開催年月日	運営会議（管理職会議）
平成29年4月12日	1. 小平キャンパス書庫の運用 2. 各種研修参加者検討 ほか
平成29年5月10日	1. ソファデザインコンテスト 2. 小平キャンパス書庫 3. 図書館委員会日程 ほか
平成29年6月7日	1. 電子書籍トライアル 2. 図書館委員会議題 ほか
平成29年7月5日	1. 電子書籍購入 2. 文学（文庫本）の充実 ほか
平成29年9月6日	1. 図書館システムリプレース 2. 小平キャンパス書庫管理作業 3. 新H館検討 4. データベース、電子ジャーナル見直し ほか
平成29年10月11日	1. ソファデザインコンテスト進捗状況 2. 土曜日出勤体制 3. 貴重書デジタルアーカイブコンテンツ追加 4. 図書館だより ほか
平成29年11月8日	1. 平成30年度予算編成 2. 図書館委員会日程 3. 平成29年度予算消化状況 4. 平成30年度業務計画、図書館カレンダー案ほか
平成29年12月6日	1. 図書館委員会議題 2. 平成30年度予算編成 3. 平成29年度予算消化状況 ほか
平成30年1月17日	1. 平成29年度予算消化状況 2. 除籍 3. 文化服装学院学友会卒業記念品の申し出 ほか
平成30年2月7日	1. 平成29年度予算消化状況 2. 平成30年度業務分担 3. 文化服装学院学友会卒業記念品の申し出 ほか
平成30年3月6日	1. 平成29年度予算消化状況 2. 平成30年度業務分担 ほか

■ 検討組織名：文化学園服飾博物館

報告者：佐藤 正明

提出日：平成 30 年 4 月 2 日

<p>本年度の課題 (平成 29 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 博物館施設の老朽化した機器のリニューアルとして、資料保存環境に関わる湿度に関連する部分の改修の検討。 2. 収蔵資料の見直しによる新たな研究成果の蓄積と展示への活用の促進。 3. 北竜湖資料館のリニューアルの進行。 4. データベースの効率的利用の拡大。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現在の建物（クイントビル）に博物館を移設後 15 年を迎える。博物館の空調設備は施設の性格上 24 時間の環境を維持するため、通常使用の 3 倍に当たり、設備の老朽化と部品の調達に支障が出てくるようになってきたため、数年前より設備のリニューアルの検討を行ってきたが、平成 30 年 5 月～10 月にかけて空調設備を入れ替えることが決定された。博物館においては、温度と湿度の管理は、博物館資料の劣化に大きく関係する事柄であるので、この事案が可能になったことは大きな一歩となった。 2. 収蔵資料の展示活用について、毎回参加型展示を試みている。具体的な参加型展示として、展示資料の一部について五感で感じることができるようハンズオンの形を取り入れている。来館者からの反応もよく実際に手で触れてみる経験は、強く印象に残る様である。今後の展示にも積極的な参加型の展示を進めていく。 3. 北竜湖資料館のリニューアルの進行について、歴史ある飯山や小菅地区、修験道の場としての小菅神社と奥社など地域の重要文化財を展示する計画は順調に進行している。本物に加え、貴重な資料展示のレプリカ活用など、資料やデータなどの整理も順調に進行している。今回の大きな収穫は、多くの文化財の再撮影が許可され、高画質の画像データを後世に残す作業ができたことである。これらの貴重な資料は地域の活動に還元していきたい。 4. データベースの効率的な利用を進めている。数年前に新たに導入した博物館資料の管理システムがほぼ正常に運用できる状態となったことにより資料管理と活用が活性化するものと考え。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 30 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 従来の企画展示に加え、服飾博物館の特徴を生かした新しい形の常設展示のような設置の企画を進める。 2. 「ブルックス ブラザーズ：アメリカンスタイルの 200 年、革新の 2 世紀」を担ってきた老舗、ブルックスブラザーズの歴史展示を実施する。 3. 北竜湖資料館のリニューアルを具体的にすすめ、地域の郷土資料館構想の設置を進める。 4. 博物館の老朽化に対応するため、博物館施設・設備の見直しを進める。 <p style="text-align: right;">【共】</p>

開催年月日	展示・会議等の開催記録
平成 29 年 3 月 11 日～平成 29 年 5 月 16 日	ヨーロッパ・モード展
平成 29 年 6 月 9 日～平成 29 年 9 月 4 日	世界の絞り展
平成 29 年 9 月 8 日	博物館運営・専門委員会会議 平成 29 年度報告と平成 30 年度計画について
平成 29 年 10 月 3 日～平成 29 年 11 月 21 日	更紗のきもの
平成 29 年 12 月 19 日～平成 30 年 2 月 15 日	寒さと衣服展

開催年月日	展示協力・刊行物
平成 29 年 3 月 22 日～平成 29 年 4 月 3 日	誕生 50 周年記念リカちゃん展において、展示と図録制作に関しての協力
平成 29 年 6 月 9 日	6 月開催の「世界の絞り」展開催に合わせて図録を刊行。当館所蔵品から 28 カ国の絞りの優品を紹介
平成 29 年 7 月 19 日	文化学園服飾博物館編著 「世界の服飾文様図鑑」(河出書房新書) 刊行

■検討組織名：文化学園国際交流センター

報告者：柿島 由雄

提出日：平成30年3月31日

<p>本年度の課題 (平成29年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各校との連携、本センターと活動内容の周知 関連部署との連携と、Eメール等を用いた本センターの活動内容や行事の周知 2. 海外交流によるグローバル化プログラムの開発と支援 <ol style="list-style-type: none"> (1) 特別留学プログラムや国際コンテスト等への学生の関心を喚起 (2) 海外提携校への教員の派遣と情報発信 3. 学内におけるグローバル化の推進 <ol style="list-style-type: none"> (1) 英語によるファッションセミナーの継続と開催方法の見直し (2) 特別留学制度や海外提携校の紹介と国際意識の醸成 4. 外国人留学生の受け入れ確保と環境整備 <ol style="list-style-type: none"> (1) 海外事務所を拠点とする学生募集活動(ガイダンス、学校訪問等)の強化 (2) 本学に在籍する外国人留学生の日本語能力や生活指導に関する諸問題の検討 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各校との連携、本センターとその活動内容の周知 センターの行事を告知するため、各階へポスターを掲示し、Eメールも活用して学生に直接情報が届くよう積極的に働きかけた結果、セミナーの参加者数が安定し、一定の認知度を得たようだ。本センターの存在や場所を学生に広く認識してもらうには更なる努力が必要である。 2. 海外交流によるグローバル化プログラムの開発と支援 <ol style="list-style-type: none"> (1) 5月に特別留学プログラムの説明会を開催したが、平成29年度の制度利用者はAUBが3人、FITは0人であった。学生に関心を持たせる工夫と新規制度の開拓が課題である。また、イタリア発祥の企業5社の協賛によるイタリアデザインコンテストを学内で開催。学生が海外に目を向け経験を積めるよう後押ししてきた。今後も本学のグローバル化推進のサポートに努める。 (2) 平成29年度は海外提携校への教員派遣は叶わなかったが、提携校である英国のNTUやMMUの学生を受け入れて研修を行った。これら提携校との交流を促進して本学のアピールを図る。 3. 学内におけるグローバル化の推進 <ol style="list-style-type: none"> (1) 英語によるファッションセミナーを年間9回開催。うち日本語通訳が入った4回は40～50人と多くの参加者があり(通常は10～20人)その効果が認められた。学内に海外事情をわかりやすく紹介し、学生や教職員の国際意識を高める工夫を引き続き検討していく。 (2) セミナーの認知度は上がったが、その他の本センターの取り組みは依然として学内に認知されていないように感じる。ホームページやニュースレターを活用して情報を発信するなど、学内におけるグローバル情報の共有が今後の課題である。 4. 外国人留学生の受け入れ促進と環境整備 <ol style="list-style-type: none"> (1) 海外事務所における積極的な学校訪問や留学フェアへの参加を通して、本学の広報に努めた。 (2) 本学に在籍する外国人留学生に関する諸問題については平成30年度以降の課題となる。【共】
<p>次年度への 課題 (平成30年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本学関連部署と意見交換や情報共有の機会を設け、緊密な連携を図る。 2. 海外交流によるグローバル化プログラムの開発と支援 <ol style="list-style-type: none"> (1) 特別留学プログラムや国際コンテスト等、海外交流への学生の関心を喚起 (2) 海外ファッション関連企業とのコラボレーションやインターンシップの運営サポート 3. 学内におけるグローバル化の推進 <ol style="list-style-type: none"> (1) 英語によるグローバルセミナーの継続と効果的な運営方法の検討 (2) 海外からの短期研修グループの受け入れ継続と研修内容の充実 4. 外国人留学生の受け入れ促進と環境の整備 5. 学内外への情報発信と情報共有 <p style="text-align: right;">【共】</p>

開催年月日	会議等の開催記録
平成29年4月11日	海外事務所長来日会議(4校合同) 1. 各事務所長からの報告 2. 各学校からの報告、連絡 3. 意見交換
平成29年10月6日	海外事務所長来日会議 1. 各事務所長からの報告、連絡 2. 意見交換

<p>本年度の課題 (平成 29 年度)</p>	<p>1. 知的財産の権利化の推進 特許、実用新案、意匠、商標等に関する教職員の知識と興味を高め、権利化を進める。</p> <p>2. 知的財産の更新及び保護管理 所有する特許権、実用新案権、意匠権、商標権の更新及び保護管理を行う。</p> <p>3. 著作権侵害行為の防止 著作物の無断使用や模倣等、著作権の侵害にあたる行為を防止するための方策を検討する。</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 知的財産の権利化の推進 (1) 平成27年12月9日付で特許出願をした「歩行支援用具」(特願2015-240129)について、審査請求の検討を行い、権利化を進める準備をした。【大】 (2) ①手続きのフローチャート②研究者への告知事項一覧③外部機関との共同研究を基にした共同特許出願のためのガイドラインを作成し、権利化手続きの整備を進めた。手続きを分かりやすくすることで、研究活動の活性化と手続きの迅速化を実現し、権利化を推進することができた。平成 30 年度も引き続き制度を整え、権利化を推進する。【共】</p> <p>2. 知的財産の更新及び保護管理 特許第 4198152 号「模擬皮膚装置およびそれを用いた特性評価方法」の権利更新を行った。【大】</p> <p>3. 著作権侵害行為の防止 学校行事・作品展示・研究発表・広報等、大学の活動における著作物の利用状況を調査し、著作権侵害について注意が必要なケースの抽出を行った。調査結果からまとめた注意項目を教職員へ周知し、知識を学内に広めることで、著作権侵害行為の防止を図った。平成 30 年度は、著作権についての意識が学内にさらに浸透するよう引き続き啓発活動を行う。【共】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 30 年度)</p>	<p>1. 知的財産の権利化の推進 特許、実用新案、意匠、商標等に関する教職員の知識と興味を高め、権利化を進める。</p> <p>2. 知的財産の更新及び保護管理 所有する特許権、実用新案権、意匠権、商標権の更新及び保護管理を行う。</p> <p>3. 著作権侵害行為の防止 大学の活動における著作物の利用状況を確認し、著作物の無断使用や模倣等、著作権の侵害にあたる行為を防止する。著作物の利用上の注意について学内での周知を図る。</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>

■検討組織名：文化学園知財センター

開催年月日	会議等の開催記録
平成 29 年 6 月 16 日	文化学園知財センター運営委員会 1. 平成 28 年度実績報告 (1) 権利化活動 (2) 知財教育 (3) 権利更新・管理 2. 平成 29 年度業務計画 (1) 知的財産の権利化の推進 (2) 権利更新・管理 (3) 著作権侵害行為の防止 3. 知的財産にかかわる学内事例 (1) 著作物の利用について (2) 特許申請における新規性喪失の例外の適用について
平成 29 年 7 月 7 日	文化学園知財センター小委員会 テレビ番組の録画の講演会における放映について
平成 29 年 7 月 13 日	文化学園知財センター小委員会 著作物の利用上の注意の学内周知について
平成 29 年 11 月 4 日	文化学園知財センター小委員会 文化祭における著作物の利用について
平成 30 年 1 月 16 日	文化学園知財センター小委員会 展示における著作物（楽曲）の利用について
平成 30 年 2 月 9 日	文化学園知財センター小委員会 卒業展示における著作物の利用について
平成 30 年 2 月 26 日	文化学園知財センター小委員会 授業における著作物利用と展示発表について
平成 30 年 3 月 2 日	文化学園知財センター小委員会 作品制作とキャラクターの著作権について
平成 30 年 3 月 6 日	文化学園知財センター小委員会 テレビ番組の録画の広報利用について
平成 30 年 3 月 14 日	文化学園知財センター小委員会 平成 29 年度の活動総括と平成 30 年度の計画について

<p>本年度の課題 (平成 29 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 企業や産業に対応した学生の育成課題と方法の検討 (企業対応グループ) 2. 地域と連携した活動の計画と実践の検討 (地域対応グループ) 3. 環境や社会に配慮した教育の実践とイベント参加 (社会環境対応グループ) 4. 卒業生コミュニケーションネットワークの構築と母校訪問機会の創出 (卒業生対応グループ) 5. 国際的共同カリキュラム開発と Educational Development (ED) の推進 (ED 対応グループ) 6. 「大学教育再生加速プログラム (AP)」 の計画と実行 (AP 対応グループ) 7. 服装学部・現代文化学部 USR 推進室による活動の広報の活発化 8. USR 推進室の活動強化のため、全学部が参画した体制構築の検討 【大】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 企業や産業に対応した学生の育成課題と方法の検討 (企業対応グループ) 【大】 社会人基礎力アンケートを武蔵大学の学生にも行った。平成 28 年に実施した和洋女子大学と本学の 3 校のアンケート集計、分析を行った。本学の特徴は自己評価が高い傾向を確認できた。 2. 地域と連携した活動の計画と実践の検討 (地域対応グループ) 【共】 〈渋谷区〉渋谷区小学生並びに公募で「小学生ファッションショー体験」を実施。33 人が参加し、ショーの体験が出来て好評であった。 〈飯山〉本年度は「自然」をテーマに体験プログラムを実施。また、「いいやま菜の花まつり」での販売商品を学生が企画販売を行った。 3. 環境や社会に配慮した教育の実践とイベント参加 (社会環境対応グループ) 【共】 〈八ヶ岳〉原村の観光振興の為、原村紹介のポスターを学生が作成した。環境や社会に配慮した教育の実践とイベント参加。 エコプロダクツ 2017 に出展し、循環型社会に対応したカリキュラムや学生作品を展示。授業の残布を近畿大学バイオコークス研究所とコラボして、Ethical Zamp ～残布をコークス化・次世代エネルギーに再利用～ファッションの循環社会型利用として取り組んだ。 4. 卒業生コミュニケーションネットワークの構築と母校訪問機会の創出 (卒業生対応グループ) 卒業生ネットワークづくりを、SNS を活用して大学情報を発信する仕組みを構築。母校訪問機会として文化祭で「BUNKA 会」を卒業生同窓会紫友会と共同で開催し好評を得る。 【共】 5. 国際的共同カリキュラム開発と ED の推進 (ED 対応グループ) 【共】 Hong Kong Design Institute 校との教員交換プロジェクトを 11 月と 12 月に行った。 6. 「大学教育再生加速プログラム (AP)」 の実践 (AP 対応グループ) 【大】 本格的実施年度である本年は、梅春学期「長期学外学修プログラム」(2 月～3 月) を海外研修 5 プログラム、国内研修 11 プログラムをそれぞれ 4 週間実施した。 7. 服装学部・現代文化学部 USR 推進室による活動の広報の活発化 【共】 SNS を活用したネットワーク構築により、定期的な情報発信、広報活動ができた。 8. USR 推進室の活動強化のため、全学部が参画した体制の検討 【共】 平成 29 年度より造形学部・短期大学部も参画し全学参加による活動強化の体制が構築できた。
<p>次年度への 課題 (平成 30 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 企業や産業に対応した学生の育成課題と方法の検討 (企業対応グループ) 【共】 2. 地域と連携した活動の計画と実践の検討 (地域対応グループ) 【共】 3. 環境や社会に配慮した教育の実践と検討 (社会環境対応グループ) 【共】 4. 卒業生ネットワーク構築と卒業生対応イベント実施 (卒業生対応グループ) 【共】 5. 「大学教育再生加速プログラム (AP)」 の計画と実行 (AP 対応グループ) 【大】 6. ED の推進と教育活動の広報活発化 【共】

■検討組織名：USR 推進室

開催年月日	会議等の開催記録
平成 29 年 5 月 24 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 28 年度自己点検・評価報告書について 2. 新委員紹介：造形学部と短期大学部より各 1 人紹介 3. 平成 28 年度事業予算：事前申請提出の際の方法について 4. 各グループ報告：(1)企業対応グループ：社会的基礎力チェックアンケートの実施について (2)卒業生対応グループ：卒業生向けフェイスブック・インスタグラムの開設について (3)地域対応グループ：＜渋谷＞服装学部服装造形学科第 32 回ファッションショーのスタッフ体験・バックヤード見学の実施について (4)社会環境対応グループ：学内残布回収及び回収ボックス設置について (5)ED 対応グループ：HP に掲載する記事の検討について (6)AP 対応グループ：全学的な新体制の確認と履修者の再募集について
平成 29 年 8 月 8 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文化祭パネル制作について 2. 各グループ報告：(1)地域対応グループ：＜飯山＞「学んで発信！ふるさとプロデュース 2017」と＜八ヶ岳＞「ネイチャーハンティング in 信州 2017」実施について (2)社会環境対応グループ：「エコとファッションについて学ぶ(体験編)2017」の実施について (3)AP 対応グループ：グローバルファッションマネジメントコースの「グローバルファッションマネジメント実習(企業研修)」実施について 3. ワークフロー申請における費用負担部門変更について
平成29年 10 月 18 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文化祭における連絡事項の確認：＜飯山＞「学んで発信！ふるさとプロデュース 2017」の成果報告会・表彰式と第 8 回「BUNKA 会」と AP 国際シンポジウムの実施について 2. 各グループ報告：(1)企業対応グループ：社会的基礎力チェックアンケートの結果報告について (2)卒業生対応グループ：学生の Gmail 利用について (3)地域対応グループ：＜飯山＞地域資源創出事業について ＜八ヶ岳＞原村ポスターコンテストへの応募について (4)社会環境対応グループ：残布を利用したコークスの商品検討について 3. 予算管理について
平成29年 11 月 15 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文化祭の報告：「BUNKA 会」は紫友会と協同を検討 2. 平成 30 年度予算について：各グループより予算案の報告 3. 各グループ報告：(1)卒業生対応グループ：紫友会報の掲載について (2)地域対応グループ：＜渋谷＞家庭科支援の実施について (3)社会環境対応グループ：エコプロダクツ展 2017 の開催について
平成 29 年 12 月 5 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 30 年度予算について：各グループより予算案の見直しと報告 2. 新パンフレット作成の原稿依頼について 3. 各グループ報告：卒業生対応グループ：卒業年次生の連絡先登録方法について
平成 30 年 3 月 7 日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 30 年度予算について 2. 各グループ報告：(1)企業対応グループ：社会人基礎力チェックアンケートの実施方法について (2)卒業生対応グループ：卒業生のアドレス登録について (3)地域対応グループ：＜飯山＞飯菜食堂プロジェクトについて (4)社会環境対応グループ：かんきょうデザインプロジェクトについて (5)ED 対応グループ：新パンフレットについて 3. シブヤ・ソーシャル・アクション・パートナー協定について

■ 検討組織名：文化学園ファッションリソースセンター

報告者：上田 多美子

提出日：平成 30 年 4 月 2 日

<p>本年度の課題 (平成 29 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育支援体制の継続。 2. 産学交流の推進の継続。 3. 外部への情報公開と交流促進の継続。 4. 資料室データベースの更新・拡充 5. テキスタイル・映像・コスチューム資料室データベース統合に向け、シソーラスを作成する。 6. 前項 4 及び 5 の整備の基礎となるコスチューム資料室のソフトウェアハードウェアの安定化を目指す。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. コスチューム資料室：大学・学院のショー作品その他標本資料を収集・配架し授業などに活用した。学内・学外に対しレファレンスを行った。 映像資料室：教材用映像資料の収集、公開。学内・学外に対しレファレンスを行った。 テキスタイル資料室：テキスタイル産地その他企業提供による素材収集・配架を行った。テキスタイルデザインソフト 4Dbox の学生向けの無料講習会を開催し、出席学生の技能を高めた（年 2 回）。学内・学外に対しレファレンスを行った。 企画室：「ファッションリソースセンターだより」を発刊（年 2 回）した。学生支援企画展示「Studiooeuf」を開催。（学内 3 回、新宿伊勢丹、東京ビックサイトなど外部 7 回）。 2. 産学交流その他の実施 織物産地との共同事業による現地体験学習・ワークショップ開催（年間 1 回）。 デザイナー作品等企画展（年間 5 回）。コンテスト開催（年 1 回）。 3. 外部への情報公開と交流促進の実施 外部への情報公開対応機関として「文化学園ファッションリソースクラブ」を継続。 クラブを有料化の下、一般利用者・卒業生の会員制導入を行った。 学内広報誌「ファッションリソースセンターだより」No.29、30 号を発行。 服装学部と共同で松坂屋百貨店 3 店舗にて「内藤ルネ」展に衣装展示の協力をを行った。 4. 映像資料室：アーカイブコレクション情報を追加。テキスタイル資料室：布地データ追加。 5・6. 現存データを整備しつつ、コスチューム資料室データベースのカスタマイズを行った。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 30 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育支援体制の継続。 2. 産学交流の推進の継続。 3. 外部への情報公開と交流促進の継続。 4. 資料室データベースの更新・拡充 5. テキスタイル・映像・コスチューム資料室データベース統合に向け、シソーラスを作成する。 6. H 館解体に伴う各資料室の資料検証及び利用・処分方法の検討。 <p style="text-align: right;">【共】</p>

共同研究拠点

■ 検討組織名：文化ファッション研究機構

報告者：濱田 勝宏

提出日：平成 30 年 4 月 1 日

<p>本年度の課題 (平成 29 年度)</p>	<p>1. 共同利用を中心とした研究事業の継続推進 2. 和装文化研究所、文化・ファッションテキスタイル研究所を核とした服飾文化研究の推進</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 共同利用を中心とした研究事業の継続推進</p> <p>(1) (共同研究の推進)和装文化共同研究の公募・採択を行い、4 件の共同研究の研究課題を推進した。4 件の研究課題は、いずれも文化学園大学の教員を代表者とし、外部の大学・博物館等の研究者をメンバーとして構成している。</p> <p>(2) (運営委員会の提言への対応)平成 29 年 2 月 2 日に運営委員会を開催した際に、運営委員からは、活動状況や成果の発信に努めること、ファッション研究が産業界のニーズを吸収し得ること、国際的な発展にも大きな可能性があること等の助言を得たので、それらを基に具体的な検討を行い実施に努めた。</p> <p>(3) (和装文化等のシンポジウム)平成 30 年 1 月 20 日に、文化庁委託事業アーカイブ中核拠点形成モデル事業「シンポジウム 日本のデザイン資源を考える」を開催した。このシンポジウムは、プロダクト分野（武蔵野大学）・グラフィック分野（京都工芸繊維大学）・ファッションデザイン分野（文化学園大学）の合同で行われた。本学は、ファッションデザイン分野の担当として、平成 27 年度から 3 年間かけて、資料収集機関と有識者とのネットワーク構築に取り組んできたこと、データベースの管理・運用・利活用の問題点を整理したこと等を報告した。</p> <p>(4) (共同研究員受入れ)1 人の若手研究者（東京大学大学院・学際情報学府博士課程）から文化ファッション研究機構共同研究員就任の申請があり、審査の上で文化ファッション研究機構共同研究員として受け入れた。</p> <p>(5) (服飾文化の若手研究者の活動支援)学内の若手教員育成のために、若手教員研究奨励金による支援事業を実施し、公募により文化学園大学の若手教員の研究課題を採択した（2 件）。また、平成 29 年 12 月 19 日に、平成 28 年度採択の若手教員による研究成果発表会を開催した。</p> <p>(6) (学園の研究振興)平成 30 年 2 月 6 日に研究企画委員会を開催し、若手教員への研究支援の方法や学園全体の研究振興について検討・協議した。まとめた結果は、次年度の研究公募等に活用する予定である。</p> <p style="text-align: right;">【共】</p> <p>2. 和装文化研究所、文化・ファッションテキスタイル研究所を核とした服飾文化研究の推進</p> <p>(1) (和装文化の普及等)和装文化を普及させるために、「きものコーディネート入門 2017」「タイの学生と一緒にファッションを学ぼう 2017」を開講した。また、和装文化研究のための実物資料の収集や和装関連科目充実のためのカリキュラム検討を行い、ゆかたウィーク開催（平成 29 年 7 月 18 日～22 日）、「勝手にキモノの日」（平成 30 年 1 月 24 日）の開催による広報活動、文化祭での和装文化制作品の展示を実施した。また、3 年目となる文化庁アーカイブ中核拠点形成モデル事業の採択を受け、この事業を推進した。</p> <p>(2) (共同研究開発)堀畑裕之・関口真希子のブランド“matohu”と文化・ファッションテキスタイル研究所でテキスタイルの共同研究開発を行い、開発したテキスタイルは東京コレクションでも使用された。</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 30 年度)</p>	<p>1. 共同利用を中心とした共同研究拠点の文部科学省申請の検討を含めた研究事業の継続推進 2. 和装文化共同研究、若手教員研究活動支援の推進 3. 学園の研究振興を図るための方策の検討</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>

■検討組織名：文化ファッション研究機構

開催年月日	会議等の開催記録
平成 29 年 7 月 24 日	第 1 回文化ファッション研究機構 研究企画委員会 1. 和装文化共同研究課題の採択について 2. その他
平成29年 11 月 24 日	第 2 回文化ファッション研究機構 研究企画委員会 1. 若手教員研究奨励金の採択について 2. その他
平成 30 年 2 月 6 日	第 3 回文化ファッション研究機構 研究企画委員会 1. 学園の研究振興について 2. その他
平成 30 年 2 月 22 日	第 1 回文化ファッション研究機構 運営委員会 1. 文化ファッション研究機構の研究活動等について 2. 平成 28 年度事業報告 3. 平成 29 年度事業計画 4. その他

附 属 研 究 所

<p>本年度の課題 (平成 29 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文化・衣環境学研究所 学内共同研究プロジェクト助成金の公募を行い、選考の上、運用する。平成28年度採択の各研究課題の研究成果について、新たに「懇話会」を企画し、代表者による意見交換を主とした報告会を行う。 2. 衣環境に関する研究会を、年 2～3 回開催する。その他にタイムリーな講演会を開催する。文化・衣環境学研究所が、所員の研究交流の場、学内の研究活性化の足掛かりとなることを図る。 3. 平成28年度に導入した機器アイマークレコーダーと面圧センサーの利用方法についての講習会を開催し、広く社会学や心理学、ビジネス分野にも、積極的に参加を呼び掛ける。 4. 他の附属研究所の研究会活動に協力し、4 研究所での交流を企画する。文化・住環境学研究所との研究設備の共有を図り、共同研究も検討する。 5. 研究設備の充実・整備、人工気候室、人間工学実験室、研究所実験室の有効活用を目指す。 6. 国内外からの参観・見学を積極的に受け入れ、本研究所の意義を発信する。 7. 産学共同研究を推進し、衣環境学分野の研究を活発に推進し、国内外に向けて発信する。 8. 大学院生の研究活動を支援し、博士取得者を輩出する。研究所の外部評価制度、研究所専任の職員の配置について審議する。 【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成29年度学内共同研究プロジェクト助成金応募を行い、平成 29 年 5 月 24 日説明会を実施した。計 6 件の申請があり、審査の結果、全申請課題を採択した。また、平成28年度採択の各研究課題 7 件の研究成果について、「懇話会」を開催した（平成29年 5 月 25 日）。また同研究成果は、平成 29 年度文化祭にて、ポスター掲示を行った。 2. 衣環境に関する研究会については実施を見送ったが、本年度は上記の懇話会の実施によりその役務を果たすものとする。 3. 平成 28 年度に導入した機器の講習会を実施した。 4. 他の附属研究所との実質的交流については、現時点では未実施であるが今後の課題として計画していく予定である。 5. 研究設備は、来年度に向け、新規導入すべき設備・機器の情報収集、調査、検討を行った。 6. 国内外の大学や企業などから参観・見学を多数受け入れ、研究内容の紹介を含め、積極的に広報することができた。海外からの主な見学者は、台湾実践大学、台湾台南応用科技大学、ノッティンガムトレント大学、サウジアラビア中小企業庁アパレル専門家、ベトナム専門家派遣事業等。国内では、香蘭女子短期大学、宇都宮女子高校、経済産業省、野村総合研究所等、20 件以上、計 384 人の見学者を受け入れた。 7. 産学共同研究に特に力をいれ、全 6 件の学外共同研究（旭化成せんい株式会社、株式会社デザート、王子ネピア株式会社、株式会社竹中工務店、アキレス株式会社、京都電子工業株式会社及び受託研究 2 件（株式会社ツイズ、株式会社モレーンコーポレーション）を遂行した。 8. 大学院生の研究活動を支援し、博士取得者 2 人を輩出することに貢献した。 【共】
<p>次年度への 課題 (平成 30 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文化・衣環境学研究所学内共同研究プロジェクト助成金の公募を行い選考の上、運用する。 2. 平成29年度採択の各研究課題の研究成果について、「懇話会」を企画し、代表者による意見交換を主とした報告会を行う。 3. 衣環境に関する研究会を、年 1～2 回開催する。 4. 他の附属研究所の研究会活動に協力し、4 研究所での交流を企画する。文化・住環境学研究所との研究設備の共有を図り、共同研究も検討する。 5. 研究設備の充実・整備、人工気候室、人間工学実験室、研究所実験室の有効活用を目指す。 6. 国内外からの参観・見学を積極的に受け入れ、本研究所の意義を発信する。 7. 産学共同研究を推進し、衣環境学分野の研究を活発に推進し、国内外に向けて発信する。 8. 大学院生の研究活動を支援し、博士取得者を輩出する。研究所の外部評価制度、研究所担当人員の配置について審議する。 【共】

■検討組織名：文化・衣環境学研究所

開催年月日	会議等の開催記録
平成29年4月20日	文化・衣環境学研究所 平成29年度 第1回運営会議 学内共同研究プロジェクト助成金応募要領及び報告書
平成29年5月24日	平成29年度学内共同研究プロジェクト助成金応募に関する説明会
平成29年6月5日	文化・衣環境学研究所 平成29年度 第2回運営会議 学内共同研究プロジェクト 研究助成金応募書類 審査選考
平成30年1月29日	文化・衣環境学研究所 平成30年度事業計画について

開催年月日	懇話会の開催記録
平成29年4月20日	平成28年度文化・衣環境学研究所学内共同研究プロジェクト報告会（懇話会）

<p>本年度の課題 (平成 29 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 共同研究の推進【共】 2. 参画教員の拡大【共】 3. 若手教員の研究活動の支援【共】 4. 所報「しつらい Vol.6」の見直し及び発行【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 共同研究の推進【共】 平成 29 年度の共同研究も平成 28 年度と同様に、下記の 3 カテゴリーに分けて公募した。 〈Ⅰ. 共同研究（教材開発を含む）〉：学内外の複数人で行う共同研究（教材の購入のみではなく、教育方法や教育効果の検証などが必要）。 〈Ⅱ. 共同制作（教材開発を含む）〉：学内外の複数人行う共同制作（作品の制作のみではなく、制作プロセスや教育効果の検証などが必要）。 〈Ⅲ. 若手による研究・制作〉：40 歳未満の教員（助手含む）が代表者で行う共同研究・制作。 その結果、研究所運営会議において下記の 6 件の研究が採択された。 ① 高齢期女性の居場所における収納システムの提案〈Ⅰ〉 ② 長野県須坂市における古民家再生プロジェクト〈Ⅰ〉 ③ 美術教育普及活動での映像メディアの効果的な活用方法〈Ⅰ〉 ④ 学外活動を通じた造形教育の試み〈Ⅰ〉 ⑤ DPM(ダイナミック・プロジェクション・マッピング)による動体への投射装置の基礎的研究・開発および作品の制作Ⅳ〈Ⅱ〉 ⑥ 新素材を用いたファッション×空間〈Ⅲ〉 上記のうち、⑤は他の研究助成獲得を理由に未実施であったが、他の 5 件については研究が実施された。これらの研究については、平成 30 年度の学内研究発表会のほか、学会発表や一般メディアを通じて広く社会に対して公表する予定である。また、平成 30 年度共同研究の公募に際し、公募に必要な項目を明記した要項と研究申請書用紙を作成することで、公募要項を整備することができた。 2. 参画教員の拡大【共】 上記研究テーマのうち、②③④⑥は学外者も参画して行われた共同研究であり、当初の目標を達成できたと考える。また、平成 30 年度の共同研究について、募集範囲を大学全体として公募し、参画教員を拡大するための足掛かりをつくることができた。 3. 若手教員の研究活動の支援【共】 上記研究テーマのうち、①⑥は若手教員も参画して行われた共同研究であり、当初の目標を達成できたと考える。 4. 所報「しつらい Vol.6」の見直し及び発行【共】 研究所報について再度の見直しの結果、刊行頻度は隔年発行とし、単年度で編集・印刷・発行を実施し、内容については特集記事及び研究助成報告を充実させて本学・本研究所における研究活動の特長の明確にした冊子として研究活動の外部公表を強化する方針とした。平成 29 年度を発行年とし、前述の方針に基づく研究所報「しつらい Vol.7(特集：デザイン・美術教育の今)」を発刊し、学内外に配布することにより研究成果を公表した。
<p>次年度への課題 (平成 30 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 共同研究の推進【共】 2. 参画教員の拡大【共】 3. 若手教員の研究活動の支援【共】 4. 所報「しつらい Vol.7」の見直し【共】

■検討組織名：文化・住環境学研究所

開催年月日	会議等の開催記録
平成 29 年 7 月 6 日	1. 本年度の事業内容・スケジュールの確認 2. D15 の移動依頼について 3. 運営委員の補充について 4. 所報「しつらい Vol.7」の発刊の検討（刊行頻度・発行年度・担当・予算の確認・検討）
平成 29 年 9 月 20 日	1. 共同研究の募集範囲の拡大について 2. 所報「しつらい Vol.7」の発刊（業者・スケジュール・コンテンツの検討）
平成 29 年 10 月 3 日	1. 所報「しつらい Vol.7」の発刊（編集方針の決定） 2. 共同研究の公募要領について
平成 29 年 10 月 10 日	1. 共同研究の公募について 2. 所報「しつらい Vol.7」の発刊（特集内容の決定）
平成 29 年 11 月 22 日	1. 平成 30 年度共同研究の採択審議 2. 平成 30 年度予算申請について 3. 所報「しつらい Vol.7」の発刊（台割・進捗状況の確認） 4. D18・D15 の改修・移動について（経過報告）
平成 30 年 3 月 11 日	1. 平成 29 年度共同研究の実施報告 2. 平成 30 年度の事業計画について 3. 所報「しつらい Vol.7」の発刊（納品・配布先の確認）

■ 検討組織名：文化・ファッションテキスタイル研究所

報告者：宮本 英治

提出日：平成 30 年 4 月 2 日

<p>本年度の課題 (平成 29 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. テキスタイルデータ（糸の種類・太さ・密度、織組織等）のデジタル化を推進する。作成データ約 400 を目指す。 2. 研究所独自のテキスタイルの試作・開発数を約 30 種類目指す。 3. デザイナー・企業等とテキスタイルの共同研究・開発を推進する。 4. テキスタイル産地を活性化するための現地指導を実施する。 5. テキスタイル教育の一環として、研究所の機器説明・見学・講義を実施する。 【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究所が保有しているアナログテキスタイルデータと我が国の「伝統の織り」技術の継承保存のためのデジタル化に日常的に取り組み、約 300 データをデジタル化した。 2. 研究所独自のテキスタイル開発を日常的に実施し、緯多重織やカラミ織により斬新なテキスタイルを 45 点開発した。 3. 「株式会社リューズ纏」と協働して開発したテキスタイルを使用した服が、東京コレクションで披露され、高評価を得た。 「ムーンバット株式会社」と協働した「SAJYU プロジェクト」でテキスタイル開発を指導した多重織服飾雑貨品が高評価を得た。 4. 八王子織物産地・山梨県郡内織物産地・京都府丹後織物産地などの織物業者へのテキスタイル開発指導や業界活性化のための研修・見学受入れなどを実施した。 5. 文化学園大学をはじめ文化学園の教員や学生の見学・研修を受入れ、テキスタイルの一般知識の習得や生産現場におけるテキスタイル作りを理解してもらうことが出来た。 【共】
<p>次年度への 課題 (平成 30 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. テキスタイルデータ（糸の種類・太さ・密度、織組織等）のデジタル化を推進する。平成 30 年度の実績約 300 データ以上を目指す。 2. 研究所独自のテキスタイルの試作・開発数を約 30 点を目指す。 3. デザイナー・企業等とテキスタイルの共同研究・開発を推進する。 4. テキスタイル産地を活性化するための現地指導を実施する。 5. テキスタイル教育の一環として、研究所の機器説明・見学・講義を実施する。 【共】

開催年月日	会議等の開催記録
平成 29 年 7 月 7 日	第 1 回文化・ファッションテキスタイル研究所 ホームページ小委員会 1. 文化・ファッションテキスタイル研究所のホームページの基本構想について
平成 29 年 8 月 2 日	第 1 回文化・ファッションテキスタイル研究所 運営委員会 1. 文化・ファッションテキスタイル研究所のホームページについて 2. 特任研究員の変更について承認 3. 平成 28 年度事業報告及び平成 29 年度事業計画について報告 4. 株式会社糸編とムーンバット株式会社との契約について報告
平成 29 年 9 月 4 日	第 2 回文化・ファッションテキスタイル研究所 ホームページ小委員会 1. 文化・ファッションテキスタイル研究所のホームページ(案)や作成依頼業者について
平成 29 年 11 月 20 日	第 3 回文化・ファッションテキスタイル研究所 ホームページ小委員会 1. 文化・ファッションテキスタイル研究所のホームページ公開等について
平成 30 年 3 月 9 日	第 2 回文化・ファッションテキスタイル研究所 運営委員会 1. 平成 29 年度事業報告 2. 平成 30 年度事業計画 3. 特任研究員の変更について承認 4. 平成 30 年度からの新たな産学共同研究契約の予定について

<p>本年度の課題 (平成 29 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「和裁」「和裁Ⅰ」「和裁Ⅱ」コラボレーション科目をはじめとする授業の運営を継続・充実する。【共】 2. 平成 30 年度を目途として和装関連科目の充実を図る。どのような形にするかを関係各所と相談しながら実現を目指す。【大】 3. ゆかたウィーク、着付教室と茶話会、研究会などのイベントを継続開催する。【共】 4. 外部との連携強化を図る。【共】 <ol style="list-style-type: none"> (1) きものサローネへの協力を継続。学生きものデザインコンテストを充実させる。 (2) 次世代きもの和音デザインコンペを継続する。 (3) 文化庁のアーカイブ事業を継続する。 5. 共同研究拠点の下部組織として、共同研究の推進を図る。このため、研究課題を公募する。また、研究所でもプロジェクト研究を進める。【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学の科目としては「和裁」「和裁Ⅰ」「和裁Ⅱ」を運営した。また、コラボレーション科目として「きものコーディネイト入門 2017」「タイの学生と一緒にファッションを学ぼう 2017」を実施した。【共】大学教育再生加速プログラム (AP) オーストラリア研修を実施した。【大】この他、文化服装学院からきもの基礎知識と浴衣の着付け実習の講座依頼があり、3 科に対して 20 コマの講習を行った。 2. 服装学部でのカリキュラム見直しにより、和装コースの設置はなくなったが、平成 30 年度入学生から新たに 2 科目の設置と「和裁Ⅱ」の単位数の増加を実現することができた。【大】 3. 7 月 18 日～22 日「ゆかたウィーク」を開催した。学生の実行委員会を中心としたイベントであるが、研究所としては「イマジンワンワールド」の KIMONO の展示を行った。クイントサロンを会場として開催し、200 人を超す来場者を得た。また、(株)やまとの矢嶋孝敏会長による特別講義を行った。今年度の新たな試みとして平成 30 年 1 月 24 日に「勝手にキモノの日」を開催した。合わせて(株)東京山喜の中村健一社長による講演会を行った。着付教室と茶話会は 7 月に 2 回、1 月に 1 回開催した。2 月 7 日に石崎功氏を講師として、文化きもの研究会を開催した。【共】 4. 外部との連携強化 <ol style="list-style-type: none"> (1) きものサローネへの協力は、スタッフとしての学生派遣が 4 年目、「学生きものデザインコンテスト」は 3 回目となった。【共】 (2) きものブレインとの連携を継続し、第 2 回次世代きもの和音のデザインコンペを実施した。【共】 (3) 文化庁アーカイブ関連事業の 2 年度目を推進した。新たに(株)エイコージマとの連携による「よさこい衣装デザインコンペ」を実施し、平成 30 年 2 月 9 日に表彰式を行った。(株)三松との連携によって、東京ドームで開催される「世界らん展日本大賞」の中でのショーに、学生のコーディネイト・ヘアメイク・モデルによる振袖 5 体が参加した。また、三松とは今後ツイッターを共同で展開していく予定である。【共】 5. 研究課題の公募を実現し、現在採択された 3 つの課題が進行中である。【共】
<p>次年度への 課題 (平成 30 年度)</p>	<p>平成 29 年度の各課題について、さらなる取り組みを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「和裁」「和裁Ⅰ」「和裁Ⅱ」コラボレーション科目をはじめとする授業の運営を継続・充実する。【共】 2. 和装関連科目の充実を図る。【大】 3. ゆかたウィーク、勝手にキモノの日、着付教室と茶話会、研究会などのイベントを継続開催する。【共】 4. 外部との連携強化を図る。【共】 <ol style="list-style-type: none"> (1) 学生きものデザインコンテストは一旦終了となるので、これまで培ったノウハウを生かせる道を探りたい。 (2) 次世代きもの和音デザインコンペを継続する。 (3) 三松とのコラボレーション・ツイッターを継続・展開する。 5. 共同研究拠点の下部組織として、共同研究の推進を図る。このため、研究課題の公募を継続する。【共】

事 務 局

■ 検討組織名：研究協力室

報告者：中山 明彦

提出日：平成 30 年 4 月 1 日

<p>本年度の課題 (平成 29 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 科研費等による研究振興 科学研究費助成事業の応募件数及び採択件数を増やすことにより、研究活動を振興する。また、各省庁、財団等の研究助成金公募に注力し、外部資金導入による研究活動を振興する。 2. 研究戦略検討会の報告書を踏まえた研究振興 研究戦略検討会の報告書を踏まえて、研究活動の振興を図る。 3. 研究活動不正防止のための協力業務 研究活動不正防止のためのコンプライアンス教育等をサポートする。 4. 学内研究活動に関わる協力業務 学内研究発表会、教員研究作品等の研究活動をサポートする。 【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 科研費等による研究振興 平成 29 年度の科学研究費助成事業は、11 件の応募のうち 2 件の採択であった。平成 30 年度の科学研究費助成事業は、科研費の審査方法・研究計画調書についての説明会（7 月 26 日）、公募に関する周知・説明会の開催（9 月 20 日）・研究計画調書の精査等を行い、12 件の応募があった。また、各省庁、財団等の研究助成金の公募に関する周知を行い外部資金の導入に努め、守谷育英会研究助成金 1 件の採択があった。 2. 研究戦略検討会の報告書を踏まえた研究振興 研究戦略検討会の報告書では、本学の研究を促進する戦略的研究テーマとして、従来から研究実績のある「服装の機能」「服装の材料」を生かすことが有効であると提案された。その提案を踏まえて、本学の研究実績の蓄積を効果的に活用する取組みをするために、プロジェクトチームを結成して私立大学研究ブランディング事業の申請に向けて検討・協議を行った。5 回の会議と、会議以外でのメール等での検討を進めた結果として、「教育研究成果の社会活用を促進するファッションデータバンクの構築」のテーマで申請した。 3. 研究活動不正防止のための協力業務 「文化学園大学・文化学園大学短期大学部 研究活動の不正防止及び公正性を確保するための規程」に基づいて、コンプライアンス研修会（6 月 20 日）・研究倫理研修会（7 月 11 日）を開催し、それらへの事務サポートを行った。また、平成 30 年度の不正防止対策のために、「学生用研究倫理リーフレット」「データの保存等に関する内規」を作成した。 4. 学内研究活動に関わる協力業務 第32回教員研究作品展（6 月 9 日～11日）及び第 51 回学内研究発表会（服装学部・造形学部）、第15回学内研究発表会（現代文化学部）（9 月20日）の協力業務を行った。 【共】
<p>次年度への 課題 (平成 30 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 科研費等による研究振興 科学研究費助成事業の応募件数及び採択件数を増やすことにより、研究活動を振興する。また、各省庁、財団等の研究助成金公募に注力し、外部資金導入による研究活動を振興する。 2. 研究委員会の事務局としての研究振興 新たに組織される研究委員会の事務局として、研究振興をサポートする。 3. 研究活動不正防止のための協力業務 研究活動不正防止のためのコンプライアンス教育等をサポートする。 4. 学内研究活動に関わる協力業務 学内研究発表会、教員研究作品等の研究活動をサポートする。 【共】

■検討組織名：研究協力室

開催年月日	会議等の開催記録
平成 29 年 4 月 12 日	第 1 回 私立大学研究ブランディング事業会議 1. 私立大学研究ブランディング事業の申請に向けて
平成 29 年 4 月 25 日	第 2 回 私立大学研究ブランディング事業会議 1. 私立大学研究ブランディング事業の素案
平成 29 年 5 月 9 日	第 3 回 私立大学研究ブランディング事業会議 1. 私立大学研究ブランディング事業の WG メンバーによる提案の統合
平成 29 年 5 月 17 日	第 4 回 私立大学研究ブランディング事業会議 1. 私立大学研究ブランディング事業申請書（案）について
平成 29 年 5 月 24 日	第 5 回 私立大学研究ブランディング事業会議 1. 私立大学研究ブランディング事業申請書の精査
平成 29 年 6 月 9 日 ～11 日	第 32 回 教員研究作品展 1. ファッション、工芸、絵画、彫刻、デザイン、建築等の教員の研究成果展示
平成 29 年 6 月 20 日	コンプライアンス研修会 1. 不正をした研究者への措置 2. 不正事例について（プール金、カラ出張等） 3. 不正事例の公表
平成 29 年 7 月 11 日	研究倫理研修会 1. 研究倫理とは 2. 研究不正行為とは 3. 不正行為の防止について 4. 研究倫理に関する本学の規程
平成 29 年 7 月 26 日	科学研究費助成事業説明会 1. 大幅に変更される科研費申請書の審査方法等について
平成 29 年 9 月 20 日	第 51 回 学内研究発表会、第 15 回学内研究発表会 1. 服装学部・造形学部の学内研究発表会 2. 現代文化学部の学内研究発表会
平成 29 年 9 月 20 日	科学研究費助成事業説明会 1. 大幅に変更された科研費申請書の様式、公募のポイント等について
平成 30 年 3 月 6 日	研究活動不正防止委員会 1. 不正行為への取組みの徹底に関する通知 2. 平成 29 年度の不正活動実施状況 3. その他

■ 検討組織名：全学 SD 委員会

報告者：清木 孝悦

提出日：平成 30 年 4 月 1 日

<p>本年度の課題 (平成 29 年度)</p>	<p>1. 学生募集に関する専門知識の獲得・蓄積とともに、理念の共有化を図る。 2. 「自己の探求」プログラムの効果を検証するとともに、休学・退学の防止のため、更なる対策を講じる。 3. 引き続き、教員の研究活動の振興、学生の支援体制の充実を図る。 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 学生募集に関する専門知識の獲得・蓄積はかなり行われてきており、理念の共有化が進んできた結果として、平成 30 年度入学者の増につながったと思われる。 2. 「自己の探求」プログラムを全学部学科の新入生に導入したが、先んじて導入した学部学科における効果を検証するまでには至っていない。引き続き、休学・退学などとの関係と検証するとともに、更なる対策を講じることが、平成 30 年度への課題である。 3. 日本私立大学協会等の研修会に職員を派遣し、他大学等の状況などの情報を学生支援体制の充実を図るための材料としているが、保護者等からの様々な申し出が増加しており、対応が課題となっている。 【共】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 30 年度)</p>	<p>1. 学生募集に関する専門知識の獲得・蓄積とともに、理念の共有化を図る。 2. 「自己の探求」プログラムの効果を実施時期を含めて引き続き検証するとともに、休学・退学の防止のため、更なる対策を講じる。 3. グローバル化に伴う課題の対策を講じる。 4. 引き続き、教員の研究活動の振興、学生の支援体制の充実を図る。 【共】</p>

開催年月日	会議等の開催記録
<p>平成 29 年 4 月 4 日</p>	<p>全学 FD・SD 研修会の実施 午前中は全教職員・非常勤講師を対象に、外部講師による「組織と個人で作ろう新しい時代の教育」と題した講演会を開催したほか、大学・各学部・事務局の方針の確認を行った。</p>
<p>平成 29 年 9 月 5 日</p>	<p>全学 FD・SD 研修会 秋の分科会の実施 教員・事務職員の混成グループで行い、『初年次教育のあり方—オリエンテーション、「自己の探求」プログラム、フレッシュマンキャンプなどの一連のプログラムの内容やその連携について、教員、職員のそれぞれの立場から意見交換と検討』、『現在あるシステムや行事で廃止にした方が良いと思われるものとその理由、また逆に望まれるもので、復活や新設をしたいものとその理由について意見交換と検討』の 2 つのテーマの討論を行い、活発な意見交換が行われた。</p>
<p>平成 30 年 3 月 29 日</p>	<p>事務局 SD 研修会の実施 平成 29 年度に実施された学外団体主催研修会に参加した職員は、予め事務局長あてに「学外団体主催研修会参加報告書」を提出した。内容は、特に印象に残った事項や本学で参考にしたい事項、検討したい事項等。 さらに、「1. 大学進学者をめぐる客観的状況 2. 本学の状況（定員割れの状況、2018 年度入学者確保の状況） 3. 私学助成の厳格化 4. 「私学助成の獲得努力」をテーマに事務局長が講演を行った。</p>

学 園 本 部

<p>本年度の課題 (平成 29 年度)</p>	<p>1. 給与制度の検討(教員評価制度、定年延長に伴う制度改革) 2. 受動喫煙防止策の検討(2020 年に向け受動喫煙ゼロを目指した取り組み)</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 給与制度の検討(教員評価制度、定年延長に伴う制度改革) 平成 28 年度の報告において「教員の評価制度の構築が困難であり、引き続き検討する」との報告を行ったが、平成 29 年度、メンバーを入れ替えて再スタートした給与制度検討委員会においても、今後、国の補助金の支給要件に「教員の評価制度があること」などが盛り込まれることなどから、制度の構築は必要との見解となった。引き続き、学園の教育目標にあった制度を検討し、「教育の質の向上」を目的とした教員評価制度を設計していきたい。また、定年延長に伴う給与制度のあり方の検討については、将来の 65 歳までの雇用を想定し継続的に審議していく。</p> <p>2. 受動喫煙防止策の検討(平成 34 年に向け受動喫煙ゼロを目指した取り組み)</p> <p>(1) 喫煙所縮小計画の策定 平成 29 年現在 9 カ所ある喫煙所の設置数を、平成 30 年 9 月までに 5 カ所、平成 31 年 9 月までに 3 カ所、平成 32 年 4 月までに 1 カ所とする計画を策定し、学園運営会議で承認を得た。キャンパス内の分煙の計画的整備により、受動喫煙の根本的解消を進めた。</p> <p>(2) 「文化学園受動喫煙ゼロキャンパス宣言」の発信 理事長名で宣言を発し、学園の姿勢を明確に示すとともに、受動喫煙による健康被害についての知識を学内に広め、一致協力して受動喫煙防止を推進するための意識の共有を進めた。</p> <p>(3) 喫煙所の整備</p> <p>① フェンスと植栽の設置 喫煙所の外周にフェンスと植栽を設置し、喫煙所の境界を明確にすることで非喫煙エリアでの喫煙抑制を図った。</p> <p>② ベンチの撤去 喫煙所からベンチを撤去し、長時間の喫煙を抑制。煙の発生量を抑えるとともに喫煙者自身の健康増進を図った。</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への課題 (平成 30 年度)</p>	<p>1. 学園の総合的な業務の効率化に向けての改革 2. 人事・給与制度改革 3. 学園創立 100 周年に向けた取り組み</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>

■ 検討組織名：学園本部総務部

開催年月日	給与制度検討委員会の開催記録
平成29年12月15日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 給与制度検討委員会 2. 人件費について現状説明 3. 課題の抽出と優先順位の検討
平成30年1月26日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 給与制度検討委員会 2. 課題の共有と意見交換、各種手当等の支給合計を共有

開催年月日	総合学生生活委員会受動喫煙ゼロキャンパス拡大委員会の開催記録
平成29年7月20日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文化学園総合学生生活委員会（受動喫煙ゼロキャンパス拡大委員会） 2. 受動喫煙ゼロキャンパスに向けた取り組みについて、課題の抽出方法の検討
平成29年9月11日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 喫煙所からベンチを撤去
平成29年9月13日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受動喫煙ゼロキャンパスに向けた取り組みについて、 2. 平成29年～平成32年のロードマップを全学にメール配信
平成29年10月19日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文化学園総合学生生活委員会（受動喫煙ゼロキャンパス拡大委員会） 2. 各部署から提出された受動喫煙ゼロキャンパス取り組み案の共有、意見交換 3. 喫煙所のベンチ撤去状況確認 4. 喫煙所への植栽・フェンス設置計画の検討 5. 学園方針の学生への周知方法の検討 6. 受動喫煙学内アンケート結果報告
平成29年10月19日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学学生会との意見交換
平成29年10月23日	<ol style="list-style-type: none"> 1. サテライトキャンパス他、遠隔勤務地の喫煙所設置状況の調査
平成29年10月29日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 喫煙所にフェンス・植栽設置
平成30年1月1日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受動喫煙ゼロキャンパス宣言 2. 啓発ポスター掲示
平成30年2月15日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文化学園総合学生生活委員会（受動喫煙ゼロキャンパス拡大委員会） 2. 受動喫煙ゼロキャンパス方針の新年度オリエンテーションでの周知について 3. 巡回指導について 4. 喫煙所の廃止箇所の検討 5. 各部署での取り組みの共有
平成30年2月16日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学園運営会議 2. 喫煙所廃止案の提出、承認 3. 巡回指導への協力依頼

<p>本年度の課題 (平成 29 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 28 年度に引き続き、各建物の利用計画に基づいた教育環境の整備を行う。 2. 防災監視盤の老朽化と部品供給停止に伴う更新計画を行い、学生生活の安全を確保する。 3. 非構造部材耐震調査結果による中長期改修計画を行い、学生生活の安全を確保する。 4. 引き続き耐用年数に応じた冷暖房熱源設備の中長期計画を予算化し、実施する。 5. 引き続き国際学生会館の統一管理標準と入寮募集活動の強化に努める。 6. 空調監視システム更新 5 年計画のステップ 4 を実施し、安定的な教育環境の整備を行う。 7. 水銀含有製品に対する輸入・製造・輸出禁止問題の情報収集に努める。 8. 老朽化した D 館エレベーターのリニューアル工事を行い、学生生活の安全を確保する。 9. 施設開発部と連携を図り、H 館解体作業時のキャンパス全体及び近隣に対する安全対策を構築する。 10. 産業廃棄物の削減と再資源化の広報活動を継続的に推進する。 【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各建物の利用計画に基づいた教育環境の整備 <ol style="list-style-type: none"> (1) 受変電設備の制御電源及び非常電源（バッテリー）装置の計画的更新を開始した。 (2) ABC 館の天井及び設備器具等の清掃 5 年計画を終了し、教育環境の改善に努めた。 (3) ABC 館の天井埋設空調機の老朽化と特注生産機器であることから、オーバーホール10年計画のスタートと緊急時に備えて予備機器の確保を行った。 (4) 季節折々の草花年間計画を実施して、キャンパスの美化と近隣との協調を図った。 2. 防災監視盤の老朽化と部品供給停止に備えて、防災監視盤と関連システムの更新により学生生活の安全を確保した。 3. 初台国際学生会館の外壁改修計画及び特定天井について耐震調査の予算化を図った。 4. F 館の空調機の老朽化と機器生産中止に伴い、熱源単独化による機器更新計画工事をスタートした。 5. 月例寮長会議及び各校担当当事者会議により、寮の統一管理と募集活動の強化に努めた。 6. 空調監視システム更新 5 年計画のステップ 4 を終了し、最終年度に備えて教育環境の空調監視及び制御精度を高めた。 7. 水銀含有製品（蛍光灯等）に対する輸入・製造・輸出禁止問題の情報収集に努め、LED 化による費用対効果を検討した。 8. D 館エレベーターのリニューアル工事を完了し、教育施設の安全を確保した。 9. H 館解体工事定例会に参画し、キャンパス全体と近隣の安全対策に努めた。 10. 産業廃棄物の再利用と再資源化を継続的に推進し、渋谷区条例による可燃ごみの再利用率を 80% に設定し、紙専用ごみ箱を段階的に設置し利用率を上げた。 小平キャンパスの在庫什器備品の再利用の広報を行い、新規購入を抑えて再利用化運動に努めた。 【共】
<p>次年度への課題 (平成 30 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各建物の利用計画に基づいた教育環境及び施設の維持と安全対策を行う。 2. PCB 特別措置法に基づく含有機器の処分計画を構築する。 3. 国際学生会館の統一管理標準に基づき、入寮募集活動の強化に努める。 4. 蛍光灯ランプの水銀含有製品に対する輸入・製造・輸出禁止問題の情報収集に努める。 5. 産業廃棄物の削減及び再資源化の広報活動を推進する。 6. キャンパスの美化整備事業計画を推進する。 7. 高効率機器への更新計画と省エネルギー対策の事業計画を推進する。 8. 老朽化したエレベーターのリニューアル計画を策定して学生生活の安全を確保する。 【共】

■ 検討組織名：学園本部経理部

報告者：秋元 雅則

提出日：平成 30 年 4 月 2 日

<p>本年度の課題 (平成 29 年度)</p>	<p>1. 「文化学園財務・経理規程」の改正を行う。 2. 学園の「資金収支中長期財務計画」を策定するとともに、変化する経営環境に的確に対応してゆく。 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 「文化学園財務・経理規程」及びそれに付随する細則等について検討を行っている。 2. 学園の「資金収支中長期財務計画」を策定した。 【共】</p>
<p>次年度への 課題 (平成 30 年度)</p>	<p>1. 「文化学園財務・経理規程」の改正を行い、必要な細則も検討を重ねる。 2. 学園の「資金収支中長期財務計画」を基に、教育・経営環境の変化に対応し財務基盤の充実を図る。 【共】</p>

■検討組織名：IT委員会（IT戦略室）

報告者：淵上 和子

提出日：平成30年4月2日

<p>本年度の課題 (平成29年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教職カルテシステムを完成させる。 2. 次期証明書発行機・学生証発行システムの検討をはじめめる。 3. 平成29年8月に、大学A館11階から地下までの各教室に無線LANサービスを開始予定。 4. 引き続き、ICTを利用した授業支援の提案に努める。 【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各Webシステムの開発により、教職カルテシステムも本格稼働する事ができた。教員の直接入力が可能になるなど、利便性の向上を図ることができた。 2. 学生証発行は、再発行共に受発注をWebで行えるシステムへ変更し、事務局での発行が可能になった。カード媒体のIC化により、セキュリティの向上及び、ICカード利用による学内サービス拡張の準備が整った。 3. A館1階から11階までの各教室に無線LANサービスを開始した。2年計画でA館は1階から21階まで無線サービスを整備することができた。また、G館とF館にも仮設した。 4. Webシステムの中で利用頻度の高い、メール配信機能に修正を加え、教職員の利便性を図った。 【共】
<p>次年度への課題 (平成30年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生証のIC化を継続して進める。 2. 次期証明書発行システムの検討を続ける。 3. 卒業判定処理における、業務改善及びシステム改変を検討する。 4. 引き続き、ICTを利用した授業支援の提案に努める。 【共】

開催年月日	会議等の開催記録
<p>平成29年9月26日 平成29年10月19日 平成29年11月20日</p>	<p>1. 新学生証発行システム及び学生証ICカード化 打合せ</p>
<p>平成29年9月7日 平成30年2月6日</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成29年度の経過報告と次年度の計画 2. 平成30年度の計画とパソコン教室入れ替えについて

附： 委員会委員一覧表
学部・学科・コース編成
入学定員・収容定員・在籍学生数
全学自己点検・評価委員会委員名簿

平成 29 年度 文化学園大学・文化学園大学短期大学部委員会委員一覧表

平成 30 年 1 月 1 日

[常置委員会]

◎委員長 ○副委員長 △書記 (敬称略・順不同)

		教 務	学生支援	研 究	入試対策	就 職
1	服装造形学 生産工学 和裁	◎千葉 悦子	△曾我 陽子 大橋 寛子 (7月~)	田島 成二	砂長谷由香	○伊藤由美子
2	短大部ファッション学科	木全 秀美	小出 恵	後藤 望	野沢さおり	佐藤 綾
3	服装デザイン学、服飾工芸 ファッション画 テキスタイル、 機能デザイン学 服飾文化共同	柚本 玲	須田 理恵	横田香野子	小林 未佳	中西 教夫
4	服装社会学、服装史学 服飾文化共同 和装文化研究所	△田中 里尚	申 恩泳	○糸林 誉史	○福田 博美	北方 晴子
5	染織、金工 グラフィック・プロダクト デザイン・映像 絵画、基礎造形 造形・色彩学	北浦 肇	○白井 信	嘉松 聡	春田 幸彦	庄司喜久美
6	建築デザイン 住生活デザイン インテリアデザイン	松田 純子	横山 稔	△渡邊 裕子	久木 章江	井上 搖子
7	総合教養・国際文化観光 A 外国語・国際文化観光 B 日本語・国際文化観光 C 教育学・体育学、調理学、 博物館学 和装文化研究所	岡島 奈音	小山 真理	梶谷 哲也	安藤 葉子	ロバート・ヒックリソグ*
8	総合教養・国際文化観光 A 外国語・国際文化観光 B 日本語・国際文化観光 C 教育学・体育学	小川 祐一	栗山 丈弘	中沢 志保	△星 圭子	三島 万里
9	国際ファッション 応用健康心理学	○梶田 貴子	根本賀奈子	◎安永 明智	◎佐藤 浩信	柴田 早苗
10	教務部 学生部 就職相談室	二茅みゆき	宮本 朱		酒井 城司	△吉田 和代
学 長 指 名		松原 詩緒	◎佐藤百合子 酒井 城司	高野 博子 中山 明彦	高橋 正樹 清水 美里 清木 孝悦 相澤 浩子	矢中 睦美 ◎丸茂みゆき

[特別委員会]

全学自己点検・評価	全学FD	研究倫理	研究公正	研究活動不正防止	ハラスメント防止	障害学生支援
◎渡邊 秀俊 ○瀬島健二郎 △押山 元子 伊藤由美子 下山かおり 永野 順子 申 恩泳 磯崎 明美 沼尻 七子 北浦 肇 杉田秀二郎 清木 孝悦 円谷 葉子 二茅みゆき 高野 博子 藤澤 千晶	◎星野 茂樹 ○スワット チャロンボソワーニッチ △村上 剛規 白井菜穂子 金川 孝義 長山 洋子 渡部 旬子 遠藤 典子 北岡 竜行 清木 孝悦 円谷 葉子 酒井 城司 吉田 和代	◎野口 京子 ○米山 雄二 永富 彰子 堀尾真紀子 青柳 宏 渡邊 秀俊 永井 伸夫 本間 博 佐藤真理子 清木 孝悦 △円谷 葉子 中山 明彦	◎野口 京子 清木 孝悦 永富 彰子 堀尾真紀子 青柳 宏 浅沼 由紀 近藤 尚子 永井 伸夫 原島 陽一 田村 照子 円谷 葉子 中山 明彦	◎野口 京子 ○米山 雄二 永富 彰子 堀尾真紀子 青柳 宏 小柴 朋子 近藤 尚子 浅沼 由紀 清木 孝悦 小林 哲夫 小池 雅己 友利 光夫 △円谷 葉子 中山 明彦	◎永野 順子 ○三島 万里 △千葉 悦子 安高 信一 鹿島 和枝 円谷 葉子 酒井 城司 吉田 和代 相談員 平良木啓子 北浦 肇 七里 真代 星 圭子 柴田 早苗 小出 恵 宮本 朱	◎野口 京子 ○本間 博 古屋 和雄 平野 律子 酒井 城司 円谷 葉子

[学部専門委員会]

衣料管理士課程	建築・インテリア系資格	文化・語学研修	日本語教員養成課程	紀要編集
◎矢中 睦美 ○由利 素子 △須田 理恵 永井 伸夫 小林 未佳 角田 薫	◎谷口久美子 ○浅沼 由紀 △曾根 里子 渡邊 秀俊 横山 稔	◎加藤 薫 ○佐藤 浩信 △米田 紀子 久保田 文 ジョン・デビッド・オエ	◎齊藤真理子 ○加藤 薫 △星 圭子 白井菜穂子	◎高村 是州 ○中沢 志保 △曾根 里子 △吉田 昭子 瀬島健二郎 古屋 則子 鳥海 薫 佐藤真理子 根本賀奈子 井口 彰子 田中 直人 松原 詩緒

[課程専門委員会]

教職課程	学芸員課程	司書課程
◎福井 路可 ○森谷 直樹 △五十嵐清子 永野 順子 鳥海 薫 中島 敬子	◎佐藤 正明 △田中 直人 植木 淑子 岡島 奈音	◎瀬島健二郎 △吉田 昭子

図書館	国際交流	IT委員会 大学小
◎申 恩泳 ○佐藤真理子 三島 万里 鹿島 和枝 嘉松 聡 深沢 祥代 二茅みゆき	◎青柳 宏 ○永富 彰子 堀尾真紀子 石田名都子 古御堂誠子 三國 純子 古屋 則子 清木 孝悦 柿島 由雄 円谷 葉子 △二茅みゆき	◎スワット チャロンボ ソラニッチ ○渡邊 秀俊 △野沢さおり 濱田 勝宏 柳田 佳子 白井 信 村上 剛規 岡林 誠士 円谷 葉子 山川あづさ

学部・学科・コース編成 (平成 29 年度)

文化学園大学大学院

生活環境学 研究科	被服環境学専攻 (博士後期課程)	
	被服学専攻 (博士前期課程)	アドバンストファッションデザイン テキスタイルデザイン学専修 服装機能学専修 服装社会学専修
	生活環境学専攻 (修士課程)	生活造形学専修 建築・インテリア学専修
国際文化 研究科	国際文化専攻 (修士課程)	国際文化専修 国際ファッション文化専修
		健康心理学専修

文化学園大学

服装学部	ファッションクリエイション学科	
	服装造形学科	クリエイティブデザインコース 機能デザインコース アドバンストテクニクコース インダストリアルテクニクコース ブランド企画コース テキスタイル企画コース
	ファッション社会学科	
	服装社会学科	服装社会学コース ファッションビジネスコース 服飾文化史コース グローバルファッションマネジメントコース
造形学部	デザイン・造形学科	映像クリエイションコース グラフィック・プロダクトデザインコース メディア編集デザインコース テキスタイルワークコース ジュエリー・メタルワークコース アートワークコース
	建築・インテリア学科	インテリアデザインコース 建築デザインコース 住生活デザインコース
現代文化学部	国際文化・観光学科	
	国際ファッション文化学科	スタイリスト・コーディネーターコース プロデューサー・ジャーナリストコース 映画・舞台衣装デザイナーコース
	応用健康心理学科	

文化学園大学短期大学部

ファッション学科	2 年次	ファッションビジネスコース ファッションクリエイティブコース ファッションプロモーションコース
専攻科	ファッション専攻	

入学定員・収容定員・在籍学生数 (平成 29 年 5 月 1 日現在)

文化学園大学大学院

研究科名	専攻名	入学定員	収容定員	現員
生活環境学	被服環境学（博士後期）	2	6	9
	被服学（博士前期）	20	40	40
	生活環境学（修士）	6	12	16
国際文化	国際文化（修士）	6	12	9

文化学園大学

学部名	学科名	入学定員	収容定員	現員
服装	ファッションクリエイション※1	360	720	471
	服装造形※1	360	760	464
	ファッション社会※2	140	280	246
	服装社会※2	140	300	288
造形	デザイン・造形	120	555	377
	建築・インテリア	120	505	326
現代文化	国際文化・観光	30	140	110
	国際ファッション文化	120	450	481
	応用健康心理	30	135	40

※1 服装造形学科は、平成 28 年 4 月よりファッションクリエイション学科に名称変更

※2 服装社会学科は、平成 28 年 4 月よりファッション社会学科に名称変更

文化学園大学短期大学部

学科名	専攻名	入学定員	収容定員	現員
ファッション	—	80	200	120
専攻科	ファッション	20	20	0

全学自己点検・評価委員会 委員名簿 (平成 29 年度)

委員 長	渡邊 秀俊
副委員長	瀬島健二郎
書 記	押山 元子
	伊藤由美子
	下山かおり
	永野 順子
	申 恩泳
	磯崎 明美
	沼尻 七子
	北浦 肇
	杉田秀二郎
	遠藤 啓 (平成 29 年 12 月 31 日まで)
	清木 孝悦 (平成 30 年 1 月 1 日から)
	円谷 葉子
	二茅みゆき
	高野 博子
	藤澤 千晶

文 化 学 園 大 学
文化学園大学短期大学部
自己点検・評価報告書 -平成29年度-

平成30年10月1日発行

編集：文化学園大学 文化学園大学短期大学部
全学自己点検・評価委員会